

[031]報告

郭, 俊海
九州大学留学生センター : 教授

大神, 智春
九州大学留学生センター : 教授

脇坂, 真彩子
九州大学留学生センター : 准教授

柴田, あづさ
九州大学留学生センター : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/6783295>

出版情報 : 九州大学留学生センター紀要. 31, pp. 63-166, 2023-03. 九州大学留学生センター
バージョン :
権利関係 :



部門・コースの活動報告2023

九州大学留学生センター

(報 告)

基幹教育の日本語	郭 俊海・大神智春・脇坂真彩子	… 63
日本語研修コース	大 神 智 春	… 71
Japanese Academic Courses (JACs) / 言語文化基礎科目・日本語	脇坂真彩子・柴田あづさ	… 79
留学生を対象にした日本文学の授業	斉 藤 信 浩	… 95
補講コース・日本語 (JTCs)	斉 藤 信 浩	… 103
農学部・工学部の学士課程国際コース生に対する日本語教育 —— 2022年度の実施状況 ——	柴 田 あづさ	… 111
筑紫・大橋地区日本語コース —— 2022年度 ——	小 山 悟	… 115
日本語・日本文化研修コースの報告 (第22期生)	郭 俊 海	… 119
2021年度 “AsTW2022” 実施報告	生 田 博 子	… 125
Summer in Japan (SIJ) 2022 オンラインプログラム実施報告	野中ちさと・木下博子・楠木理香・矢野莉早	… 129
九州の自然・歴史・文化を学ぶ～ JTW Field Trips 2022	今 井 亮 一	… 139
2021年度 九州大学留学生センター・留学生指導部門報告 (カウンセリング関係)	高 松 里	… 151
令和4年度スーパーグローバル大学創成支援事業 学部生・大学院生共通基幹教育科目「世界が仕事場Ⅰ&Ⅱ」	生 田 博 子	… 161
留学生センター FD 会2022	今 井 亮 一	… 165

基幹教育の日本語

Report on the Fundamental Subjects for Language and Culture/Japanese

郭 俊 海*

大 神 智 春*

脇 坂 真彩子**

1. はじめに

基幹教育では、「学び方、考え方を学ぶ」姿勢の涵養こそが学問追求の基本であるという観点に立ち、自ら問いを立て主体的な学びのできるアクティブ・ラーナーを育成することを目標として掲げている。基幹教育院のマネジメントのもと、全学出動態勢で教育が行われている。学部留学生が対象の「日本語」は、基幹教育院教員を班長とする日本語班において、留学生センターの日本語教育部門の教員と連携して、授業運営を行っている。

基幹教育の「日本語」は言語文化科目・言語文化基礎科目に分類されている。平成31年4月から、基幹教育の日本語は留学生センターの日本語コース（JACs: Japanese Academic Courses）と一本化され、言語文化基礎科目・日本語（Fundamental Subjects for Language and Culture/Japanese）として開講されている。

2. 令和4年度の実施概要

2. 1. 開講科目及び履修方法

「日本語」のカリキュラムは、四技能（聞く・話す・読む・書く）を段階的にバランスよく伸ばし、大学の学士課程で学術活動を行えるレベルの日本語の運用能力を身につけられるように編成されている。1年生においては、様々な話題を取り上げ、文法や語彙の学習、読解や作文練習、口頭発表やディスカッション等を行う。2年生以上においては、より抽象度の高い専門的なテーマを取り上げ、読解やディスカッション、アカデミック・ライティングの実践等を通して、より高度な日本語運用能力を身につけることを目指す。

4月入学の全学部1年生は「基幹教育科目（日本語Ⅰ～Ⅳ）」、2年生以上は「基幹教育科目（日本

*九州大学留学生センター教授

**九州大学留学生センター准教授

語Ⅴ～Ⅶ)」を履修することとなっている。「日本語」を細分類すると表1のようになる。

共創学部10月入学生は、総合日本語（Japanese Integrated）、漢字（Japanese Kanji）、会話（Japanese Speaking）、作文（Japanese Writing）の4コースから必要単位数分の授業を選択し履修することになっている（表2）。

基幹教育科目の日本語を履修するには、通常の履修登録に加えて、授業開始前にかねらず専用のシステムへの受講登録が必要であり、春学期と秋学期の開始前に、基幹教育教務係を通じて学生へ周知している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みてオンラインで授業を開始し、学生の渡日状況に合わせて、オンライン授業から対面授業へ移行した。その後はオンライン授業に備えながら対面を基本として授業を行った。

表1 学部正規留学生対象日本語科目一覧及び開講学期¹

科目名	単位数	開講学期					
		1年前期		1年後期		2年前期	
		春	夏	秋	冬	春	夏
日本語Ⅰ（J1-6A）	1	○					
日本語Ⅱ（J1-6B）	1		○				
日本語Ⅲ（J1-7A）	1			○			
日本語Ⅳ（J1-7B）	1				○		
日本語Ⅴ（J1-8A）	1					○	
日本語Ⅵ（J1-8B）	1						○
日本語Ⅶ（JW-8A）	1					○	

表2 共創学部10月入学生対象日本語科目一覧及び開講学期

コース レベル		I		K		S		W	
		Japanese Integrated （総合コース） 各1単位		Japanese Kanji （漢字コース） 各1単位		Japanese Speaking （会話コース） 各1単位		Japanese Writing （作文コース） 各1単位	
		春・秋 学期	夏・冬 学期	春・秋 学期	夏・冬 学期	春・秋 学期	夏・冬 学期	春・秋 学期	夏・冬 学期
1	Japanese 1 / 入門	JI-1A	JI-1B	JK-1+2A	JK-1+2B	-	-	-	-
2	Japanese 2 / 初級1	JI-2A	JI-2B			JS-2A	JS-2B	-	-
3	Japanese 3 / 初級2	JI-3A	JI-3B	JK-3A	JK-3B	JS-3A	JS-3B	-	-
4	Japanese 4 / 中級入門	JI-4A	JI-4B	JK-4A	JK-4B	JS-4A	JS-4B	-	-
5	Japanese 5 / 中級1	JI-5A	JI-5B	JK-5A	JK-5B	JS-5A	JS-5B	JW-5A	JW-5B
6	Japanese 6 / 中級2	JI-6A	JI-6B	JK-6A	JK-6B	JS-6A	JS-6B	JW-6A	JW-6B
7	Japanese 7 / 上級入門	JI-7A	JI-7B	JK-7A	JK-7B	JS-7A	JS-7B	JW-7A	JW-7B
8	Japanese 8 / 上級	JI-8A	JI-8B	JK-8A	JK-8B	JS-8A	JS-8B	JW-8A	JW-8B

1 『2021年度入学者用 基幹教育履修要項』113頁より抜粋

2. 2. 単位履修のオリエンテーション

毎年4月の一週目に、新入学部留学生（共創学部生も含む）を対象に、基幹教育の言語文化基礎科目・日本語科目の履修方法、科目登録及び日本事情に関するオリエンテーションを実施している。また、秋学期開始前には、共創学部10月入学生及び工学部・農学部学士課程国際コース（International Undergraduate Programs in English（以下 IUPE））の学生を対象にオリエンテーションを実施している。

令和4年度4月は新型コロナウイルス感染拡大による影響があったものの、センター2号館で対面式のオリエンテーションを実施した。また、オリエンテーション後も、問い合わせがあった学生に対して、適宜履修に関する指導や対応を行った。共創学部10月入学生と IUPE 生に対しても、対面でオリエンテーションを実施した。

2. 3. 単位の取り方

基幹教育科目では、第1・第2外国語の選択は平成25年以前と大きく異なり、大半の学部では「日本語」は基本的に第2外国語（文科系5単位、理科系4単位）に変わった。なお、学部・学科別の第1・第2外国語の指定及び修得単位数は以下のようになっている（表4・5）。

【共創学部以外の外国人留学生対象】

日本語を第1・第2外国語に選択した場合は、所属学部・学科の卒業単位数を満たすように、原則として次のよう履修させることにしている（表3）。

表3 日本語の履修

科目名	単位	開講学期	修得上限単位	再履修の仕方
日本語Ⅰ（J1-6A）	1	1年春	1	日本語Ⅰを再履修すること
日本語Ⅱ（J1-6B）	1	1年夏	1	日本語Ⅱを再履修すること
日本語Ⅲ（J1-7A）	1	1年秋	1	日本語Ⅲを再履修すること
日本語Ⅳ（J1-7B）	1	1年冬	1	日本語Ⅳを再履修すること
日本語Ⅴ（J1-8A）	1	2年春	1	日本語Ⅴを再履修すること
日本語Ⅵ（J1-8B）	1	2年夏	1	日本語Ⅵを再履修すること
日本語Ⅶ（JW-8A）	1	2年春	1	日本語Ⅶを再履修すること

表4 単位の取り方と卒業必要単位数（履修例）²

卒業要件 単位数	基本的な単位の取り方		
	1 年前期	1 年後期	2 年前期
2 単位 必要な場合	日本語Ⅰ・Ⅱから 2 単位分履修		
4 単位 必要な場合	日本語Ⅰ・Ⅱから 2 単位分履修	日本語Ⅲ・Ⅳから 2 単位分履修	
5 単位 必要な場合	日本語Ⅰ・Ⅱから 2 単位分履修	日本語Ⅲ・Ⅳから 2 単位分履修	日本語Ⅴから 1 単位分履修
6 単位 必要な場合	日本語Ⅰ・Ⅱから 2 単位分履修	日本語Ⅲ・Ⅳから 2 単位分履修	日本語Ⅴ・Ⅵから 2 単位分履修
7 単位 必要な場合	日本語Ⅰ・Ⅱから 2 単位分履修	日本語Ⅲ・Ⅳから 2 単位分履修	日本語Ⅴ・Ⅵ・Ⅶから 3 単位分履修

留学生の第1・第2外国語の選択では、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国語・スペイン語の7つの言語と日本語の中から選択できる。なお、日本語を第1・第2外国語に選択した場合は所属学部・学科の卒業単位数を満たすように履修しなければならないとしているが、特例として、所属学部が認める場合は、英語を第1外国語に指定する学部・学科においても英語を第2外国語とし、英語以外の言語を第1外国語にすることができる（表5参照）。また、その場合は、第1外国語と第2外国語のそれぞれの修得単位数を定めず、両者を合わせて12単位を修得することができるとしている。

第1・第2外国語の履修の特例を認める学部は、共創学部（10月入学者のみ）、教育、法、理、医、歯、薬、工、農学部である。文、経済、芸術工については、特例のケースは認めていない。

表5 学部・学科別の第1・第2外国語の指定及び修得単位数³

学部		区分	履修言語	1 年次	2 年次 以降	修 得 単位数
共創学部	4 月入学者	第 1 外国語	英語	10	2	12
		第 2 外国語	初修外国語	4	0	4
	10月入学者	第 1 外国語	日本語	8	4	12
		第 2 外国語	英語又は初修外国語 ^(※)	4	0	4
文学部 (右の 2 パターンから選択)		第 1 外国語	英語	4	3	7
		第 2 外国語	初修外国語	4	1	5
		第 1 外国語	初修外国語	4	3	7
		第 2 外国語	英語	4	1	5
文学部 (国際コース)		第 1 外国語	英語	10	2	12
		第 2 外国語	初修外国語	4	1	5

2 『2022年度入学者用 基幹教育履修要項』112頁より抜粋。

3 『2022年度入学者用 基幹教育履修要項』102頁より抜粋。

※第2外国語は第1外国語で履修する言語を除き、主となる母語以外の言語を履修する。

教育・法・経済学部	第1外国語	英語	4	3	7
	第2外国語	初修外国語	4	1	5
理・医・工・芸術工・農学部	第1外国語	英語	4	4	8
	第2外国語	初修外国語	4	0	4
歯・薬学部	第1外国語	英語	4	6	10
	第2外国語	初修外国語	2	0	2

このような複雑な履修方法のため、従来、学務部基幹教育課と留学生センターの日本語教育部門・留学生指導部門が共同で実施する新入生オリエンテーションで、留学生のみを集めて履修解説を行っている。

2. 4. 受講者数

本年度の「日本語」の延べ受講者数は計92名（前期46名、後期46名）であった。以下に、所属学部別と履修科目別の内訳を示す。なお、一部の学生については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入国制限の影響で渡日が遅れ、学期開始直後は海外からオンライン授業を受講することとなった。

前期（春夏学期）

受講者：34名
延べ受講者：38名

所属学部	(名)
医学部	1
教育学部	1
経済学部	8
芸術工学部	1
工学部	6
農学部	8
文学部	1
理学部	2
共創学部（4月入学生）	1
共創学部（10月入学生）	5

（履修科目別）

科目名	(名)
日本語Ⅰ・日本語Ⅱ	20
日本語Ⅴ・日本語Ⅵ	8
JI-3A・JI-3B	1
JI-6A・JI-6B	1

後期（秋冬学期）

受講者：31名
延べ受講者：43名

所属学部	(名)
医学部	1
経済学部	2
芸術工学部	1
工学部	6
農学部	5
文学部	1
理学部	2
共創学部（4月入学生）	0
共創学部（10月入学生）	13

（履修科目別）

科目名	(名)
日本語Ⅲ・日本語Ⅳ	18
JI-1A・JI-1B	1
JI-2A・JI-2B	2
JI-3A・JI-3B	2

JI-7A・JI-7B	1
JI-8A・JI-8B	2
JK-3A・JK-3B	1
JK-4A・JK-4B	1
JK-7A・JK-7B	1
JK-8A・JK-8B	1
JS-6A・JS-6B	1

JI-4A・JI-4B	4
JI-5A・JI-5B	1
JI-7A・JI-7B	1
JI-8A・JI-8B	1
JK-1+2A・JK-1+2B	4
JK-3A・JK-3B	1
JK-4A・JK-4B	1
JK-5A・JK-5B	1
JK-8A・JK-8B	1
JS-2A・JS-2B	1
JS-4A・JS-4B	1
JS-5A・JS-5B	2
JS-7A・JS-7B	1

2. 5. 時間割

時間割は表6の通りである。前期（春夏学期）、後期（秋冬学期）ともに同様の時間割となっており、各コースとも1週間に2回のクォーター制で開講されている。初級～初中級向け Japanese: Integrated (JI-1～JI-4) については、IUPE 生向けクラスと共創生向けクラスに分割し、きめ細かい指導が行えるようにしている。

表6 時間割⁴

時限	火	水	木	金
1	JI-1 JI-2 JI-3 JI-4	JI-1 JI-2 JI-3 JI-4 JW-5 JW-6 JW-7 JW-8／日本語Ⅶ	JI-1 JI-2 JI-3 JI-4	JI-1 JI-2 JI-3 JI-4 JW-5 JW-6 JW-7 JW-8／日本語Ⅶ
4	JS-2 JS-3 JS-4 JS-5 JS-6 JS-7 JS-8	JK-1+2 JK-3 JK-4 JK-5 JK-6 JK-7 JK-8	JS-2 JS-3 JS-4 JS-5 JS-6 JS-7 JS-8	JK-1+2 JK-3 JK-4 JK-5 JK-6 JK-7 JK-8
5		JI-5 JI-6／日本語Ⅰ・Ⅱ JI-7／日本語Ⅲ・Ⅳ JI-8／日本語Ⅴ・Ⅵ		JI-5 JI-6／日本語Ⅰ・Ⅱ JI-7／日本語Ⅲ・Ⅳ JI-8／日本語Ⅴ・Ⅵ

4 火曜日と木曜日に開講されている JI-1～JI-4 は IUPE 生を対象としており、水曜日と金曜日に開講されている JI-1～JI-4 は共創学部生を対象としている。

3. おわりに

留学生の中には、様々な理由で日本語の「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスが良くない学生が少なくない。特にレポートや論文などの文章作成や、日本語による口頭発表など応用面において問題がある学生が散見される。しかし、現在の履修規定では、正規留学生は日本語レベルにかかわらず、特定の科目を受講することになっているため、必ずしも自分の日本語レベルに合ったクラスを受講できる訳ではない。今後は教育効果をさらに高めるため、課題として、学期開始前にプレースメントテスト等を実施し、学生がレベルに合ったクラスを受講できるよう検討を継続していきたい。

また、「日本語」を第2外国語とした場合、大半は2単位或いは4単位しか必要がなくなる。卒業に向けての専門科目の学習は、日本語の力、特に聴く力と書く力がないとかなり難しいため、統合後のカリキュラムでどのように学生の実践的な日本語力の向上を図るべきかが課題である。また、高度な日本語力を持っている学生が、日本語学習のモチベーションを保ちつづけられるように、指導法の工夫もさることながら、履修規定の見直しなどの検討も引き続き必要である。

日本語研修コース

Japanese Training for Advanced Studies¹

大 神 智 春*

1. はじめに

日本語研修コースは、大学院に進学する予定の国費研究留学生を主な対象として、来日後の半年間日本語予備教育を集中的に行うコースである。日本語研修コース（以下研修コース）では、初級からの日本語教育、日本事情教育、専門教育の場への適応を促進するための活動、の3点を予備教育として行っている。目標は「会話を中心とした初級日本語を習得させること」、「研究の場において日本人と基本的なコミュニケーションができるようにすること」である。以下に令和3年度（2021年度）の実施状況を報告する。

2. 実施概要

令和3年度（2021年度）の研修コースの実施時期、主な日程は下記のとおりである。

- 1) 実施期間 前期 4月8日－8月24日（第72期）
 後期 10月5日－3月2日（第73期）

2) 主な日程

①前期

ゼロ初級者への平仮名指導（オンライン）	3月上旬に開始
第1回目オリエンテーション（オンライン）	3月中旬
第2回目オリエンテーション（オンライン）	3月下旬
授業開始	4月8日
開講式（オンライン）	4月12日
福岡防災センター&福岡タワーズアー	7月31日
発表会（オンライン）	8月5日

*九州大学留学生センター教授

1 令和2年度（2020年度）より、英語名を Japanese Training for Advanced Studies に変更した。

閉講式（オンライン）	8月24日
②後期	
ゼロ初級者への平仮名指導（オンライン）	9月上旬に開始
第1回目オリエンテーション（オンライン）	9月中旬
第2回目オリエンテーション（オンライン）	9月下旬
開講式（オンライン）	10月5日
授業開始	10月6日
発表会（オンライン）	2月10日
閉講式（オンライン）	3月2日

前期は7月まで学習者が渡日することができず7月上旬までオンライン授業を実施することになった。学習者渡日後は2週間ほど対面授業を行ったが新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い再びオンライン授業を行うことになった。既習者は当センターが開講する Japanese Academic Courses (JACs) を受講したが、学期を通してすべてオンライン授業となった。

後期については、学期中に学習者が渡日することができなかったため、未習者・既習者ともにすべてオンライン授業となった。

3) 受講者

前期は文科省の国費外国人留学生のうち北部九州地区の大学へ配属された研究留学生および九州大学に在籍する大学院生・研究生を対象にコースを開講した。後期は国費研究留学生のみが受講対象となった。

①前期 10名

前期はゼロ初級者が4名、既修者6名であった。既習者はJACsで総合コース、漢字コース、会話コースを受講した。

出身：インド、エジプト、タイ、中国（4名）、ブラジル、ブルガリア、モロッコ

進学先：九州大学10名

②後期 14名

14名中12名が九州大学に進学予定であり、2名が九州工業大学に進学予定であった。また、10名がゼロ初級者、4名が既習者であった。既習者はJACsで総合コース、漢字コース、会話コースを受講した。

出身：アメリカ、イギリス、インド、インドネシア（2名）、ガーナ、カメルーン、ザンビア、シリア、セネガル、パレスチナ、ブラジル（2名）、マレーシア

進学先：九州大学12名、九州工業大学2名

なお、後期に在籍していたアメリカの研修生は居住地域がハリケーンの被害を受けた上に家庭上の問題が生じたため12月末で当コースおよび国費研究留学生を辞退した。

4) 時間割

ゼロ初級コースについては、研修生の国の時差を考慮し、全コース午後に開講することにした（下記時間割）。既習者については、JACs で開講している 4 コースの中から 3 コース以上を受講することになっているため、時差的に可能なコースを受講させるようにした。

なお、ゼロ初級コースでは、対面授業で行っていた時間配分がそのままオンライン授業でも適用できるか不明であったため、1 コマ当たりの授業内容を軽減し学習者の負担が大きくならないようにした。また、授業で時間が余った場合は宿題をさせることで時間調整をした。

限	時間	月	火	水	木	金
3	13:00-14:30	I-1	文化		文化	I-1
4	14:50-16:20	I-1	S-1	K-1	S-1	K-1
5	16:40-18:10		I-1	文化	I-1	文化

3. 授業内容²

日本語研修コースではゼロ初級コースを独自開講していることから、本稿ではゼロ初級コースの内容について記載する。

1) 授業時間数

前期・後期：各15週間（195時間）

2) 使用教材

I-1	『初級日本語げんき I』	坂野永理他	The Japan Times
	『初級日本語教材げんき ワークブック I』	坂野永理他	The Japan Times
I-2	『初級日本語げんき I』『初級日本語げんき II』	坂野永理他	The Japan Times
	『初級日本語教材げんき ワークブック I』	坂野永理他	The Japan Times
	『初級日本語教材げんき ワークブック II』	坂野永理他	The Japan Times
K-1	『初級日本語げんき I 読み書き編』	坂野永理他	The Japan Times
	プリント教材		
S-1	『初級日本語げんき I』	坂野永理他	The Japan Times
	プリント教材		
	文化：自習作成教材		

3) 授業内容

ゼロ初級レベルのクラスの授業内容は下記のとおりである。

2 既習者の授業内容については JACs（Japanese Academic Courses）の年報を参照。

I-1 : 日本語学習経験のない学習者を対象に、基礎的な文法や語彙を勉強し、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。教科書の第1課から第8課がI-1に該当する。

I-2 : I-1で動詞、形容詞の過去形、非過去の活用を学習した後にI-2に入る。日常会話に必要な基本的文法や語彙を学び、身近な話題で会話ができる日本語能力を養成する。教科書の第9課から第15課が学習範囲である。

S-1 : I-1のクラスと連動させながら、テキストの会話部分を補足発展させ、十分に会話の練習を行う。また、日常会話に必要な基礎的な表現を学ぶ。

K-1 : ひらがな・カタカナの定着をはかった後に漢字学習を開始する。文法学習 (I-1) の進捗の後を追う形ですめる。

文化: ①日本の大学や日本社会での生活に適應できる力をつけること、②日本文化と研修生それぞれの国の文化の違いに気づき、異なる価値観を理解すること、③アカデミックな発表の方法を学ぶこと、の3点を目標としている。このクラスでは教室活動の他にフィールドトリップなどの見学や訪問も取り入れている。当コース終了前の最終発表会の準備も含む。

4. 研修生からの評価

毎学期、コース終了前に研修生による評価をアンケート形式で実施している。結果は今後の本コース改善の資料として活用している。以下に評価の結果をまとめる。尚、アンケートでは自由記述形式で研修生にコメントを書いてもらっている項目がある。本稿では代表的なコメントおよび今後の課題として考えさせる意見を抜粋し紹介する。

①前期 8月24日実施

a. 日本語のクラスに関して (未習者3名が回答)

* 数字は人数

クラス名	大変よい	よい	どちらとも言えない	よくない	全然よくない	無回答
I-1	3	0	0	0	0	0
S-1	3	0	0	0	0	0
K-1	3	0	0	0	0	0
文化	3	0	0	0	0	0

- Everything was well planned and fun to learn.
- Teacher explains dialogues and text very well.
- Teacher used to give various examples of how to use the word in different situations.

b. もっと勉強したいこと（未習者3名が回答、複数回答可）

文法	会話	漢字	リスニング	発音	単語	読解	筆記	文化	スピーチ	その他
1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0

c. 「最終発表会」について（未習者3名回答）

大変有意義	有意義	どちらとも言えない	それほどよくない	全然よくない	無回答
2	1	0	0	0	0

- It summarized all into one larger project. It was a nice recap of everything we studied.
- It was my first time presentation (formal) in Japanese.

d. オンライン授業について（未習者3名、既習者3名回答）

大変よい	よい	どちらとも言えない	よくない	全然よくない	無回答
5	1	0	0	0	0

- It was great. I never had online classes before and it was as close to a personal contact as possible.
- The teacher's net connection was really good. But due to bad weather and other technical difficulties, my internet was sometimes bad. I am thankful that despite this, I was able to attend all the lectures. The online classes were a new, good experience.

e. コースに対する満足度（未習者3名、既習者3名回答）

90%-100%	6
80% -89%	0
70% -79%	0
50% -69%	0
49% 以下	0

f. コースへの全体の感想（ゼロ初級者、既修者）

- Overall I really enjoyed the classes and I learned a lot of Japanese. I feel very grateful for this opportunity, and I really admire all the teachers. All of them were nice and kind.
- Pace could be a little fast so that more can be covered.
- もし日常会話の練習を多くしてほしい。

②後期 3月2日実施

a. 日本語のクラスに関して（未習者9名の回答）

* 数字は人数

クラス名	大変よい	よい	どちらとも言えない	よくない	全然よくない	無回答
I-1	7	2	0	0	0	0
S-1	6	3	0	0	0	0
K-1	5	3	1	0	0	0
文化	8	1	0	0	0	0

- I really enjoyed the class and I was able to learn new vocabulary outside the textbook. Discussing various topics was very interesting and fun, and it gave opportunity to use the new vocabulary we are learning every day.
- All the teachers were kind and patient. However, there is too much work given which can be a bit overwhelming.
- I think learning more about the origin/story of the kanji would have made the class more interesting and helped us in remembering the kanji more. But the pace of class and homework was good.
- The class was very interesting and the pace was fine.

b. もっと勉強したいこと（未習者9名の回答）

文法	会話	漢字	リスニング	発音	単語	読解	筆記	文化	スピーチ	その他
4	7	5	5	2	6	5	5	5	4	4

c. 「最終発表会」について（未習者9名回答）

大変有意義	有意義	どちらとも言えない	それほどよくない	全然よくない	無回答
7	2	0	0	0	0

- Got to know about many countries from other international students and it also helped my presentation skills.
- I got to represent my country and speak about myself in front all of my teachers, colleagues, family and friends, and show them how my Japanese improved after the JTAS course which was really touching.

d. オンライン授業について（未習者9名、既習者1名回答）

大変よい	よい	どちらとも言えない	よくない	全然よくない	無回答
2	6	2	0	0	0

- (1) Unstable internet can disturb the flow of the class (2) The pace is slowed down because classes are not face to face, have to wait for everyone to respond.
- I had to wake up really early in the morning so I didn't get enough sleep to be fully focused.

e. コースに対する満足度（未習者9名、既習者1名回答）

90%-100%	4
80% -89%	4
70% -79%	1
50% -69%	0
49% 以下	0

f. コース全体の感想（全員回答）

- It had everything all at one place, it was integrated and was inclusive of all important elements a student needs to come across while learning a new language.
- The most challenging thing about the course was the time difference. I had to wake up very early to attend class. There is also too much work given which was very overwhelming. I recommend adjusting the online classes and reduce the workload because of the time difference.
- I used more skills like speaking and reading, so I learned a lot.

5. 令和3年度（2021年度）のまとめと今後の課題

令和2年度（2020年度）から引き続き令和3年度（2021年度）も新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響により年間を通してほとんどの授業をオンラインで実施することになった。オンライン授業継続についての良かった点は、令和2年度（2020年度）に急遽作り上げたオンライン用カリキュラム、スケジュール、授業内容、授業方法などをより利便性が高く効率的なものに改善させることができたという点である。

しかし、令和2年度（2020年度）同様、次の点が課題として残った。

- ①テストや小テストのときに、カンニングを防止するのが難しかった。
- ②様々な国の学習者がオンライン授業を受けることから、日本時間に合わせて授業を開講したが、時差の大きい国の学習者にとっては大きな負担となった。

更に、今年度は、学期中急病になり1か月間授業に出席できなかった研修生（日本語未習者）がいた。1か月後授業に復帰したときは授業についていくことができない状態になっていた。そのため日本語研修コースを辞退し研究室在籍となることを事務・当該学生・大学院の指導教員と協議した。し

かし、文科省による研究留学規定によると本人の自己都合（病気も含む）で日本語研修コースを途中で事態することはできないということが判明したため、個人授業・e-learning・当センター開講の他の日本語コース受講という代替措置を実施することになった。規定に従わなければならないとはいえ日本語学習を継続しなければならないことが最善策であったか疑問が残る。令和3年度（2021年度）は研究留学生に関する規定は「コロナ前」と同様の内容に戻り特別対応は認められなくなった。しかし学期中に渡日できないなど留学生は依然として新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けていた。学生の不利益にならないよう文科省には現状に即した柔軟性のある対応を求めたい。

Japanese Academic Courses (JACs) / 言語文化基礎科目・日本語

Japanese Academic Courses (JACs) / Fundamental Subjects for Language and Culture, Japanese

脇 坂 真彩子*

柴 田 あづさ*

1. はじめに

「Japanese Academic Courses / 言語文化基礎科目・日本語（以下、JACs）」は九州大学伊都キャンパスで開講される単位取得を目指す学部留学生向けの日本語コースである。総合（I コース）、漢字（K コース）、会話（S コース）、作文（W コース）の4つのコースから構成され、入門から上級まで8段階の幅広いレベルのクラスが展開されている。現在、九州大学の学部正規留学生（共創学部および農学部・工学部学士課程国際コース：IUPE に所属する学生を含む）、留学生センターが提供するプログラム（Japan in Today's World Program：JTW、日本語・日本文化研修コース：JLCC、日本語研修コース：JTAS）の参加学生、大学間・部局間交流協定に基づく交換留学制度を通じて留学し各学部所属する交換留学生が、本コースを受講している。以下に、2022年度（令和4年度）の実施状況を報告する。

2. JACs の概要

2. 1. コースの編成

本コースは総合（I コース）、漢字（K コース）、会話（S コース）、作文（W コース）の4つのコースから成る。表1は2022年度春学期（Q1）と夏学期（Q2）、表2は秋学期（Q3）と冬学期（Q4）のコース編成を示している。1コマ90分の構成であり、クォーター制に基づき、各クォーターで週に2回を7.5週、計15回授業が行われる。括弧内の数字はクラス数を示している。なお、各クラスの科目名は留学生センターと基幹教育で異なっているが、本稿では留学生センターで使用している科目名を使用する。科目名の一覧は本稿稿末を参照されたい。

* 九州大学留学生センター准教授

表1 コース編成（2022年度春夏学期）

レベル	総合（Iコース）	漢字（Kコース）	会話（Sコース）	作文（Wコース）
上 級	JI-8（1）	JK-8（1）	JS-8（不開講）	JW-8（1）
上 級 入 門	JI-7（1）	JK-7（1）	JS-7（1）	JW-7（1）
中 級 2	JI-6（3）	JK-6（1）	JS-6（1）	JW-6（1）
中 級 1	JI-5（1）	JK-5（1）	JS-5（1）	JW-5（1）
中 級 入 門	JI-4（2）	JK-4（1）	JS-4（1）	
初 級 2	JI-3（2）	JK-3（2）	JS-3（1）	
初 級 1	JI-2（2）	JK-1+2（1）	JS-2（1）	
入 門	JI-1（1）			

表2 コース編成（2022年度秋冬学期）

レベル	総合（Iコース）	漢字（Kコース）	会話（Sコース）	作文（Wコース）
上 級	JI-8（1）	JK-8（1）	JS-8（不開講）	JW-8（1）
上 級 入 門	JI-7（3）	JK-7（1）	JS-7（1）	JW-7（1）
中 級 2	JI-6（1）	JK-6（1）	JS-6（1）	JW-6（1）
中 級 1	JI-5（1）	JK-5（1）	JS-5（1）	JW-5（1）
中 級 入 門	JI-4（2）	JK-4（1）	JS-4（1）	
初 級 2	JI-3（2）	JK-3（2）	JS-3（1）	
初 級 1	JI-2（2）	JK-1+2（2）	JS-2（1）	
入 門	JI-1（2）			

2. 2. 授業の実施方針

JACsは、基幹教育の授業方針¹に沿って、以下のような方針で授業を実施した。

【春学期のJACsの授業方針】

- ① 初回は全クラス、Zoomによるオンライン（同時双方向型）で実施する。
- ② 初回クラスでレベル確認を行い、各クラスの受講者が決定後、クラスの全員が福岡にいる場合は、基幹教育の方針に沿って基本的に対面授業に移行する。
- ③ 水際対策等で入国できない留学生等への配慮から、クラスに一人でも福岡にいない学生がいる場合には、基本的にオンライン授業を実施する。（ただし、クラスの一部の学生が福岡にいない場合であっても、授業内容やクラスの状況を考慮しながら、全学の方針に沿って、ハイブリット授業への移行の判断をしていく。）
- ④ 学期途中で学生が全員福岡に揃った場合には、受講生と相談の上、基幹教育の方針に沿って、対面授業に移行する。なお、基礎疾患等により通学が困難な学生がいる場合もハイブリッド授業を検討するなど、大学の方針に従って対応する。

1 基幹教育科目の授業では、2022年度は前期（春学期・夏学期）および後期（秋学期・冬学期）ともに、受講者数の上限を教室の収容人数の3分の2以下とし原則として対面授業を基本として行うという方針であった。

【秋学期の JACs の授業方針】

- ① 初回は全クラス、Zoom によるオンライン（同時双方向型）で実施する。
- ② 初回クラスでレベル確認を行い、各クラスの受講者が決定後、クラスの全員が福岡にいる場合は、基幹教育の方針に沿って基本的に対面授業に移行する。
- ③ 水際対策等で入国できない留学生等への配慮から、クラスに一人でも福岡にいない学生がいる場合にはオンライン授業またはハイブリッド授業を実施する。
- ④ 学期途中で学生が全員福岡に揃った場合には、基幹教育の方針に沿って、対面授業に移行する。なお、基礎疾患等により通学が困難な学生がいる場合はハイブリッド授業を検討するなど、大学の方針に従って対応する。
- ⑤ ただし、緊急時にオンラインへの切り替えがスムーズに行えるように、秋学期（Q3）に関しては、各科目 2 回（初回を除く）オンライン授業を取り入れる。冬学期（Q4）に関しては、緊急時にオンライン授業の対応に不安があるクラスのみオンライン授業を 1 - 2 回取り入れる。オンライン授業の実施日は、各クラスの担当教員が授業内容を考慮して決め、学生と JACs オフィスに周知する。

春・夏学期に関しては、コロナウイルス感染症に伴う水際対策の影響により、春学期開始時には、半数以上の受講生が来日できていなかった。しかし、4 月末～5 月初旬にかけてこれらの学生の渡日が進み、春学期（Q1）中に、31クラス中15クラスが対面授業に移行した。また、さまざまな事情により渡日が遅れた一部の学生に関しても、ほとんどの学生が6月中旬までに来日でき、オンラインを継続していた16クラス中11クラスが6月中に対面授業に移行した。しかし、I-7クラスに関しては国際情勢の影響で渡日が遅れたロシアからの学生1名が7月第1週目までに来日し、7月下旬より対面授業へ移行する予定であったものの、コロナウイルス感染症が再び拡大したため、夏学期末までオンライン授業を継続することとなった。

秋・冬学期に関しては、秋学期開始時に、大半の受講生が来日できていたため、学期開始直後にほとんどのクラスが対面授業へ移行した。また、渡日が遅れた3名が受講するクラスについても、10月中に対面授業へ移行した。対面授業には教室収容人数の3分の2以下を満たす伊都キャンパスセンターゾーンの教室を使用し、JACs で作成した「JACs Guidelines for face-to-face Classes」（学生用）および「JACs 科目対面授業実施のガイドライン」（教師用）に沿って感染症対策を講じた上で授業を実施した。

2. 3. 使用教材

各クラスでの使用教材は表3の通りである。

表3 各クラスでの使用教材

総合	使用教材	漢字	使用教材
JI-1	『初級日本語げんき I (第3版)』	JK-1+2	『初級日本語げんき I (第3版)』
JI-2	『初級日本語げんき I, II (第3版)』		『Essential Japanese Kanji vol.1』
JI-3	『初級日本語げんき II (第2版)』	JK-3	『Basic Kanji Book vol.1』
JI-4	『中級へ行こう (第2版)』	JK-4	『Basic Kanji Book vol.1、vol. 2』
JI-5	『中級を学ぼう (中級前期)』	JK-5	『Basic Kanji Book vol. 2』
JI-6	『中級を学ぼう (中級中期)』	JK-6	『上級へのとびら きたえよう漢字力』
JI-7	『日本語5つのとびら TOBIRA 中上級編』	JK-7	『Intermediate Kanji Book vol.1』
JI-8	自主作成教材を使用	JK-8	『Intermediate Kanji Book vol.2』
会話	使用教材	作文	使用教材
JS-2	『聞く・考える・話す 留学生のための初級日本語会話』	JW-5	『表現テーマ別 にほんご作文の方法』(Q1&2) 『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』(Q3&4)
JS-3	『聞く・考える・話す 留学生のための初級日本語会話』	JW-6	『小論文の12のステップ』
JS-4	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』	JW-7	『この一冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』
JS-5	自主作成教材を使用	JW-8	自主作成教材を使用
JS-6	『日本語上級話者への道』		
JS-7	自主作成教材を使用		

2. 4. 学生区分／所属別の受講可能コース

JACs では学生区分と所属によって受講できるコースやレベルに制限がある。表4に学生区分／所属別の受講可能コースを示す。表内の「○」はプレースメントテストを受験した上で、そのコースを受講できることを示し、「×」はそのコースが受講できないことを示している。学部にも所属する正規留学生はプレースメントテストなしで特定のクラスを受講することになっているため、表内にそのクラスを記している。

表4 受講可能コース一覧

学生区分／所属	I コース	K コース	S コース	W コース
留学生センター生 (JTW、JLCC、研修)	○	○	○	○
学部所属交換留学生	○	○	○	○
農学部・工学部国際コース (IUPE) 1 年生	○	○	×	×
農学部・工学部国際コース (IUPE) 2 年生	○	×	×	×
共創学部 (秋入学)	○	○	○	○
学部正規留学生 (共創学部秋入学・IUPE 以外)	JL-6 (Q1&2) JL-7 (Q3&4) JL-8 (Q1&2) JW-8 (Q1&2)	×	×	×

2. 5. 開講日程とプレースメントテスト

2022年度の各クォーターの開講日程は表5の通りである。

表5 授業の開講スケジュール

クォーター	開講期間
春学期 (Quarter 1)	2022年4月12日 ～ 2022年6月8日
夏学期 (Quarter 2)	2022年6月14日 ～ 2022年8月3日
秋学期 (Quarter 3)	2022年10月6日 ～ 2022年12月2日
冬学期 (Quarter 4)	2022年12月7日 ～ 2023年2月9日

JACs の履修には履修希望者本人が春学期 (Q1) と秋学期 (Q3) の始めに、オンラインによる受講申し込みを行う必要がある。通常であれば、漢字コース (K) と作文コース (W) のレベル判定は、オンラインテストと漢字テスト (筆記) の結果から総合的に判断し、会話コース (S) のクラス分けはオンラインテストと対面でのインタビューテストの結果に基づいて行う。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、2021年度に続き2022年度も学期開始前の一斉漢字テスト (筆記) と対面でのインタビューテストの実施を取り止め、代わりに、各クラスの初回にオンラインで実施することとした。表6に2022年度の受講登録とプレースメントテストの日程を示す。

表6 2022年度の受講登録・プレースメントテストの日程

クォーター	オンラインシステムによる受講登録・ プレースメントテスト	漢字テスト (60分)	インタビューテスト (約10分/人)	作文テスト (40分)
春学期 (Q1)	2022年3月24日～4月7日	4月13日	4月12日	4月13日
秋学期 (Q3)	2022年9月19日～9月30日	10月7日	10月6日	10月7日

3. 履修者

2022年度春学期（Q1）の最終履修者数は136名（延べ270名）、秋学期（Q3）の最終履修者数は、170名（延べ329名）であった。昨年度と比べると、春学期は48名（延べ115名）、秋学期は56名（延べ120名）増加した。以下3. 1. にクラス別履修者数、3. 2. に出身地域別の履修者数、3. 3. に身分別の履修者数の内訳を示す。

3. 1. 履修者の内訳（クラス別）

春学期（Q1）と秋学期（Q3）のクラス別履修者数を表7と表8に示す。

表7 2022年度春学期（Q1）クラス別履修者数（延べ履修者数）

レベル	総合コース		漢字コース		会話コース		作文コース	
上 級	JI-8	12	JK-8	1	JS-8	－	JW-8	3
上 級 入 門	JI-7	5	JK-7	7	JS-7	－	JW-7	4
中 級 2	JI-6	31	JK-6	10	JS-6	11	JW-6	7
中 級 1	JI-5	13	JK-5	15	JS-5	14	JW-5	6
中 級 入 門	JI-4	11	JK-4	8	JS-4	9		
初 級 2	JI-3	14	JK-3	21	JS-3	9		
初 級 1	JI-2	21	JK-1+2	14	JS-2	8		
入 門	JI-1	16						
総計 270名								

表8 2022年度秋学期（Q3）クラス別履修者数（延べ履修者数）

レベル	総合コース		漢字コース		会話コース		作文コース	
上 級	JI-8	8	JK-8	5	JS-8	－	JW-8	2
上 級 入 門	JI-7	27	JK-7	3	JS-7	7	JW-7	2
中 級 2	JI-6	11	JK-6	10	JS-6	10	JW-6	4
中 級 1	JI-5	14	JK-5	11	JS-5	12	JW-5	5
中 級 入 門	JI-4	25	JK-4	17	JS-4	15		
初 級 2	JI-3	28	JK-3	15	JS-3	11		
初 級 1	JI-2	10	JK-1+2	36	JS-2	7		
入 門	JI-1	34						
総計 329名								

昨年度までは、コロナウイルス感染症拡大の影響により10名以下で構成されるクラスが大半を占め、とくに留学生センターが提供するプログラムに所属する学生が主な受講対象である会話コース（S）と作文コース（W）の履修者が例年よりかなり少なくなっていた。しかし、2022年度には留学生センターが受け入れる JTW プログラムの学生や日本語研修コース（JTAS）の学生数がコロナ前の水

準に戻り、日本語・日本文化研修コース（JLCC）の学生数もコロナ前よりは少ないものの昨年度より増加したため、各クラスの履修者数も10名前後のクラスが多くなっている。また、学部所属交換留学生の受講が増加したため、JI-1やK-1+2などの入門レベルで履修者が増えた。

3. 2. 履修者の内訳（出身地域別）

表9は春学期（Q1）と秋学期（Q3）の履修者を出身地域・国籍別にまとめたものである。

表9 出身地域別の履修者数

アジア	春学期	秋学期	ヨーロッパ	春学期	秋学期
中華人民共和国	21	24	ドイツ連邦共和国	9	12
インドネシア共和国	17	16	フランス共和国	9	11
大韓民国	16	18	スウェーデン王国	5	2
台湾	9	5	英国	3	8
タイ王国	7	8	オランダ	2	4
シンガポール共和国	3	—	アイスランド共和国	1	1
香港	3	4	オーストリア共和国	1	1
マレーシア	3	4	ベルギー王国	1	—
インド共和国	2	3	ロシア連邦	1	1
ベトナム社会主義共和国	2	1	イタリア共和国	—	1
カンボジア王国	1	—	ウズベキスタン共和国	—	2
スリランカ民主社会主義共和国	1	1	カザフスタン共和国	—	1
日本国	1	4	スペイン王国	—	1
フィリピン共和国	1	5	ブルガリア共和国	—	1
パキスタン・イスラム共和国	—	1	ルーマニア	—	2
バングラデシュ人民共和国	—	1	小計	32名	48名
小計	87名	95名			

中東	春学期	秋学期	北米	春学期	秋学期
イスラエル国	1	1	アメリカ合衆国	2	10
トルコ共和国	1	1	小計	2名	10名
イラン・イスラム共和国	—	1			
小計	2名	3名			

オセアニア	春学期	秋学期	中南米	春学期	秋学期
オーストラリア連邦	1	2	ブラジル連邦共和国	5	4
小計	1名	2名	アルゼンチン共和国	1	1
			ドミニカ共和国	1	—
			メキシコ合衆国	1	1
			チリ共和国	—	2
			ペルー共和国	—	1
			小計	8名	9名
			総計	136名	170名

アフリカ	春学期	秋学期
エジプト・アラブ共和国	2	2
カメルーン共和国	1	1
ジンバブエ共和国	1	—
小計	4名	3名

3. 3. 履修者の内訳（身分別）

表10は、春学期（Q1）と秋学期（Q3）の身分別の履修者数を学期ごとにまとめたものである。

表10 身分別の履修者数

留学生センター生	春学期	秋学期
Japan in Today's World (JTW)	42	41
日本語・日本文化研修コース (JLCC)	4	12
日本語研修コース (JTAS)	12	2
小計	58名	55名
学部正規留学生	春学期	秋学期
工学部国際コース (IUPE)	19	35
農学部国際コース (IUPE)	5	10
共創学部 秋入学	5	13
共創学部 春入学	1	－
その他の学部正規留学生	28	19
小計	58名	77名
学部所属交換留学生	春学期	秋学期
共創学部	13	15
法学部	2	2
教育学部	1	2
経済学部	1	－
農学部	1	1
文学部	1	4
理学部	1	2
工学部	－	11
芸術工学部	－	1
小計	20名	38名
総計	136名	170名

学部正規留学生に関しては、コロナ禍の2020年度および2021年度においても履修者数に大幅な減少は見られなかった。一方、九州大学と学生交流協定を結ぶ海外の大学からの短期交換留学生数は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大きく減少していた。しかし、2022年度には留学生センターが受け入れる JTW プログラムや日本語研修コース (JTAS) の学生数がコロナ前の水準に戻った。また、学部所属交換留学生数においてはコロナ前よりも多くの学生が受講した。これは、2022年度春学期（Q1）から共創学部で交換留学生の受け入れが始まったことや、秋学期（Q3）から学部交換留学生に向けた周知方法を変更したことが影響していると思われる。

4. 2022年度に行った改善

4. 1. 科目名の変更

JACs では、2018年度後期に基幹教育日本語科目および工学部・農学部学士課程国際コースの日本語科目と統合し「基幹教育言語文化基礎科目・日本語」となって以降、学生の身分・所属学部によって、3種類の科目名を使用している。このうち、共創学部生（秋入学）・IUPE 生・学部所属交換留学生が使用する科目名は、非常に長く、レベルの一貫性が伝わりにくかったため、学生が履修登録の際に混乱したり、運営スタッフが開講科目を設定する際に登録を間違えるケースが発生していた。そこで、2022年度より、科目名を表11のように変更した。これまで、共創学部生（秋入学）・IUPE 生・学部所属交換留学生が使用する科目名は「Integrated Courses: Pre-Advanced A」のように、コースの種類とレベルを英語表記で示すものであったが、変更後は、レベル表記を留学生センターで使用する入門（1）～上級（8）までの数字で示し、より短い名称へと変更した。また、科目名称の検討過程で、以前の名称は英語科目のようであるという指摘があったことから、科目名に「Japanese」を加えることとした。また、留学生センター生が使用する科目名に関しても、日本語科目であるということがわかりやすいように、これまでの科目名（例：I-7）の頭に日本語を示す「J」を加えた（例：JI-7）。なお、学部正規留学生（共創学部秋入学学生・IUPE 生以外）の科目名に変更はない。

これらの変更により、レベルの一貫性が伝わりやすくなり、学生、運営スタッフ双方にとってわかりやすいものになったと思われる。2022年度4月以降の全科目名の一覧は巻末資料を参照されたい。

表11 科目名の変更例

身分・所属	～ 2021年度までの科目名	2022年度以降の科目名
留学生センター生 (JTW, JLCC, JTAS)	I-7, K-4, S-6, W-5	JI-7, JK-4, JS-6, JW-5
共創学部秋入学学生・IUPE 生・学部 所属交換留学生	Integrated Courses:Pre-Advanced A	Japanese: Integrated 7A
	Integrated Courses:Pre-Advanced B	Japanese: Integrated 7B
	Kanji Courses:Pre-Intermediate A	Japanese: Kanji 4A
	Kanji Courses:Pre-Intermediate B	Japanese: Kanji 4B
	Speaking Courses:Intermediate 2A	Japanese: Speaking 6 A
	Speaking Courses:Intermediate 2B	Japanese: Speaking 6 B
学部正規留学生 (共創学部秋入学学生・IUPE 生以外)	Writing Courses:Intermediate 1A	Japanese: Writing 5 A
	Writing Courses:Intermediate 1B	Japanese: Writing 5 A
	日本語 I ～ 日本語 VII	日本語 I ～ 日本語 VII (変更なし)

4. 2. 受講登録時の在籍身分誤入力チェック体制の強化

JACsの履修生には受講登録をする学期から新たに本学に所属する留学生が数多くいる。そうした者の中には、九州大学での身分を理解できておらず、自身が学部正規留学生であると勘違いし、JACsのオンライン受講登録でこのカテゴリーを選択する者がいる。こうした誤入力は、どのプログラムにも属さない学部所属交換留学生に多く起きている。JACs運営者から事前にメール送付する履修登録ガイドには、身分選択を誤らないよう赤字で説明書きをしているが、これを見落とす学生が多い。そして、2022年度Q1（春学期）には、学部所属交換留学生が、誤って「学部正規留学生」という身分を選択し、プレースメントテストを受験せず、学生番号をシステムに入力するプロセスも省いたことで、レベルの合わないクラスに振り分けられるという事案が発生した。上述のとおり、学部正規生は、プレースメントテストを受験することなく特定の授業、すなわち、日本語Ⅰから日本語Ⅶを下から順に履修することになっている。この学生は学部正規留学生を選択した後、自身のレベルに合っていない日本語科目を選択した。この学生がオンラインシステムに学籍番号を届け出ないことから、JACs運営側が本人に確認をとったことで、登録した身分が誤っており、適切でないレベルに振り分けられていることが発覚した。この経験から、Q3（秋学期）では、準備段階で当センターが保有する2020年度以降の学部正規留学生の日本語Ⅰから日本語Ⅳまでの履修状況のデータをリスト化し、リストに名前のない学部正規留学生が登録した場合は、本人にすぐに確認する体制をとることとした。その結果、身分を学部正規生と誤って入力した者は8名いたものの、全員に正しい身分への修正を促し、Q3では同様の事案の発生を防ぐことができた。今後も学部正規留学生の履修状況リストを更新していき、誤ってこの身分を選択してオンラインテストを受験せずにレベルに合わないクラスに振り分けられる者がでないよう、体制を強化したい。

4. 3. 学部所属交換留学生への履修登録等の流れの整理

これまで、学部所属交換留学生の履修登録の流れが整理されておらず、学期開始後に履修者の再確認や追加登録・取消の作業が発生していた。そこで、学務部基幹教育係および国際部留学課受入戦略係担当者と協議の上、学部所属交換留学生の履修の流れを以下のように変更した。

- ① JACsから留学課受入戦略係に、交換留学生（大学間・部局間とも）宛てにJACs開講についての案内を依頼する（前期・後期開講前の年に2回）。受入戦略係は学部所属交換留学生にメールにて日本語クラスについて案内し、文面内に、受講をする場合には必ず自身の所属する部局の学生係へ履修について届け出るよう、期限を付して注意を促す。また、JACsでは聴講が認められていないため、期限までに届け出ない場合にはそれ以降の出席ができなくなる旨も併せて周知する。なお、期限については毎期の履修スケジュールの「履修確認・修正」期間の最終日とする。
- ② 受講クラス決定後、JACsで受講者リストを作成する。正規生のリストについては基幹教育教務係に送付し、学部所属交換留学生のリストについては、留学課受入戦略係へ送付する。
- ③ 当初に案内している期限の1週間ほど前を目安に、受入戦略係は交換留学生に、再度の案内を送る。その際に改めて、期限までに所属部局の学生係へ履修について届け出がない場合には、履

修は無効となり単位取得できない旨を周知する。

- ④ 基幹教育教務係は、各学部からの依頼文書受理後、基幹教育実施会議に付議し、承認後、履修登録を行う。

4. 4. 学士課程国際コースの日本語科目における R 認定

通常、工学部・農学部学士課程国際コースに在籍する正規留学生は、1年次に総合コースを4単位、漢字コースを4単位、2年次に総合コースを2単位取得することになっている。しかし、中には日本国籍または日本との二重国籍、あるいは日本で長期間教育を受けてきたことなどにより、日本語レベルが非常に高く、JACs 科目の履修が必要ない者がいる。2022年10月以降の新入留学生については、秋学期の JACs プレースメントテストの結果をもって、JACs 科目の受講が必要ないと判断された場合には、免除科目を履修したものとみなし、成績は「R」として認定されることになった。この規定に基づき、2022年度秋学期に関しては、2名の学生が日本語科目の一部について R 認定されることとなった。

4. 5. JACs 学生用および教師用受講管理システムの改修

2022年度は以下の2点について、JACs 学生用および教師用受講管理システムの改修を行った。

- 1) 2022年度春学期より共創学部で交換留学生の受け入れが始まった。しかし、従来の JACs 学生用システムおよび教師用受講管理システムは、4年間在籍する共創学部正規生（春入学および秋入学）の受講登録にしか対応していなかった。そこで、共創学部交換留学生の受講登録にも対応できるようにシステムを改修した。
- 2) JACs 教師用受講管理システムには教師が学生に一斉にメールを送信できる「お知らせメール送信」機能があるが、その機能を使用してメールを送信する際、Gmail を登録している学生は送信エラーになってしまう現象が起きていた。そこで、システム会社に調査を依頼し、Gmail で登録している学生にも一斉送信ができるようシステムの改修を行った。

5. 今後の課題

今後の課題として、以下の5点を挙げる。

5. 1. 学部正規留学生の受講方法の見直し

現在、学部正規留学生（共創学部4月入学生を含む）はプレースメントテストを受験することなく、特定のクラスを受講することになっている。これは学部に入學する留学生の日本語レベルが均一であると想定されてのことである。しかし、実際には学生の日本語レベルのばらつきが大きく、受講するクラスのレベルが学生のレベルに合っていないケースがある。そのような場合には、これまで、個別にプレースメントテストを実施し、指定されたクラスよりも低いレベルのクラスを受講させたり、これらの学生が受講するクラスの初回に特別なテストを実施して、レベルが高めの学生と低めの学生の

2クラスに分け、クラス内の学生のレベル差ができるだけ小さくなるようにするなどの工夫を行ってきた。また、担当教員が受講生の様子を見て、彼らのレベルやニーズにあった日本語教育を提供できるよう授業内容を調整しながら授業を行なっている。これらにより、状況は改善されているものの、根本的な解決には至っていない。本来であれば、学生が自分の日本語レベルにあったクラスを受講するのが望ましい。他の身分／所属の学生と同様に、学期開始前にプレースメントテストを実施し、レベルにあったコースを受講してもらえよう今後も働きかけていきたい。

5. 2. 問い合わせ対応の効率化

オンラインシステムによる受講登録開始期間後から授業開始後約2週間は、留学生からの問い合わせや、基幹教育担当者やJACs 授業担当教員からの依頼が集中する。記録に残したものだけでも、Q1（春学期）は受講登録開始後前後に31件、クラス分け後約2週間に46件、Q3（秋学期）は受講登録開始前後に38件、クラス分け後約2週間に87件に上っている。問い合わせの内訳は、受講登録開始前後がJACs システムの操作に関わることや、必修単位以上の履修が可能かといった質問などが多数を占める。クラス分け後の問い合わせは、締切後の受講登録の可否や、クラス移動（上／下のクラス、別の曜日の同じレベルのクラスへの移動）、履修中止などに関するものが大半である。こうした問い合わせには、コーディネーターと教務補佐が一件ずつメールで対応しているが、ちょうどJACs 担当教員の連絡会議や、授業準備などに追われる時期でもあり、大きな負担となっているのが実情である。問い合わせには、緊急の対応が必要なものも時にあるが、大半は確認不足によるものであった。そのため、今後問い合わせデータをまとめてQ&Aを作成し、履修登録者に公開したりAIによる自動応答サービスを開発したりするなどして対応の効率化を図り、JACs 運営者の負担を軽減したい。

5. 3. オンラインテスト：聴解音声システム不具合の改修

今年度Q3（秋学期）のオンラインテスト実施期間中に、聴解の音声が開き取れないという問い合わせが複数件あった。そこで、履修学生には、家族や友人、非常勤講師室のパソコンを使って受験し直してもらうよう連絡し、システム会社に改修を依頼した。この不具合が生じた者の多くはノートパソコンを使っていたようであるが、未だ原因の解明には至っていない。来年度のオンラインテスト実施時期までにはこの問題を解決したい。

5. 4. 漢字プレースメントテストの実施体制の再検討

新型コロナウイルス感染症拡大の状況と学生の渡日状況を鑑み、2020年度春学期より、学期開始前の一斉漢字テスト（筆記）の実施を取り止め、代わりに、各クラスの初回にオンラインで実施してきた。その流れは以下のようなものである。まず、各クラスの初回にオンラインで漢字テストを実施し、クラス担当者がその日のうちに採点し、その結果を所定のエクセルシートに入力してJACs 運営チームに連絡する。その結果をもとに、JACs 運営チームが最終的なレベルを検討・確定し、次の授業までに学生に通知する。

2022年度春学期までは履修者数がそれほど多くなかったこともあり、上記のやり方で大きな問題は

発生していなかった。しかし、今後、履修者数の増加が見込まれるため、採点およびレベル判定がミスなく行えるよう、プレースメントテストの実施体制やスケジュールの検討が必要である。

5. 5. 日本にルーツを持つ学習者への対応

ここ数年、親や祖父母が日本人であったり、幼少期の一定期間を日本で過ごした経験があるなど、日本にルーツを持つ学生の受講が徐々に増えてきている。これらの学生は、インターナショナルスクールや日本人学校、日本語ができる周囲の人々との関わり、インターネットやアニメ・漫画等から日本語を学んできている。彼らの日本語能力は4技能にバラつきがあり、口頭コミュニケーション能力に比べ、読み書き能力が低い場合が多い。時には、会話能力は極めて高い一方で、読み書きの能力が著しく低い学生もいる。

JACs が提供する日本語教育は、外国語・第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象としたものであり、当初は上記のような学習者の受講は想定していなかった。そのため、このような学生がいた場合には JACs の枠組みの中で学生が最大限に日本語能力を高めていけるように、学生本人および関係教員と相談の上、特別対応をしてきた。これまでに行なった対応から浮かび上がってきた課題を以下に記す。

- 1) 彼らの中には自分自身の文章表現力や漢字能力が低いことを自覚し、自ら低いレベルのクラスの受講を希望する学生がいる一方で、自分の日本語力をネイティブレベルであると評価し、留学生向けの日本語クラスの受講に抵抗感を抱く学生もいる。また、プレースメントテストの結果、自己評価よりも低いレベルに入ることに嫌悪感を示す学生もいる。彼らの日本人としてのアイデンティティを尊重し、プライドを傷つけないような配慮が必要であると思われる。
- 2) 通常のクラス分けでは、多くの場合、漢字コース (K) と作文コース (W) のレベルは総合コース (I) のレベル ± 1 の範囲内に納めるのが基本である。しかし、口頭コミュニケーション能力と読み書き能力の差が著しく大きい場合には、漢字コースや作文コースで総合コースよりも2レベル以上低いコースに入ることを認めたり、総合コースや会話コースの受講を免除し、漢字コースや作文コースのみを受講してもらうなどの対応をしてきた。しかし、総合コースのレベルが漢字コースや作文コースのレベルよりも2レベル以上高い場合、総合クラスでの読解問題で漢字が読めず、教員が個別に特別対応を迫られる場合もあるため、クラス分けの際はコース間のレベル差を慎重に判断する必要がある。
- 3) 彼らは、外国語・第二言語として日本語教育を受けた経験がないため、日本語教育で用いられる文法用語が理解できなかったり、授業の進め方に戸惑ったりすることがある。他の学生に配慮しつつ、これらの学生がスムーズに授業内容を理解できるように工夫が必要であると思われる。また、このような学生が日本語能力をバランスよく高めていくために、教師が教室内外でどのようにサポートできるかを考える必要がある。

今後、多様な背景を持つ学習者がさらに増えることが予想される。JACs がどのような学生を対象に日本語教育を行い、どこまでサポートするべきなのかを引き続きしっかりと議論していく必要がある。

6. おわりに

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況と学生の渡日状況を鑑みつつ、オンライン授業から対面授業へ移行し、オンライン授業に備えながら対面授業を基本として授業を行った。春学期（Q1）は、渡日が学期開始に間に合わない学生が半数以上であったため、学期の半ばまではオンラインで授業を実施するクラスが大半であったが、その後、学生の来日が進み、夏学期（Q2）終了時までには全受講生が来日し、ほとんどのクラスが対面授業へと移行した。しかし、夏学期（Q2）終了直前にJACs 受講生に新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者が発生したため、関連するクラスは再びオンライン授業に移行することになった。秋学期（Q3）は、3名の学生を除く全受講生が学期開始時にすでに来日していたため、学期開始直後からほとんどのクラスが対面で授業を行うことができ、10月中に全クラスが対面授業へ移行できた。しかし、学期途中に再び新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者が発生したため、一部のクラスがオンライン授業またはハイブリッド授業に移行することとなった。このように、2022年度は常にオンライン授業になる可能性を想定して対面授業を行わなくてはならない状況であった。しかし、このような急なオンライン授業への移行にも大きなトラブルはなく対応することができ、学期末授業評価アンケートの結果から、受講生らがJACs の授業に概ね満足していることがわかった。コロナ禍の約2年間に渡るオンライン授業やハイブリッド授業の経験が活かされていると感じた。

今後も、急なオンライン対応に備えつつ、対面授業を基本として授業を実施していくことになると思われる。これまでのオンライン授業の実施により、学習システム Moodle で授業資料の共有や宿題・課題の管理を行うようになる等、学習におけるさまざまなメリットがあった。また、オンライン授業の経験を通して、授業担当教員や運営スタッフは対面授業とは異なるスキルを身につけることができた。これまでのオンライン授業の実施で培ったスキルや経験を対面授業に融合しつつ、授業形態に関わらず、より柔軟に質の高い教育を提供できるよう努めていきたい。

参考文献

- 脇坂真彩子（2018）「九州大学留学生のための日本語コース（JACs）」『九州大学留学生センター紀要』26, 83-88.
- 脇坂真彩子（2019）「Japanese Academic Courses（JACs）／言語文化基礎科目・日本語」『九州大学留学生センター紀要』27, 79-90.
- 脇坂真彩子（2020）「Japanese Academic Courses（JACs）／言語文化基礎科目・日本語」『九州大学留学生センター紀要』28, 83-94.
- 脇坂真彩子（2021）「Japanese Academic Courses（JACs）／言語文化基礎科目・日本語」『九州大学留学生センター紀要』29, 39-51.
- 脇坂真彩子（2022）「Japanese Academic Courses（JACs）／言語文化基礎科目・日本語」『九州大学留学生センター紀要』30, 17-30.

付録「Japanese Academic Courses (JACs) / 言語文化基礎科目・日本語」科目名一覧

留学生センター生	共創学部秋入学生・IUPE生・学部所属交換留学生		学部正規留学生
科目名	シラバス上の科目名	略称	シラバス上の科目名
JI-1	Japanese: Integrated 1 A	JI-1A	
	Japanese: Integrated 1 B	JI-1B	
JI-2	Japanese: Integrated 2 A	JI-2A	
	Japanese: Integrated 2 B	JI-2B	
JI-3	Japanese: Integrated 3 A	JI-3A	
	Japanese: Integrated 3 B	JI-3B	
JI-4	Japanese: Integrated 4 A	JI-4A	
	Japanese: Integrated 4 B	JI-4B	
JI-5	Japanese: Integrated 5 A	JI-5A	
	Japanese: Integrated 5 B	JI-5B	
JI-6	Japanese: Integrated 6 A	JI-6A	日本語Ⅰ (Q1)
	Japanese: Integrated 6 B	JI-6B	日本語Ⅱ (Q2)
JI-7	Japanese: Integrated 7 A	JI-7A	日本語Ⅲ (Q3)
	Japanese: Integrated 7 B	JI-7B	日本語Ⅳ (Q4)
JI-8	Japanese: Integrated 8 A	JI-8A	日本語Ⅴ (Q1)
	Japanese: Integrated 8 B	JI-8B	日本語Ⅵ (Q2)
JK-1+2	Japanese: Kanji 1+2 A	JK-1+2A	
	Japanese: Kanji 1+2 B	JK-1+2B	
JK-3	Japanese: Kanji 3 A	JK-3A	
	Japanese: Kanji 3 B	JK-3B	
JK-4	Japanese: Kanji 4 A	JK-4A	
	Japanese: Kanji 4 B	JK-4B	
JK-5	Japanese: Kanji 5 A	JK-5A	
	Japanese: Kanji 5 B	JK-5B	
JK-6	Japanese: Kanji 6 A	JK-6A	
	Japanese: Kanji 6 B	JK-6B	
JK-7	Japanese: Kanji 7 A	JK-7A	
	Japanese: Kanji 7 B	JK-7B	
JK-8	Japanese: Kanji 8 A	JK-8A	
	Japanese: Kanji 8 B	JK-8B	
JS-2	Japanese: Speaking 2 A	JS-2A	
	Japanese: Speaking 2 B	JS-2B	
JS-3	Japanese: Speaking 3 A	JS-3A	
	Japanese: Speaking 3 B	JS-3B	
JS-4	Japanese: Speaking 4 A	JS-4A	
	Japanese: Speaking 4 B	JS-4B	
JS-5	Japanese: Speaking 5 A	JS-5A	
	Japanese: Speaking 5 B	JS-5B	
JS-6	Japanese: Speaking 6 A	JS-6A	
	Japanese: Speaking 6 B	JS-6B	
JS-7	Japanese: Speaking 7 A	JS-7A	
	Japanese: Speaking 7 B	JS-7B	
JS-8	Japanese: Speaking 8 A	JS-8A	
	Japanese: Speaking 8 B	JS-8B	
JW-5	Japanese: Writing 5 A	JW-5A	
	Japanese: Writing 5 B	JW-5B	
JW-6	Japanese: Writing 6 A	JW-6A	
	Japanese: Writing 6 B	JW-6B	
JW-7	Japanese: Writing 7 A	JW-7A	
	Japanese: Writing 7 B	JW-7B	
JW-8	Japanese: Writing 8 A	JW-8A	日本語Ⅶ (Q1)
	Japanese: Writing 8 B	JW-8B	

留学生を対象にした日本文学の授業

Japanese literature class for international students

齊 藤 信 浩*

1. はじめに

日本語・日本文化研修コース(JLCC)で開講された留学生のための日本文化・日本事情の授業の科目として「日本文学」の授業を実施した。文学に対する価値観は国によって大きく異なっており、生涯で小説を一冊も読まない、文学というものは必要がないと認識する人もある。確かに、文学自体は情操教育の分野に宛がわれており、技能教育としての語学などの実学とは異なっている。しかし、日本語学習者にとっては日本文学の学習は実学に近い意味がある。語彙や文法の実際の使用方法や、日本語ならではの表現など、上級レベルに達した学習者であれば、文学作品から得られる日本語の知識は価値的なものとなってくる。しかし、本クラスの開講の目的は、日本語の学習からは離れ、日本文学の知識を提供することに主眼を置いてシラバスを構成した。単に言語能力が高いたくだけではなく、教養としての日本文学の知識を得ることは有意義なことである。英語学習者であればシェイクスピアを、ロシア語学習者であればドストエフスキーを一作品くらいは読んでおいてほしいという教師側の期待があるように、日本語学習者もある程度の文学知識を持ってほしいという期待がある。本授業は、高邁な文学論を語るようなものではなく、日本の代表的な作家の何人かを紹介し、作品の一部に触れ、この授業をきっかけに日本文学に当たってみようかと思わせることを目的としている。本稿では、その実践報告をしていく。

2. シラバス

このクラスは2015年度後期に始まり、2016年度前期、2016年度後期と、実施し、翌年度からは後期のみ開講となり、9学期7年間実施した。授業を実施する中で、少しずつ、問題点を修正しながら、現在のシラバスに発展させていき、2018年度には現在のシラバスのかたちに落ち着いている。2021年度のシラバスを表1に示す。1授業1作家の原則を立て、その作家の作品の中でもわかりやすいものや、短いもの、という基準を立てて作品(題材)を選別した。必ずしも文学作品ばかりではなく、スピーチや自叙伝のようなものも取り上げた。「原文読解」は作品の原文をプリントで読ませる作業であ

*九州大学留学生センター准教授

り、「映像資料」は作品を DVD や YouTube で視聴させた回である。

表 1 2021年度のシラバス

	作家	題材	主な話題	原文読解	映像資料
1 回目	芥川龍之介	蜘蛛の糸	罪と罰	○	○
2 回目	葉山嘉樹	セメント樽の中の手紙	プロレタリアート	○	
3 回目	太宰治	人間失格	太宰治の思想		○
4 回目	太宰治	走れメロス	正義、約束	○	○
5 回目	宮澤賢治	雨ニモマケズ		○	○
6 回目	宮澤賢治	注文の多い料理店	宮澤賢治の自然観	○	○
7 回目	宮澤賢治	よだかの星	いじめ	○	○
8 回目	村上春樹	エルサレムのスピーチ、100% の女の子	村上春樹の考え	○	○
9 回目	村上春樹	女のいない男たち	比喩表現の文体	○	
10 回目	村上春樹	パン屋襲撃	村上春樹と村上龍		○
11 回目	黒柳徹子	窓際のトットちゃん	教育	○	
12 回目	三島由紀夫	ヨイトマケの唄	三島の人生		○
13 回目	三島由紀夫	三島事件（割腹余話）、憂国	愛国		○
14 回目	森鷗外	高瀬舟	安楽死	○	○
15 回目	発表	自国の有名な作家・作品を紹介する			

表 1 では、学期の後半に発表が 1 回入っている。学生数によって、2 回に増やしている年度もある。発表については後段の章で詳述するが、やはり、本科目が、語学の訓練を目的とした授業ではなく、内容ベースの座学形式の授業であるため、発表よりも、多くの知識を提供するべきであると判断し、2016年度後期から2018年度後期までは、学生の発表の回を無くし、全て講義形式の構成にしたが、その後、2019年度からは再度発表を復活させている。それ以降の 2 年間は内容の精密化とプレゼンテーションの改善に力を注いだ。

3. 各回の授業内容

3. 1. 芥川龍之介（1 回目の授業内容）

全ての回の授業報告をする紙面の余裕がないため、いくつかの回を紹介する。概ね、同様のスタイルで授業を進行させている。まず、どの回も、新規の作家の話題に入る際には、スライドを使って、その作家の生涯を紹介している。そして、代表作の題名を紹介し、その中から代表的な作品を読んだり、試聴したりするという流れを取っている。

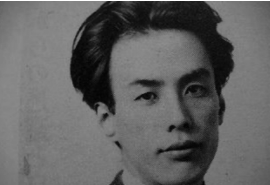
1 回目の芥川龍之介の回は、1 回目のため、事前準備 2 のような歴史的仮名遣いを説明するターンを入れている (④)。一見、難しそうに見えるが、作品『蜘蛛の糸』を読ませると、二段落も読めば、皆、慣れて読めるようになっていく。しかし、やはり混乱するため、下線を引いて示すような工夫をした (⑤)。

表2 1回目 芥川龍之介『蜘蛛の糸』

授業内容			補助教材 1	補助教材 2	補助教材 3
15分	導入	芥川龍之介の生涯と作品の紹介	ppt		
5分	話題	各国の天国と地獄について尋ねる	ppt		
8分	事前準備 1	単語の確認	ppt	プリント	
10分	事前準備 2	歴史的仮名遣いの確認		プリント	
20分	作品 1	原文読解		プリント	
7分	作品 2	作品視聴			YouTube
15分	内要確認	内要確認シートを記入する		プリント	
10分	議論	シートから意見を言わる		プリント	

① 芥川龍之介の生涯と代表作の紹介（15分）

スライド10枚で芥川の人生を年齢で追っていきつつ、紹介をする。

経歴  1892年(明治25年) 東京市京橋区で生まれる 生家は牛乳屋を営む。 	経歴  21歳: 東京帝国大学英文科 22歳: 『老年』でデビュー 23歳: 夏目漱石の主催する 「木曜会」に参加する。
経歴  代表作 『鼻』 『蜘蛛の糸』 『芋粥』 『羅生門』 『地獄変』 『トロツコ』 『杜子春』 『南京の基督』 『或阿呆の一生』	自殺の理由 時代: 長編小説が流行し、短編小説の人気の低下していた。 性格: プライドが高い天才タイプ。 東京出身で、出が良かった。 ↓ 「ぼんやりとした不安」という言葉を遺して自殺 (35年の人生でした)

② 各国の地獄のイメージについて質問し、語ってもらう（5分）

スライド2枚で日本の地獄のイメージを説明し、それぞれの国の地獄を学生に訊いてみる。ここで「極楽」「お釈迦様」「地獄」「三途の川」「鬼」「血の池」「針の山」などの語彙も出して、スライドのイラストと共に、説明してしまう。

③ 事前準備 1 単語の確認 (8分)

特に難易度が高い語彙を選んで、原文読解の前に説明を入れる。日本語の授業ではないので、細部の語彙については飛ばし読みをしてもらうことを期待している。初回のため、授業内で語彙説明を行ったが、2回目以降は、語彙のプリントを配布して、事前に読んでおくように指示をしている。

蕊(ずい)		
視き眼鏡(のぞきめがね)		
蠢めく(うごめく)		= (verb) wriggling insect
咽ぶ(むせぶ)		= to sob
蛙(かわず)		
存外(ぞんがい)		= 思ったよりも
獨楽(こま)		
頓着(とんちゃく)		する = 関心を持つ
蓐(うてな)		

④ 事前準備 2 旧仮名遣いの確認 (10分)

隅々までではないが、A4で2ページの word ファイルを配布し、ポイントを説明する。

促音の小さな「っ」は「つ」と表記する	まって	→	まつて
拗音の小さな「ゃ、ゅ、ょ」は「や、ゆ、よ」と表記する	いっしょに	→	いっしょに
現代仮名遣い：ちよつとまつてください、きつと1時には来ますから。			
歴史仮名遣い：ちよつとまつてください、きつと1時には来ますから。			

⑤ 作品 原文読解 (20分)

A4で2枚なので、何とか、字を追いつながら読むことができる。細部は意識せず、全体的な内容を取るように指導している。振り仮名は教師が振っており、下線は旧仮名遣いを示している。

あるひ こと
或日の事でございます。御釋迦様は極楽の蓮池のふちを、獨りでぶらぶら御歩きになつていらつしやいました。池の中に咲いてゐる蓮の花は、みんな玉のやうにまつ白で、そのまん中にある金色の蕊(ずい)からは、何ともいへない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。ごくらく ちょうど
極楽は丁度、朝なのでございませう。

おしやかさま おたたず
やがて御釋迦様はその池のふちに御佇みになつて、水の面を蔽つてゐる蓮の葉の間から、ふと、下の容子を御覧になりました。この極楽の蓮池の下は、丁度、地獄の底に當つて居りますから、水晶のやうな水を透き徹して、三途の河や針の山の景色が、丁度、視き眼鏡を見るやうに、はつきりと見えるのでございます。

⑥ 作品 映像を見る (7分)

原文の読解だけでは、ストーリーを捉え切れていないと予測されるため、7分の短いアニメーションを見せて、原文読解と映像視聴で二重に『蜘蛛の糸』の作品を理解させる。



⑦ 内容確認 (15分)

「考えてみよう」のシートを配布し、時間を与えて考えさせる。

この小説の中で「おかしい。変だ」と感じた部分がありますか。2つあげてみてください
1)
2)

⑧ ディスカッション (10分)

お釈迦様は何をしたかったのだと思いますか？

原文読解にかかる時間は、年度によってかなり差が出てくる。日本語力が高い学生が多ければ、順調に進むが、日本語力が低い学生が多い場合は、時間がかかる。それでも、A4で2ページなので、20分を超えることはなかった。実際には、原文読解 (⑤) で「何となく」理解させた後に、アニメを見せることで (⑥) ほぼ完全にストーリーが取れるようである。内容確認 (⑦) の作業として、「この作品でおかしい、変だ」と思った箇所があるかを聞いてみると、「糸を上るのは無理」など、様々な意見が出てくるが、どんどん教師が学生を当てて答えを出させていく中で、「蜘蛛を助けたことくらいで、地獄から出してもらうのはアンバランスなのではないか」「この方法だと他の罪人もみんな極楽へ行けてしまう」というターゲットとなるワードが出たら板書する。その⑦の結果をヒントにしながら、「お釈迦様は何をしたかったのか」をディスカッションのテーマとして10分程度話し合ってみる (⑧)。すると、「お釈迦様は何もする気がなかったのではないか」「お釈迦様は遊んだだけだったのでは」など、芥川の描きたかったであろう結論が出てくる。

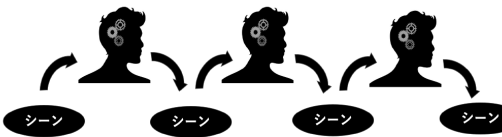
3. 2. 村上春樹 1 (8回目の授業内容)

8回目の村上春樹の回では、2009年2月15日にエルサレム賞受賞の際に、エルサレムで行った「壁と卵 Of Walls and Eggs」のスピーチを題材に取り上げた。これは英語が原文であるため、欧米系の学生たちも理解しやすく、村上春樹の思想として紹介し、議論を行った。但し、授業内で読むのは日本語翻訳の箇所を読み、英語は併記してある。

表3 8回目 村上春樹「エルサレムのスピーチ」

授業内容			補助教材 1	補助教材 2	補助教材 3
20分	導入	村上春樹の生涯と作品の紹介	ppt		
15分	作品	エルサレムのスピーチを読む		プリント	
15分	議論	内容について議論する		プリント	
10分	確認	内容のフィードバック	ppt		
15分	作品	100%の女の子			DVD
10分	感想	感想を聞く			
5分	話題	ノーベル文学賞について	ppt		

① 村上春樹の生涯を年齢と共に追って紹介し、作品の特徴も紹介する（20分）

村上春樹 	1949年1月12日 京都市伏見区生 父：京都府長岡京市の寺の息子 母：大阪市船場の商家の娘 兵庫県西宮市へ移住 （父の就職：中学校の国語教師） 小中高と西宮で過ごす 関西人で、本来は関西弁 高校生の頃、父の日本の古典文学の話にうざりし、翻訳文学を読み始める。	村上作品の文章の特徴5 平易な文体で、高度な内容を取り扱い、現実世界から、非現実の異世界へ繋ぎ目なく移動する。 
---	--	---

② エルサレムのスピーチを読む（15分）

私は、今日、小説家としてエルサレムにきました。いわば、職業的な、嘘の紡ぎ手として来たわけです。

I have come to Jerusalem today as a novelist, which is to say as a professional spinner of lies.

もちろん、嘘をつくのは小説家に限りません。ご存知のように、政治家も嘘をつきます。外交官も、軍人も、中古車のセールスマンも、肉屋も、建築屋も、折に触れて、彼らなりの嘘をつきます。しかし、小説家のつく嘘は、ある意味異なっています。小説家が嘘をついたからといって、誰も、その小説家を、不道德だと非難することはないのですから。実のところ、嘘が大きく巧みであればあるほど、そして、独創的に嘘をつけばつくほど、人々や批評家に讃えられることでしょう。これはいったいなぜなのでしょう。

Of course, novelists are not the only ones who tell lies. Politicians do it, too, as we all know. Diplomats and military men tell their own kinds of lies on occasion, as do used car salesmen, butchers and builders. The lies of novelists differ from others, however, in that no one criticizes the novelist as immoral for telling them. Indeed, the bigger and better his lies and the more ingeniously he creates them, the more he is likely to be praised by the public and the critics. Why should that be?

- ③ 内容について考えさせる（10分）
- ④ ディスカッション（10分）
- ⑤ 内容についてのフィードバック（5分）
- ⑥ 作品 DVD 視聴『100%の女の子』（15分）
- ⑦ 感想を聞く（5分）
- ⑧ ノーベル文学賞について（5分）

考えてみましょう

Q.1 このスピーチは3部構成になっています、キーワードを探しましょう。

(と)()()

Q.2 このスピーチについて、何を思いましたか？

エルサレムのスピーチを読んだあと、内容について考えさせるため、「考えてみましょう」というスライドに、まずはキーワードを3つ探させる(③)。キーワードは「卵と壁」「システム」「父の平和への祈り」であり、その後、このスピーチについて何を思ったかを発言してもらう。答えはないので、自由に思ったことを言わせる(④)。その後、批評家たちの批判やそれに対する村上の反論についてを紹介する(⑤)。

残りの時間は15分で『100%の女の子』のDVDを試聴し(⑥)、簡単に感想を聞く(⑦)。最後に、ノーベル文学賞とハルキストについてスライドを使って紹介をする(⑧)。

4. レポートと発表

レポートは、期に2回、出している。1回目のレポートは、4回目の授業が終わった時点で、出題し、1ヶ月程度の期間で作成させている。レポートの出題は芥川龍之介の『鼻』を読んで、その感想を書くこと、である。レポートとして選ぶ条件としては、1) 学生が辞書を引きつつ読み切れる長さであること、2) 考えさせうる素材でありつつも、過度に難解なストーリーではないもの、3) 学生に配布するので、著作権が切れていて自由に使用できるもの、の3点が挙げられる。このレポートはこの科目が開講されて以降、同じテーマで作成させている。2回目のレポートは、13回目(年度によっては12回目)の三島由紀夫の『憂国』のショートフィルムを観て、それについての感想を書くものであり、何かを読んで書くのではなく、ショートフィルムを観て感想を書く形式のものにしている。レポートの内容については、個々人の著作権の問題があるので、詳細には紹介できないが、評価のポイントとしては、内容が理解できて要点を抑えられているかを基本として、各自の意見がどのように展開されているかを評価のポイントにした。

発表は、14回目と15回目の最後の回で学生に発表をさせる。11回目の授業でアナウンスをし、各自に作成をさせる。15分の持ち時間(10分の発表と5分の質疑応答)で、自国で有名な作家の紹介か作品の紹介(大抵は両方にまたがるが)をさせた。発表の内容についても個人の著作権の問題もあるため、詳細には記述できないが、それぞれの国の有名な作品や作家の紹介は非常に興味深く、授業に参加した学生たちも様々な国の文学事情に触れることが出来、教師も学生も大きな学びの機会となった。

5. おわりに

評価の割合は、基本的に、出席20%、レポート50%、発表10%、クラス活動20%、としており、出席とクラス活動の評価が高い。レポートは、各25%で想定しており、提出さえすれば大きな減点は発生しない。この授業が目的としている内容は「日本文学を理解する」というもので、授業についてくるのは、上級の留学生の日本語力でもやや困難である。そのため、授業にきちんと参加すれば得点が取れるように設定をしている。その結果、ほとんどの学生はB以上(素点80以上)で合格をしている。

この科目は日本語教育の科目ではなく、日本事情科目であるため、日本語の補助は最小限にしたが、事前に語彙リストを配布したり、映像に字幕のあるものを選んだりし、理解の助けになるような工夫はした。しかし、日本語教師の日本語のコントロール力はやはり特筆すべきものがあり、このような内容のクラスでも、スライドやプリントの助けを得つつ、クリアな日本語で進行すれば、留学生にも十分に伝わるのがわかった。

教師にとっては、日本語教育と国語教育の接点を考えさせられる授業でもあり、学生にとっては、日本語学習から内容学習へと移行する訓練にもなる授業である。日本事情科目に何を設定し、どのように運ぶかは、日本語教育のゴールをどう設定するかを考えることでもあると思われる。

参考文献

石原千秋（2013）『教養として読む現代文学』朝日新聞出版

大久保典夫・高橋春雄・保昌正夫・薬師寺章明編（1988）『現代日本文学史』笠間書院

水戸部修治編著（2015）『単元を貫く言語活動を位置付けた文学の授業づくり その基礎・基本と代表教材実践事例』明治図書

補講コース・日本語 (JTCs)

Japanese Training Courses (JTCs)

齊 藤 信 浩*

1. はじめに

九州大学は留学生に対して、大きく2つの日本語コースを提供している。1つは、修了要件として語学の単位を必要とする学部留学生と学部交換留学生に対して、Japanese Academic Courses (JACs) が基幹教育院の1科目として開講されており、約170名前後の留学生が日本語を学んでいる。もう1つは、修了要件として語学の単位を必要としない大学院所属の留学生に対して、Japanese Training Courses (JTCs) が補講科目として開講されており、大学院所属に該当する、修士・博士・研究生・大学院交換留学生を中心に、約300名前後の留学生が日本語を学んでいる。九州大学は、JACs と JTCs の二段構えの構成で、日本語の受講を希望するほぼ全ての留学生に日本語の授業を提供している点において、非常に先進的である。JACs と JTCs は、伊都キャンパス (メインキャンパス) で開講されている日本語コースであるが、3箇所の分散キャンパスのうち、馬出キャンパスは規模が小さく、十分な教育を提供することが難しかったが、オンライン授業の発達により、JTCs で実施されるオンライン授業に統合することが可能となった (齊藤・田尻・浅賀 2022)。オンラインによって、今後もコースの効率化が図られていくものと思われる。以下、図1は、日本語コースの変遷を示したものである。

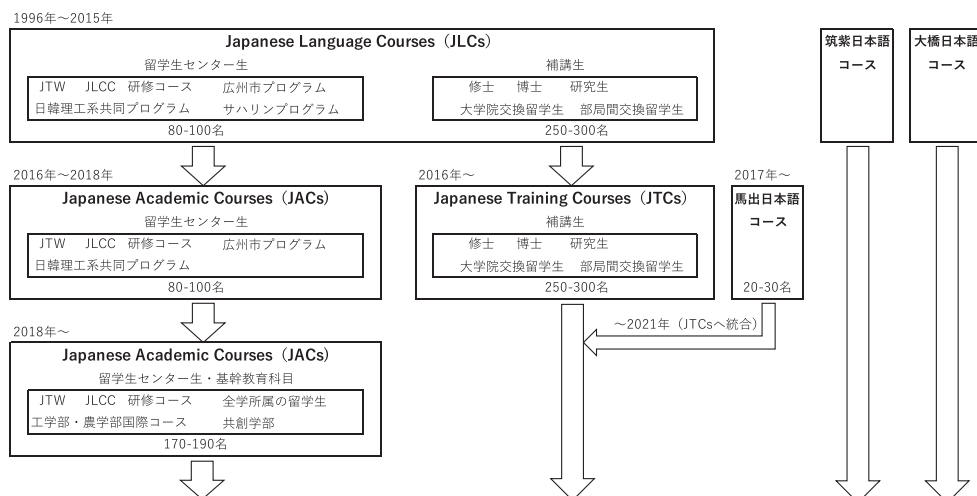


図1 留学生センター開講の日本語コースの変遷

*九州大学留学生センター准教授

1996年に、JLCs というかたちで、横断的な日本語コースが開講され、長期間、この体制で日本語の授業が提供されてきたが、単位を必要とする留学生センター生を中心として構成されていた JLCs は、単位を必要としない補講生にとっては、授業の進度・課題・期末試験などのハードルが高く、最後まで継続するのが難しかった。大学院所属の学生は各所属の院で研究活動を行う一方、日本で生活上必要な日本語の習得が必要であり、補講科目として、自由選択で JTCs を受講することができるように、箱崎キャンパスから伊都キャンパスへのキャンパス移転を機に、JACs と JTCs に分離独立させた。

JTCs（補講コース）は、基本的には、大学院で英語による研究活動を行うことが前提で入学が許可された大学院留学生を対象としており、彼らが日本で生活するために必要な日本語を教育する、生活保障のための日本語であり、初級に力点が置かれている。言わば、九州大学が、日本語のできない留学生に対して日本生活で保障する「セーフティネット」のような機能を果たしていると言える。以下、2022年度の JTCs の報告をする。

2. JTCs のコース構成

2. 1. コースの期間について

令和4年度（2022年度）のコースの募集、及び、開講期間は以下、表1の通りである。

表1 令和4年度（2022年度）開講スケジュール

	前期	後期
受講申し込み	4月13日～4月18日	10月19日～10月24日
オンラインテスト	4月13日～4月18日	10月19日～10月24日
レベル結果通知	4月20日	10月26日
クラス選択	4月21日～4月23日	10月27日～10月29日
授業開始～授業終了	5月10日～7月15日	11月2日～1月27日

受講申込期間とオンラインテスト（OT）の期間は一致している。留学生センターが保有するオンラインシステムでは、この日程をずらすことも可能だが、受講＝OTを受験してレベル判定を受けること、を基本条件にしているため、受講申込とOTの期間は、通常は一致する。そして、オンラインシステムに入った得点から、J1からJ7までの7段階にレベル分けがされ、受験者にはレベル結果通知がシステムからのメールで送信される。その後、クラス登録期間に、再度、オンラインシステムに入って、自分の受講したいクラスを選択する。

2. 2. 受講までの手続きについて

受講までの手続きは全てオンライン上で行われる。受講を希望する学生は、受講申し込み期間内に留学生センターのホームページの中にある、for International Students の下の「Japanese」へ進み、その中の「詳細 /see more」で情報をとり、「Online Placement Tests」をクリックすると、申し込みの画面が現れる。ここで申し込みとオンラインテストを行う。オンラインテストは、日本語1の希望者は

登録のみとし、日本語 2 以上の希望者には、文法・読解・聴解の 3 つのプレースメントテストを課している（図 2 の動き）。

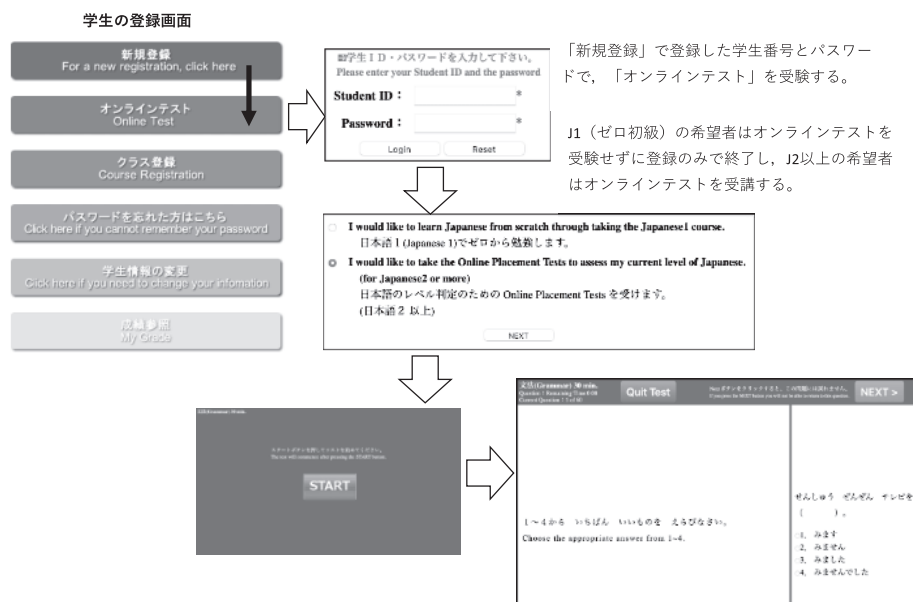


図 2 オンラインプレースメントテストまでの流れ

オンラインテスト終了後、「レベル結果通知」が学生へメール配信され、学生は自分のレベルを知り、クラス選択期間にどのクラスが良いかを「クラス登録」の機能を用いて、自分で選択する（図 3 の動き）。

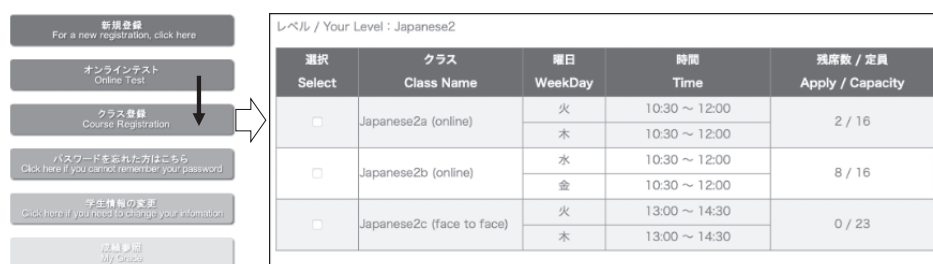


図 3 オンラインによるクラス登録までの流れ

図 3 は、J2のレベルに判定された学生が、「オンラインテスト」に入った場合、J2のクラスしか出現しない仕組みになっている。例えば、自分のレベルが J2であることを「レベル結果通知」で知った学生は、開講されている日本語 2 の 3 種類のクラス（Japanese2a online、Japanese2b online、Japanese2c

face-to-face)の中から、自分の都合の良い日程のクラスを選択し、「クラス登録」で登録をする。クラス選択は早い者順としている。図2、図3の通り、登録>オンラインテスト>結果通知>クラス選択、までの一連の中で、学生とスタッフが面することはなく、全て、オンライン上で処理されている。このシステムのおかげで、全学の大学院の各部局に散在する300名前後の大学院留学生をスムーズに処理できているのである。

2. 3. コースの構成について

以下の、表2と表3は前期と後期のコース一覧である。前期も後期も、日本語1から日本語7までの7レベルがある。コース構成を見ると、最上級でも中級後半で終了しているのがわかる。補講コースは、英語で研究活動をすることが前提で入学が許可された大学院留学生を対象としており、日本語力によって入学した留学生に対する日本語教育は考慮していない。従って、上級の日本語作文や発表の練習などのような上級日本語のクラスは用意されていない。しかし、来日後、日本語の会話を滑らかにする程度の目的で、日本語6や7に入る研究生や修士の留学生もいるため、7レベルまでが用意されている。

表2 令和4年度(2022年度)前期の授業構成

レベル基準	レベル名称	教科書	クラス数
中級後半 (inter-mediate2)	日本語7 (Japanese7)	中級を学ぼう 中級中期	1
中級 (inter-mediate1)	日本語6 (Japanese6)	中級を学ぼう 中級前期	1
中級入門 (pre-intermediate)	日本語5 (Japanese5)	中級へ行こう	3
初級後半 (elementary3)	日本語4 (Japanese4)	GENKI II	2
初級2 (elementary2)	日本語3 (Japanese3)	GENKI II	2
初級1 (elementary1)	日本語2 (Japanese2)	GENKI I	2
入門 (beginners)	日本語1 (Japanese1)	GENKI I	3

表3 令和4年度(2022年度)後期の授業構成

レベル基準	レベル名称	教科書	クラス数
中級後半 (inter-mediate2)	日本語7 (Japanese7)	留学生のためのケースで学ぶ日本語	1
中級 (inter-mediate1)	日本語6 (Japanese6)	中級を学ぼう 中級前期	1
中級入門 (pre-intermediate)	日本語5 (Japanese5)	中級へ行こう	3
初級後半 (elementary3)	日本語4 (Japanese4)	GENKI II	3
初級2 (elementary2)	日本語3 (Japanese3)	GENKI II	3
初級1 (elementary1)	日本語2 (Japanese2)	GENKI I	2
入門 (beginners)	日本語1 (Japanese1)	GENKI I	5

日本語7	9										
日本語6	15										
日本語5a	12	日本語5b	15	日本語5c	10						
日本語4a	12	日本語4b	13	日本語4c	10						
日本語3a	22	日本語3b	16	日本語3c	14						
日本語2a	14	日本語2b	8	日本語2c	23						
日本語1a	19	日本語1b	11	日本語1c	10	日本語1d	9	日本語1e	20	日本語1f	17

3. 2. コース申請者の内訳（所属・身分別）

表7と表8はコース申請者の所属部局と身分（修士・博士・研究生・交換留学生）別に集計したものである。前期と後期の比較で、交換留学生の回復が顕著に見られる。

表7 令和4年度（2022年度）前期の所属・身分別の申請者数内訳

	修士	博士	研究生	交換留学	部局別計
生物資源環境科学府	17	14	3		34
芸術工学部・芸術工学府	1	3			4
経済学部・経済学府	11	3	3		17
教育学部				1	1
統合新領域学府	2	1	2		5
地球統合科学府	5		2	1	8
人間環境学府	6	2	8	3	19
システム情報科学府	2	5	7		14
システム生命科学府		1			1
法学部・法学府	10			2	12
文学部・人文科学府	1	1	6		8
数理学府	2	2	3		7
歯学部・歯学府					0
医学部・医学府	1	6	1		8
薬学部・薬学府			2		2
理学部・理学府	2	9	6	1	18
工学部・工学府	8	13	9		30
農学部			3		3
課程別計	68	60	55	8	191

国籍（上位5ヶ国）：中国 82、ベトナム 12、インドネシア 12、韓国 8、ミャンマー 7

表8 令和4年度（2022年度）後期の所属・身分別の申請者数内訳

	修士	博士	研究生	交換留学	部局別計
生物資源環境科学府	12	19	2	3	36
芸術工学部・芸術工学府					0
経済学部・経済学府	14	4	3	12	33
教育学部				1	1
統合新領域学府		2	2		4
地球統合科学府	6	1	4	1	12
人間環境学府	5	1	17	3	26
システム情報科学府	3	3	8	1	15
システム生命科学府					0
法学部・法学府	27		2	5	34

文学部・人文科学府	4	1	4	6	15
数理学府	1	2	2	2	7
共創学部				12	12
歯学部・歯学府		16	6		22
医学部・医学府		13	1		14
薬学部・薬学府		1	3		4
理学部・理学府	3	2	4		9
工学部・工学府	14	16	4	29	63
農学部			13	1	14
課程別計	89	81	75	76	321

国籍（上位5ヶ国）：中国141、インドネシア16、ドイツ15、エジプト12、ベトナム9

4. JTCs のオンライン化の改革について

2020年度から巻き起こったコロナの影響で、一旦、全てのクラスがオンラインで提供されるという事態に陥ったが、しかし、前向きに考えると、これによって大幅にオンライン化が進み、各種の資料やプリントなどが電子化され、moodle によってファイルの受け渡しをするような体制が構築された。ペーパーレス化が一気に進んだことは非常に大きな前進であったとも言える。また、教員の全てが zoom によってオンライン授業を提供できるスキルを保有したことも非常に大きな前進であったと言える。JTCs では2022年度の前期までは全ての授業を zoom によるオンラインで提供した。しかし、2022年度後期には、対面クラスを復活させることになった。しかし、JTCs を受講する留学生は大学院所属の学生たちであり、実験や研究調査、学会など、様々な予定があり、教室に通うということが困難な学生も多い。そのため、一部のクラス、特に、JTCs が補講の対象としている初級から中級までの J1から J5までのクラスは、対面のクラス（face-to-face）に加えて、オンラインのクラス（online）を併存させることとした。

この改革により、従来、J1と J2のクラスしか開講されていなかった馬出キャンパスの学生が J5までのクラスを受講できるようになった。対面のクラスが馬出ではなくなるという負の側面はあったものの、適切な教育サービスを受けられることのほうが価値がある。この馬出と JTCs の統合は、非常に大きな合理化だったと言える。元々、受講登録からオンラインテスト、クラス登録まではオンライン化がされており、今回のオンラインと対面の併存の構築は殆ど労力がかからなかった点においても、有効な改革だったと言える。

5. おわりに

3章で数字を示したように、学生数の回復が顕著である。コロナによる2年のあいだ、学生数が少なく抑えられていたわけだが、これは突発的な事件のようなものであり、2019年度までの流れを見る

と、留学生数は増加傾向にあった。2022年度後期に留学生数が2019年度のコロナ前の水準に戻ったということからも、この後は再度、増加に転じていくことは間違いないと思われる。そのための準備として、JTCs は既に準備ができており、予算さえ確保できれば、横並びにクラス数を J1abcdef…のように増設させるだけで、このコースに更に数百人を受容する体制ができています。

JTCs は、総合日本語 (J) の 1 コースのみの運営であることから、オンラインテストの実施やレベル・クラス分けが簡便であることが JACs との違いであり、利点でもある。今後は、moodle を JTCs で統一的に運用できるように改善を図っていくことが有効な改善方法であると思われる。オンライン化を後退させず、如何にして発展的にコースに持ち込んでいくかが今後の重要な課題であろう。

参考文献

- 斉藤信浩・田尻由美子・浅賀智絵 (2022) 「病院地区・日本語コース」『九州大学留学生センター紀要』第30号、pp.51-58.
斉藤信浩 (2022) 「補講コース日本語 (JTCs)」『九州大学留学生センター紀要』第30号、pp.45-50.

農学部・工学部の学士課程国際コース生に対する日本語教育

— 2022年度の実施状況 —

2022 Overview of the Japanese Language Education for those in the Undergraduate International Program in English (IUPE) at the Faculties of Engineering and Agriculture

柴 田 あづさ*

1. はじめに

今年度は、農学部と工学部の学士課程国際コース（以下、IUPE¹）に入学した留学生（以下、IUPE生）が留学生センターの提供する Japanese Academic Courses（以下、JACs）を受講する体制に移行して5年目を迎えた。IUPE生は、I（総合日本語）コース、K（漢字）コース、S（会話）コース、W（作文）の4コース／8レベル編成のJACsの中からIコースとKコースを受講し、それを基幹教育・言語文化科目「日本語」に読み替え、単位を得ている。以下では、2022年度の1年生の受け入れと2年生に進級したIUPE生のJACs受講に関する概況を報告する。

2. JACs 受講までのスケジュール

新型コロナウイルスの影響による入国制限が緩和され、今年度のJACsの授業は初回のみ全クラスZoomによるオンライン（同時双方向型）で実施し、二回目以降はクラスの全員が福岡にいる場合は基幹教育の方針に沿って基本的に対面授業に移行した。表1および表2は、10月に入学した新1年生と、10月に進級した新2年生のJACs受講までのスケジュールを示したものである。

表1 2022年度新1年生のIUPE生のJACs受講までのスケジュール

9月19日～9月30日 13:00	JACs システムへの受講登録、OT 受験
9月29日 10:30	基幹教育ガイダンスでのJACs受講オリエンテーション
10月3日	受講クラスの結果発表
10月6日	JACs 受講開始

*九州大学留学生センター准教授

1 International Undergraduate Program in English の略。

表2 2022年度新2年生以上の IUPE 生の JACs 受講までのスケジュール

9月19日～9月30日 13:00	JACs システムへの受講登録、OT ² 受験 (I コースのレベル変更希望者のみ)
10月3日	受講クラスの結果発表
10月6日	JACs 受講開始

2022年度クォーター3の授業開始時、JACsを受講するIUPE生は全員が日本在住であった。

新1年生は、農学部3名、工学部17名で、JACs履修の案内メールは昨年と同様に基幹教育教務係から代理送信された。IUPE新1年生のJACs受講オリエンテーションは、昨年度はオンラインのIUPE生向け基幹教育ガイダンスの中で実施されたが、2022年度は共創学部新1年生と合同で対面により開催され、窓口担当教員（柴田／以下、窓口担当教員）が英語で説明を行った。

一方、新2年生以上でJACsを受講した者は、農学部6名、工学部18名であった。受講登録の案内メールは、新1年生と同様、基幹教育教務係に送信を依頼し、期間中にクォーター3とクォーター4の登録するよう促した。

3. 受講レベル（コース）調整の結果

1年生はOTの結果により判定されたレベルに、また、2年生はレベルアップする者を除いてクォーター1およびクォーター2に受講したJACsの成績評定に基づき決定されたレベルの授業に出席した。そして、適当な難易度でないと教員が判断した場合は適切なレベルに移動し、クォーター3開始後2週間ほどで各留学生の最適な受講レベルが確定した。

4. 日本語免除科目のR認定

JACsおよび基幹教育、農・工学部の卒業要件に関する取り決めでは、IUPE生は1年時にIコースとKコースを、2年時はIコースのみを受講し、日本語科目の単位を計10単位修得することになっている。しかしながら、IUPE生の中には、日本語と他言語の2つの母語や第一言語を持つ者がおり、JACsのプレースメントテストで日本語がネイティブレベルだと判定されれば日本語科目の全てまたは一部の履修が免除され、基幹教育の別科目を履修し単位修得することで読み替えを行っている。だが、2021年度に入り、この方式ではIUPE生の卒業および進級判定に支障をきたす恐れが出ることがわかった。そこで、2021年12月に関係者で協議し、2022年度10月以降の新入学生からはJACsのプレースメントテストの結果をもって、日本語免除科目は履修したものとみなし、成績を「R」³として認定することが決まった。同時に、2020年度以前に入学したIUPE生についても、生まれ育った言語環境の影響で日本語科目の全てか一部が免除されるか、2年時にIではなくKコースを履修した場合は、同様の方法で単位が認定されることとなった。

2 インターネット上の日本語のレベル判定テストで、文法、読解、聴解の3種類がある。

3 「R」はRecognitionの略。

なお、2022年度以降、日本語免除科目を「R」として認定する手続きは、新1年生がJAC プレースメントテストを受験し、免除する日本語科目が確定した後、JACs コーディネーターが「10月入学者に係る日本語科目単位認定報告書」を基幹教育教務係に提出する形で行われる。表3には、今年度日本語科目が「R」として認定された IUPE 生の入学年度と学部、人数を示している。

表3 JACs 日本語免除科目の「R」認定の状況

入学年度	学部、認定学生数
2018年度	農学部 2名
2020年度	工学部 2名
2021年度	工学部 1名
2022年度	工学部 3名

5. IUPE 生の JACs 受講に関わる今後の課題

留学生センターが提供する JACs を IUPE 生が受講する体制に移行した4年目である昨年に続き、2022年度も文法と漢字のレベルに開きのある新2年生に対して、IではなくKを受講する特別の対応をとる必要が出た⁴。だが、こうした取り扱いについて、『IUPE 履修要項』には明記されていない。そのため、これを知らず申し出なかった一部の学生に不利益が生じることが想定され、過去の窓口担当教員の頃から『IUPE 履修要項』の改定、つまり日本語レベルが日本語母語話者相当である学生の状況に応じた対応に関する記載が必要であるという提案を行ってきたが、未だ対応はなされていない(岡崎2020, 酒井2021, 柴田2022)。

また、工学部の『IUPE 履修要綱』の履修細目が『日本語では、「Integrated Courses (1)」から6科目6単位以上および「Kanji Courses (1)」から4科目4単位以上を修得しなければなりません。』というものから、2021年度以降『日本語では、「Integrated Courses (1)」、「Kanji Course (1)」から各4科目4単位以上、全体で10単位以上を修得しなければなりません。』という説明書きに変更された点についても、昨年度に続き JACs 運営側の課題となっている⁵。これは工学部側の、2年生進級時にIコースに代えてKコースを履修する学生が複数名出たことへの対応であったが、変更後の説明は、全ての2年生がIコースに代えてKコースを選択可能であると読み取ることができる。IUPE 生の中には母語や生育環境によらず、2年生でIコースではなくKコースの履修を希望する者が少なからずおり、こうした学生の要望を聞き入れればJACsのKコースは定員超過の問題が起こる可能性が高い。この事案について、工学部および基幹教育の担当者からは、「原則はIを6単位、漢字を4単位を取るべきであること」と学生に責任を持って指導すると説明を受けており、実際にこのような希望を伝え

4 この学生は日本人の親を持つことから日本語会話は流暢にできるものの、海外で生まれ育ち教育を受けたことで漢字の学習経験が少なく、そのため2年生ではIコースではなくKコースの履修を希望した。

5 英文(正)では以下のように変更された。“Students also have to acquire at least 4 credits each from “Integrated Courses” and “Kanji Courses”, for total of at least 10 credits.”

て来る学生に対応してもらっている。しかしながら、スムーズな履修手続きのためには、やはり「履修要項」に IUPE 生に理解しやすい表現で履修方法の詳細を記載することが重要である。そのため、今後も工学部と基幹教育、そして留学生センターの各担当者間で協議を続け、この問題の解決策を探る必要があると思われる。⁶

参考文献

- Kikan Education(2022) “Information Guidebook for International Undergraduate Program in English and School of Interdisciplinary Science and Innovation (October Enrollment) 学士課程国際コース／共創学部（10 月入学生）履修要項” Kikan Education, Kyushu University, 37-56.
- 岡崎智己（2020）「農学部・工学部の学士課程国際コース生に対する日本語教育 — 2019年度の実施概況 —」『九州大学留学生センター紀要』28, 127-131.
- 酒井彩（2021）「農学部・工学部の学士課程国際コース生に対する日本語教育 — 2020年度の実施状況 —」『九州大学留学生センター紀要』29, 79-81.
- 柴田あづさ（2022）「農学部・工学部の学士課程国際コース生に対する日本語教育 — 2021年度の実施状況 —」『九州大学留学生センター紀要』30, 67-70.

6 2021年度の本報告で課題として述べた「日本語（=JACs）」の単位数に関する規定の英文（正）と日本語訳（副）の表記が一致していない事案については、2022年度に農・工学部それぞれが履修規定を改訂したことで解消されている。詳細は『2022年度学士課程国際コース／共創学部（10 月入学生）履修要項』を参照されたい。

筑紫・大橋地区日本語コース

— 2022年度 —

Japanese Language Courses at *Chikushi/Ohashi* campus (2022)

小 山 悟*

概要

2022年度前期は4月18日（月）から7月1日（金）までの10週間、後期も同じく10月11日（火）から12月23日（金）までの10週間開講した。

〈筑紫地区〉

筑紫地区では2021年度前期に1クラス増設され、現在は表1のような編成でコースを運営している。このうち、初級1から中級までの4クラスは週2回の「総合コース」として教科書準拠で授業を行い、上級クラスは週1回の「技能別コース」として曜日によって授業内容を変え、成績も別々に出している¹。

2022年度の時間割は表2・3に示したとおりである。前期は全ての授業をオンラインで、後期は全てを対面で行った²。なお、木曜日5時間目の「大学院」とは、総合理工学府が独自に開講している日本語正規科目（週1回×15週）のことである。前期に修士対象の「Communication Skills in Japanese (CSJ)」を、後期に博士対象の「Fundamentals of Japanese Communication (FJC)」を開講しており、授業は筆者が担当している³。

表1 筑紫地区のコース編成

コース名	クラス数
初級1	1（週2回）
初級2	1（週2回）
初級3	1（週2回）
中級	1（週2回）
上級	2（週1回）

*九州大学留学生センター准教授

1 よって、どちらか一方のクラスだけを受講することも「可」としている。

2 ただし、受講希望者の中に初回の授業までに渡日できない学生がいた場合には、全員が揃うまでオンラインで授業を行った。

3 予算の出処は異なるが、筑紫地区における日本語学習のニーズを示すデータとして、毎年、留学生センター主催の授業と合わせて報告している。

表2 筑紫地区（前期）の時間割

	月	火	水	木	金
1 時間目					
2 時間目					
3 時間目					
4 時限目		初級 1 初級 3 中級		中級	
5 時間目	初級 1	初級 2	上級 【会話】	初級 2 初級 3 上級 【読解】 大学院	

表3 筑紫地区（後期）の時間割

	月	火	水	木	金
1 時間目					
2 時間目					
3 時間目					
4 時限目		初級 3			
5 時間目	上級 【読解】	初級 1 初級 2 中級	中級 上級 【会話】 大学院	初級 1 初級 2 初級 3	

〈大橋地区〉

大橋地区では現在、筑紫地区より1つ少ない4レベル編成でコースを運営している（表4）。学生たちのニーズに細やかに対応するために、全てのクラスを週1回の「技能別コース」とし、成績も別々に出している。ただし、2022年度後期については、前期に初級1を終えたばかりの学生たち（初級2相当：主に非漢字圏出身の学生）と中級クラスに入るにはやや力が及ばなかった学生たち（初級3相当：

主に漢字圏出身の学生）がそれぞれ一定数いたため、「初級2・3」（合同クラス）として開講した⁴。

表4 大橋地区のコース編成

コース名	クラス数
初級 1	2（週1回）
初級 2	2（週1回）
初級 3	—
中級	2（週1回）
上級	2（週1回）

表5 大橋地区（前期）の時間割

	月	火	水	木	金
1 時間目					
2 時間目		初級 1 【会話】		初級 1 【文法】	
3 時間目		初級 2 【文法】		初級 2 【会話】	
4 時間目					
5 時間目	上級 【作文】	中級 【文法】 上級 【読解】	中級 【会話】		

表6 大橋地区（後期）の時間割

	月	火	水	木	金
1 時間目					
2 時間目					
3 時間目					
4 時間目		初級 2・3 【会話】		初級 2・3 【文法】	
5 時間目	上級 【作文】	初級 1 【会話】 中級 【文法】 上級 【読解】	中級 【会話】	初級 1 【文法】	

2022年度の時間割は表5・6に示したとおりである。前期は一部のクラスを除きオンラインで⁵、後期は全ての授業を対面で行った⁶。

受講者数など

プレースメントテストの申込者数は、前期は101名で、内訳は筑紫が59名、大橋が42名であった。また、後期は122名で、内訳は筑紫が66名、大橋56名であった。その後、辞退する学生や遅れて申し込みをする学生がいたため、最終的な登録者は前期100名（筑紫56名、大橋44名）、後期128名（筑紫68名、大橋60名）となった。ただし、筑紫地区の初級1にはCSJの受講者（2名）とFJCの受講者（21名）が含まれている⁷。

4 授業では同じトピックについてレベルの異なる2種類のハンドアウトを用意した。

5 初級1クラスは、渡日が遅れた学生が複数いたため、ハイブリッドで授業を開始したが、最終的には全員が対面での参加となった。

6 受講希望者の中に初回の授業までに渡日できない学生がいた場合の対応は、筑紫地区と同様である。

7 理由は注3で述べたとおりである。

表7 筑紫・大橋地区の日本語クラス受講者数の推移（前期）

年度	13秋		14前		15前		16前		17前		18前		19前		20前		21前		22前	
担当	鹿島		小山		小山		小山		小山		小山		小山		小山		小山		小山	
地区	合同	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	筑	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	
初級 1	10	12	8	25	5	19	7	26	14	26	13	23	12	5		17	3	21	7	
初級 2	7	6		11	8	14	12	25	8	16	7	11	7	8	3	13	6	11	6	
初級 3														12		10		10		
中級	2	14		10		11	21	14	22	17	6	10	9	13	6	6	9	3	19	
上級				8		12	19	15	16	18	19	10	14	14	7	8	6	11	12	
合計	19	32	8	54	13	56	59	80	60	77	45	54	42	52	16	54	24	56	44	

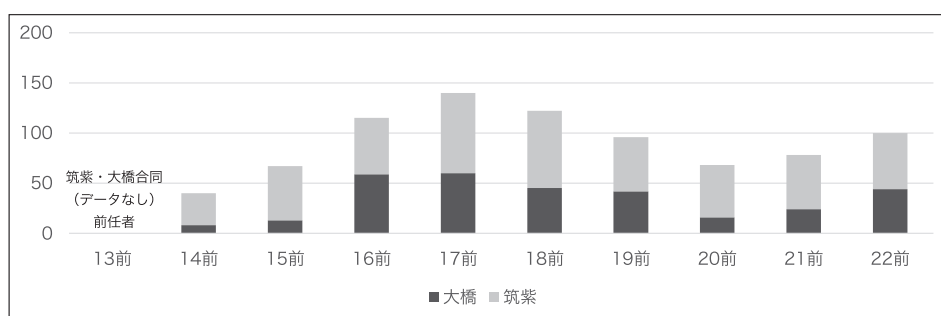


図1 筑紫・大橋地区の日本語クラス受講者数の推移（前期）

表8 筑紫・大橋地区の日本語クラス受講者数の推移（後期）

年度	13後	14後	15後		16後		17後		18後		19後		20後		21後		22後		
担当	鹿島	小山	小山		小山		小山		小山		小山		小山		小山		小山		
地区	合同	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大	筑	大
初級 1	10	22	15	28	8	50	14	27	14	34	15	30	12	53	8	21	8	41	10
初級 2	7	10		6	6	12	5	21	11	22	10	15	4	20	7	9	16	5	16
初級 3																8		6	
中級	2	14		5	14	12	25	14	29	24	22	18	25	16	14	12	8	4	15
上級				8	20	5	19	8	21	19	39	18	22	11	14	17	12	12	19
合計	19	46	15	47	48	79	63	70	75	99	86	81	63	100	43	67	44	68	60

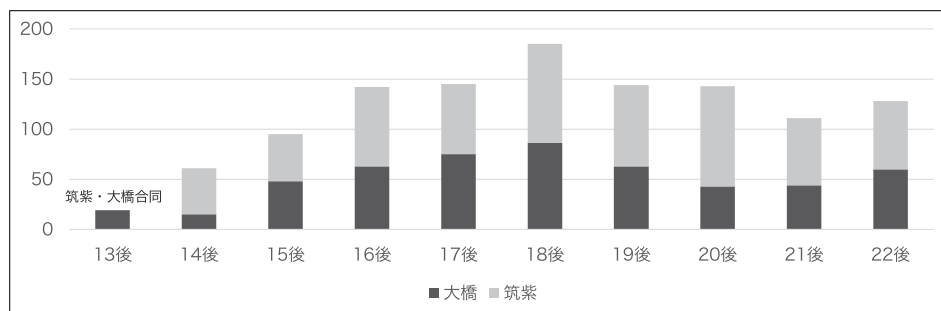


図2 筑紫・大橋地区の日本語クラス受講者数の推移（後期）

日本語・日本文化研修コースの報告 (第22期生)

Report on Japanese Language and Culture Course (JLCC 2021-2022)

郭 俊 海*

1. はじめに

九州大学留学生センターの日本語・日本文化研修コース Japanese Language and Culture Course、以下「JLCC」という）は、日本国以外の大学の学部もしくは大学院に在籍し、日本語・日本文化に関する分野を専攻している学生を11か月間受け入れ、今後の日本研究に必要となる日本語能力の向上を図るとともに、日本の社会や文化に関する理解を深めることにより、諸外国の将来を担う世代に日本への興味・関心を伝播し、日本の事情に通じた指導者となる人材を育成することを目的とした短期留学コースである。

2. 概要

2. 1. 受け入れ人数

平成12年度から、日本語・日本文化研修生（以下、「JLCC 生」という）は一括して留学生センターが受け入れ主体となっており、令和3年度の受け入れ人数は5名である。

2. 2. 受け入れ期間 その年の10月1日から翌年の8月31日まで

2. 3. 出身国・地域と出身大学

22期生は、4カ国の5大学から計5名が参加している。うち、国費奨学金受給者は3名である。表1はその出身国・地域と出身大学を示す。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、時差や家庭の経済的状況の悪化等の理由で受講継続が困難となったため、1名の学生が在籍期間の変更となった。

*九州大学留学生センター教授

表 1 22期生の出身国・地域

国・地域	大学名	人数（名）
韓国	釜山大学校※	1
	韓南大学	1
タイ	タマサート大学	1
中国	山東大学	1
フランス	国立東洋言語文化大学	1
計（4カ国）	5大学	5

※2021年10月1日から2022年2月28日まで在籍。

2. 4. 主な年間行事

日にち	行事内容
2021年	
8月22日（日）～30日（月）	JACs オンライン受講申し込み及びプレースメントテスト
9月16日（木）	オンライン・オリエンテーション、面談
10月1日（金）	令和3年度秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式
4日（月）	基幹教育・学部の授業開始 福岡市防災センター見学@オンライン
5日（火）	JLCC 授業開始
18日（月）	オンライン面談
11月29日（月）	東風コミュニティーセンター交流会@オンラインで過去の活動内容を振り返る
12月20日（月）	太宰府戒壇院座禅体験@オンライン
2022年	
1月6日（木）	JLCC、JACs、基幹教育及び学部の授業開始
31日（月）	春学期オリエンテーション
3月15日（火）	国費 JLCC 生渡日、来福
5月22日（日）	太宰府天満宮、九州国立博物館博覧学
6月20日（月）	吉野ヶ里遺跡見学
7月17日（日）	東風コミュニティーセンター国際交流会
8月10日（水）	閉講式
24日（水）	成果発表会

2. 5. コースの修了要件

JLCC のカリキュラムは、必修科目、選択必修科目と選択科目から構成される。コースを修了するには、年間30単位（450時間）の履修が必要である（表2）。

- **必修科目（2単位、30時間）**

留学生センターで春学期に開講される「自主研究（ISP：Independent Study Project）」で、2単位を履修する。

- **選択必修科目（24単位、360時間）**

留学生センターで開講される選択必修科目群の「日本語論（JL: Japanese Language and Linguistics）」、「日本社会文化論（JC: Japanese Culture and Society）」のうち、それぞれ年間12単位以上を履修する。詳しくは表2のとおりである。

- **選択科目（4単位、60時間）**

基幹教育院や文学部、経済学部、法学部など各学部等が開講する日本の社会や文化に関する学部学生向けの授業科目を年間2科目（4単位）以上履修する。

表2 JLCC22期生のカリキュラム

	秋学期（10月～3月）	曜日 & 担当者	春学期（4月～8月）	曜日 & 担当者
必修科目			自主研究 2単位（30時間） ISP（Independent Study Project）	火2水5郭
選択必修科目	日本語論（Japanese Language and Linguistics） 通年12単位（180時間）			
	JL 101 日本語学概論	金3 斉藤	JL 202 日本語のバリエーション	金3 斉藤
	JL 103 日本語・日本文化概論	金2 郭	JL 203 日本語・日本文化概論 B	金2 郭
	日本社会文化論（Japanese Culture and Society） 通年12単位（180時間）			
	JC 102 和菓子と日本人 A	木3 脇坂	JC 202 和菓子と日本人 B	木3 脇坂
	JC 103 現代日本の姿	木2 西頭	JC 203 民族音楽にみる日本	木2 柴田
	JC 104 ドラマで学ぶ日本の歴史	水3 小山	JC 205 4コマ漫画にみる日本 B	火3 和田
	JC 105 4コマ漫画にみる日本 A	火3 和田	JC 206 日本映像文化論 B	木5 大神
	JC 106 日本映像文化論 A	木5 大神		
選択科目	通年4単位（60時間） 各学部等が開講する日本の社会や文化に関する学部学生向け授業			

※都合により不開講

2. 6. 単位認定

本コースで履修した科目は、成績認定が行われ、所定の要件を満たすと修了証が授与される。また単位互換に応じることでもある。

3. 授業について

3. 1. 授業の取り方

授業の取りかたについては、従来通り、秋学期に留学生センターが開講する各種の技能別日本語コース（総合、会話、漢字、作文）と JLCC の必修科目を中心に受講させ、日本語力を高めることを目的とした。春学期には、引き続き JLCC の必修科目、基幹教育院や学部の授業を中心に受講させた。

授業は秋学期にオンライン、春学期には対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド式で実施した。

3. 2. 必修科目「自主研究」

JLCC 生の日本語の応用力を高めることと、身を持って日本人や日本社会に接する機会を与えることを目的とし、従来の「文献講読」を15期生から「自主研究（ISP: Independent Study Project）」としている。

「自主研究」は「文献講読」と「社会調査」に分けた。社会調査では、各自が興味のある日本に関する分野からテーマを見つけ、それについて問題設定や社会調査（インタビュー調査・質問紙調査）を行う。隔週に口頭発表による進捗状況の報告をし、学期末にレポートを作成する。文献講読も同様に、各自が興味のある分野から単行本一冊を選び精読し、隔週に口頭発表による進捗状況の報告をし、学期末にレポートを作成する。

コロナ感染拡大による影響のため、前年度同様に「社会調査」をやめ、「文献講読」だけにした。本学中央図書館が公開している、自宅でも使える電子コンテンツの資料を紹介し、「自主研究」に役立させていた。以下は、研修生たちのレポートのテーマである。

【文献講読】

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. ヴィグル・グエナエル | 「博物館による記憶の回復—知覧特攻平和会館を例に一」 |
| 2. ジョウ・ウコウ | 「戦時日本の法体制—社会・経済・宗教の観点から—」 |
| 3. スワンチンダー・スッティパット | 「企業として見た戦国大名」 |
| 4. パク・ハウン | 「炎上事例の原因分析と対策」 |

3. 3. エクストラ・カリキュラムの開発

近年、JLCC 生の関心や興味は、日本語よりも日本文化や日本社会一般に移りつつある傾向である。修了生からは「日本文化を体験できる機会を増やしてほしい」「見学旅行や日本人との交流活動をもっと多く行ってほしい」、「帰国前に日本でインターンシップを経験したい」等の声が上がってきている。こういった修了生のフィードバックを踏まえ、体で日本文化を体験できる活動を増やすことを目的とし、ゲストレクチャーや課外活動を含むエクストラ・カリキュラムの開発・実施を継続している。

しかし、コロナ感染拡大による影響のため、秋学期に一部の課外活動（例えば、福岡市防災セン

ター見学等）をオンラインで実施した。春学期には、来日した3名を対象に、太宰府見学、九州国立博物館博見学、吉野ヶ里遺跡見学及び地域との交流会（東風コミュニティーセンター国際交流会）を限定的に行った。

3. 4. その他

学生の指導においては、これまでは、普段勉強や生活に関する相談に対し適宜手当を講じるほかに、学期ごとに、それぞれ2回にわたってJLCC生全員を対象に一人ずつ三者面談（コーディネーターと事務担当）を実施してきた。22期生の場合、来日していない学生に対して、毎週、授業の前後の時間を利用して面談を行い、勉強上の問題点などを迅速に把握し、スムーズな問題解決につながった。また、学生とのLINEグループを作って、授業時間外や週末にも迅速に学生対応できるようにした。来日した3名の学生に対しては、定期的に研究室を呼んで直接話しを聞く、あるいは一緒に食事をするなどして、学生の様子を把握し適宜相談対応をした。

4. コース評価

コース評価は、これまでは春学期の「自主研究」の最後の授業時に、JLCC生によるプログラム評価の報告会を行い、カリキュラムの構成、授業内容、見学旅行及び今後の改善点の五つの面から、「非常に満足」「満足」「どちらとも言えない」「あまり満足しない」「満足しない」と5段階評価で評価してもらう形をとっていた。

コロナ感染拡大の影響のため、プログラム評価はGoogle Formを使用しオンラインで回答してもらった。

1. プログラム全体について（回答者：3人）

カリキュラムの構成、授業内容などプログラム全体について、「非常に満足」「満足」と回答した人が3人（100%）だった。「とても印象に残っています。これから自分の国に戻り、紹介したいと思います」とあるように、カリキュラムの構成や授業内容に満足していることが示されている。ただ、一名の学生が「日本語論の科目がもう少し多く開講すればいいと思います」と述べている。

2. 「自主研究」（回答者：3人）

自主研究の難易度については、「ちょうどよい」が100%だった。全体的に「良かった点」としては、「自分が選んだ内容について研究できること」「論文を書く練習になったし、本を読んで内容をまとめる方法を得た」との声があった。一方、問題点として「発表やり方などがあれば更にはいいと思います」と一人の学生が述べているように、今後個々人のレベルやニーズに合わせ、発表の工夫についてさらに細かい指導が必要である。

5. 今後の課題

近年、研修コース生から「日本人学生と一緒に受ける授業が少ない」といった声や、日本企業への就職、日本や海外の大学院への進学に関する相談が増えてきている。今後、日本人学生と研修コース生との協働学習型のカリキュラムの開発や、研修コース生を対象とした、就職、大学院進学に関する支援やフォローアップをいかに提供すべきかが、引き続き課題となる。

また、カリキュラム改善の一環として、「日本文化をもっと体験したい」という研修生のニーズに応え、実体験できる授業科目（「和菓子と日本人」「民族音楽にみる日本」を増やした。今後も、学生のニーズを踏まえ、カリキュラムの改善を行っていく。

2021年度 “AsTW2022” 実施報告

“ASEAN in Today’s World (ASTW)”

生 田 博 子*

1. ASEAN in Today’s World とは

ASEAN in Today’s World (AsTW) は、近年の世界政治経済への影響力を増している ASEAN 地域にフォーカスし、世界で活躍する次世代のアジアブリッジの核となる人材の育成を目的として本学が開発した教育プログラムである。平成20 (2008) 年度から ASEAN 諸国の有力大学を共同実施校（ホスト校）として、毎年2月下旬から3月上旬に ASEAN 地域で実施している。毎年、日本人学生及び ASEAN 諸国からの留学生合計40名程度が参加しており、2週間のプログラム実施期間、生活を共にすることにより、活発な国際交流や異文化への相互理解を深める。

なお、新型コロナウイルス感染拡大により、2022年3月に実施された2021年度 “AsTW2022” は、2020年度と同様、オンライン授業となった。

2. 共同実施大学（ホスト大学）及び協力大学

共同実施大学：

- ・マヒドン大：第13回（2020年度）～第15回（2022年度）

協力大学：

- ・マヒドン大学（第1回～第3回、第13回～第15回の共同実施校）
- ・アテネオ・デ・マニラ大学（第4回～第6回の共同実施校）
- ・ベトナム国家大学ハノイ校（第7回～第9回の共同実施校）
- ・マラヤ大学（第10回～第12回の共同実施校）
- ・福岡女子大学（学生・講師派遣について協力。マヒドン大学と独自の短期留学プログラムがあるため、2020年度から参加せず）

*九州大学留学生センター准教授

3. プログラム スケジュール (2021年度)

※2021年度は新型コロナウイルス感染拡大により、オンライン講義実施。

実施期間 2022年3月7日(月)～3月18日(金)

- 3月7日(月): オリエンテーション・ASEAN 事務局特別講演・開講式
- 3月8日(火)～3月17日(木): 授業、バーチャル・スタディ・トリップ等
- 3月18日(金): 文化交流イベント・閉講式

4. 開講科目及び修了要件 (2021年度)

- ASEAN 研究コース (ASC: ASEAN Studies Courses) 2 科目
 - Social Innovator Incubation (マヒドン大学講師)
 - Multiculturalism in Asia (留学生センター生田准教授、木下准教授、招聘講師 3 名)
- アジア言語・文化コース (ALC: Asian Languages & Cultures Courses) 3 科目
 - Thai Language & Culture Course (マヒドン大学講師)
 - Japanese Language & Culture Course (マヒドン大学講師)

参加生は1ASC から 1 科目、2ALC から 1 科目の計 2 科目を選択して履修し、合計 4 単位の認定を受けることを修了要件としている。また、バーチャルスタディトリップや文化体験、及び ASEAN 事務局による特別講演等、参加生はすべての講義・活動に参加することが求められた。

5. 参加者 (2021年度)

	人数	大学
日本	10	九州大学: 医 (1), 共創 (7), 文 (1), 工 (1)
タイ	16	Burapha University (1), Kasetsart University (1), Mahidol Univeristy (13), Prince of Songkla University (1)
カンボジア	1	Royal University of Phnom Penh
ミャンマー	3	Yangon University of Foreign Languages (2), Pakokku Technological University (1)
ベトナム	6	Vietnam National University Hanoi (2), Can Tho University (4)
中国	1	Shandong University
マレーシア	2	Universiti Malaya
パキスタン	1	Uniersity of Calabria, Italy
フィリピン	1	Ateneo De Manila University
合計	41	

※マヒドン大学生 8 名と他の ASEAN 諸国大学生 16 名は本学より奨学金支給。

6. 奨学金（2021年度）

九州大学から参加者への経済的支援として、全学協力事業基金から ASEAN 加盟国の学生24名にプログラム参加費を支給した。さらに今回はオンライン実施のため、特別に九州大学の学生10名に参加費のうち半分を助成金として同事業基金から支給した。

Summer in Japan (SIJ) 2022 オンラインプログラム実施報告

Report on the Summer in Japan (SIJ) 2022 Online Program

野 中 ちさと*

木 下 博 子*

楠 木 理 香*

矢 野 莉 早**

1. はじめに

九州大学留学生センターでは、2001年より海外の大学に所属する学生を対象としたサマープログラムを実施しており、2022年夏に21年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年は中止、2021年はオンライン開催となったが、今年度に関しても、感染状況を踏まえプログラム実施の可否や方法について検討を重ねた。結果、小規模ではあるが、ウクライナ支援の目的も兼ねオンラインプログラムとして実施するに至った。本報告書では、開催までの流れや背景を概観したのち、実施内容について報告し、参加学生アンケート結果の考察を通して今後の課題について論じる。

2. プログラム概要

本プログラム（＝ Summer in Japan、以下 SIJ）は、日本文化及び日本語を学術的かつ実践的に学ぶことを目的としたサマープログラムである。例年、日本の大学の夏季期間に、世界各国から20～30名ほどの学部生を受け入れ、九州大学伊都キャンパスで4週間程度のプログラムを実施している。

2. 1. 開催までの流れ

昨年度は、感染状況や水際対策の見通しが立たないため、早い段階でオンライン開催を決定し、調整・準備を行なった。今年度は国内の複数の大学でサマープログラムの対面開催が発表されていたため、本プログラムの開催方法及び開催可否の検討が続いた。一方、九州大学がウクライナ支援の一環としてウクライナ人大学生の受け入れ開始を決定し、本プログラムに興味を持つウクライナ人大学生

*九州大学留学生センター准教授

**九州大学国際部留学課職員

からの問い合わせも複数あったため、小規模開催であっても SIJ を実施し、来年度の開催につなげる実績と体制を整えることが重要との結論に達した。

オンライン開催であるため、渡航や移動時間なしの集中的なスケジュールリングが可能となり（図 1）、参加が想定される諸外国の大学の夏季休暇期間を調査し、今年度の SIJ の実施期間を以下のように設定した。

2. 2. プログラム実施期間とプログラムスケジュール

実施期間：2022年7月4日（月）～7月26日（火）

2. 3. 学生選考の状況

参加学生募集は、例年通り本学の協定校（大学間及び部局間を含む）並びに海外オフィスを通じて周知し、大学ウェブサイトやその他ソーシャルメディアを介して広報活動を行った。その結果、アジア圏を中心に世界各国から応募があった。

選抜では、所属大学における成績証明（GPA スコア）と英語能力を証明するスコア（TOEFL iBT あるいはそれに準ずる英語能力検定試験のスコア）、及び小論文を総合的に判断した。合否通知後、ウクライナ人大学生 2 名を含む計 12 名から参加表明を得た。

2. 4. 参加学生の動向

今年度のプログラム参加学生（SIJ 生）の所属大学と所在国の内訳は以下の通り（表 1）である。オンラインによる実施ということから、日本との時差が少ないアジア諸国からの参加が主であるが、イギリス、アラブ首長国連邦、ウクライナの大学に所属する学生も参加した。

表 1 プログラム参加学生（SIJ 生）の所属大学、所在国及び専攻

	University	Country	Major
1	Beihang University	China	Software Engineering
2	East China Normal University	China	Physics
3	Nanjing University	China	Physics
4	National University of Singapore	Singapore	Law
5	Swansea University	U.K.	Chemical Engineering
6	United Arab Emirates University	United Arab Emirates	Biochemistry
7	The Hong Kong Polytechnic University	Hong Kong	Bachelor of Business Administration (Honors) in Accountancy
8	National Pedagogical Drahomanov University	Ukraine	Art
9	Jilin University	China	Economics
10	Mahidol University	Thailand	Biomedical Engineering
11	Jilin University	China	Diplomacy
12	Yuriy Fedkovych Chernivtsi National University	Ukraine	English Language and Literature

（出典）筆者作成

SIJ 2022 Timetable

Monday, July 4 - Tuesday, July 26, 2022

	MON 04-Jul	TUE 05-Jul	WED 06-Jul	THU 07-Jul	FRI 08-Jul	SAT 09-Jul	SUN 10-Jul
10:30 - 12:00 noon	Opening Ceremony 11:00-11:30am					Enjoy your weekend!	ILS (6)
1:00 - 2:30pm	Orientation 11:30-12:30pm	JL (2)	JL (3)	JL (4)			Enjoy your weekend!
2:50 - 4:20pm	JL (1)	ILS (1)	ILS (2)	ILS (3)	ILS (4)		
6:30 - 8:00pm			Cooking 🍳 6:30-7:30pm		ILS (5)		
	11-Jul	12-Jul	13-Jul	14-Jul	15-Jul	16-Jul	17-Jul
10:30 - 12:00 noon	ILS (7)					Enjoy your weekend!	Enjoy your weekend!
1:00 - 2:30pm	JL (5)	JL (6)	JL (7)	JL (8)	ILS (10)		
2:50 - 4:20pm			ILS (8)	ILS (9)	JL (9)		
6:30 - 8:00pm			Room Tour 🏠 6:30-7:30pm		ILS (11)		
	18-Jul	19-Jul	20-Jul	21-Jul	22-Jul	23-Jul	24-Jul
10:30 - 12:00 noon						Prep for ILS presentation	Prep for ILS presentation
1:00 - 2:30pm	JL (10)	JL (11)	JL (12)	JL (13)	JL (14)		
2:50 - 4:20pm	Walk & Talk 🚶 3:20-4:20pm		ILS (12)	ILS (13)	JL (15)		
6:30 - 8:00pm					Let's make a special song🎵 6:00-7:00pm		
	25-Jul	26-Jul	Remember: All ceremonies, class sessions, and other events are in JST (Japan Standard Time) 🕒				
10:30 - 12:00 noon	ILS (14)						
1:00 - 2:30pm	ILS (15)						
2:50 - 4:20pm	Closing Ceremony 3:00-4:00pm						

図1 プログラムスケジュール

3. 講義

本プログラムは現代日本と日本語を学術的かつ実践的に学ぶサマープログラムである。学術科目として、英語によるオムニバス形式の講義（Interdisciplinary Lecture Series）と、レベル別に実践的日本語運用能力を育成する語学コース（Japanese Language Course）を展開した。

3. 1. Interdisciplinary Lecture Series (ILS)

例年は、現代日本研究入門コースとして、主に留学生センター教員が講義を担当しているが、今年度もオンラインの特性を活かし、国内外からゲスト講師を招き、以下の通り（表2）、日本を大きなテーマとした様々な分野・地域の学際的講義を実施した。また、学生には最終課題としてグループプレゼンテーションを課した。

表2 各セッションテーマとゲスト講師

Session	Time and Date	Topic	Lecturer
1	2:50-4:20pm Tuesday, July 5	Orientation and community building	(Chisato NONAKA)
2	2:50-4:20pm Wednesday, July 6	"What's your favorite 100-yen shop?: Secrets behind affordability"	Kaori BURKART, Oita University
3	2:50-4:20pm Thursday, July 7	"Media and public perceptions: Japan"	Yoshie UDAGAWA, The University of Tokyo
4	2:50-4:20pm Friday, July 8	"Japanese online games, anthropology and the pandemic: The challenges and possibilities of doing long distance ethnographic fieldwork"	Mattias VAN OMMEN, Doshisha University
5	6:30-8:00pm Friday, July 8	"Understanding the global agenda" Part 1	(Hiroko KINOSHITA)
6	10:30-12:00noon Sunday, July 10	"Thinking philosophically about the pandemic" Part 1	Kirsten BUSH, University of Hawai'i at Mānoa
7	10:30-12:00noon Monday, July 11	"Thinking philosophically about the pandemic" Part 2	Kirsten BUSH, University of Hawai'i at Mānoa
8	2:50-4:20pm Wednesday, July 13	"Japanese convenience stores and food loss: Secrets behind the convenience"	Kaori BURKART, Oita University
9	2:50-4:20pm Thursday, July 14	"Media and public perceptions: Juvenile crime"	Yoshie UDAGAWA, The University of Tokyo
10	1:00-2:30pm Friday, July 15	"Language and society in Japan"	Bartosz WOLANSKI, Kyushu University
11	6:30-8:00pm Friday, July 15	"Understanding the global agenda" Part 2	(Hiroko KINOSHITA)
12	2:50-4:20pm Wednesday, July 20	"Professional communication after university Part 1: Writing for understanding"	Nezia AZMI, University of Hawai'i at Mānoa
13	2:50-4:20pm Thursday, July 21	"Professional communication after university Part 2: Don't commit death by PowerPoint"	Nezia AZMI, University of Hawai'i at Mānoa
14 & 15	10:30-12:00noon & 1:00-2:30pm Monday, July 25	Group presentations	(Chisato NONAKA)

（出典）筆者作成

* () は留学生センター教員

3. 2. Japanese Language Course (JLC)

例年、JLC は SIJ 生の日本語レベル別に 4 つのクラスに分けて開講される。今年度の SIJ 生 12 名のうち、日本語未習者は 7 名、既習者は 5 名であったため、まず、既習者 5 名にオンラインによるプレースメントテストと面接を実施し、文法力と聴解力を測定した。このテスト結果と各学生の日本語既習内容、本人の意向を踏まえて、既習者 5 名を Intermediate 3 名と Pre-advanced 2 名の 2 クラスに分けた。その結果、未習者 7 名を 2 クラスに分けることが可能となり、今年度の JLC は、Beginner a、Beginner b、Intermediate、Pre-advanced の 3 レベル 4 クラスにより開講した。表 3 に各クラスで使用した教科書と学習課、教育内容を示している。

表 3 SIJ 2022 Japanese Language Course (JLC) の概要

クラス	教科書と範囲	内容
Beginner a	みんなの日本語 L1 ~ L4 ひらがな、カタカナ	日本語学習経験の無い学習者を対象に、日常生活でよく使う基本的なことば・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。並行して、ひらがなとカタカナの読み書きも学習する。
Beginner b	Genki I L1 ~ L4 ひらがな、カタカナ	日本語学習経験の無い学習者を対象に、日常生活でよく使う基本的なことば・表現や初歩的な文法を学び、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。並行して、ひらがなとカタカナの読み書きも学習する。
Intermediate	中級へ行こう L2, L5 ~ L7	初級の学習を終えた学習者を対象に、既習文法の復習・応用をしながら日本語の運用能力を高める。また、中級レベルの語彙・表現を新たに学ぶことで、日常生活における日本語の表現力を伸ばすことを目指す。
Pre-advanced	日本語 5 つのとびら TOBIRA 中上級編 L1 ~ L4	中級の学習を終えた学習者を対象に、既習文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で正確に使えるように練習する。自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりしながら、バランスの取れた 4 技能の力をつけることを目指す。

(出典) 筆者作成

Beginner a と Beginner b の 2 クラスは、表 3 にも示しているように、2 クラスで異なる教科書を使用して学習を行った。これは、1 人のウクライナ人大学生から英語を媒介語として行われる日本語の授業と教科書について、自身の英語力に関して不安が示されたことへの対応である。当該学生及びクラス担当講師との話し合いを重ねた結果、今年度は Beginner a をウクライナ人大学生 2 名、Beginner b をそれ以外の日本語未習者 5 名とクラス分けし、Beginner a では英語以外での文法解説書等が利用可能な教科書を使用した。

また、昨年度好評だった九大生ボランティア参加の日本語授業を今年度も取り入れた。SIJ サポーター登録学生への周知や学内学生ポータルでの募集を行い、計 11 名（延べ 18 名）の九大生が各日本語クラスに参加し、SIJ 生との会話の練習などを行った。

4. 課外アクティビティ

現地開催であれば、福岡市近郊のスタディトリップ、ホームステイ体験など実践的な学びの機会や、交流活動がプログラムの主軸となるが、今年度もオンライン開催であるため、非対面の課外アクティビティとして、いかに SIJ 生の興味関心を刺激し、インタラクティブな経験や学びを促せるか検討した。

4. 1. イベント

例年 SIJ では各種イベントを通して学内サークルや周辺地域の人々との交流を図っているが、今年度はオンライン開催のメリットや工夫を最大限に考慮しイベント内容を刷新した。具体的には、オンラインの特性を活かしたイベント開催で実績のある企業と連携した結果、7件のイベントを実施した(表4)。

特に、料理教室(カレーライス)や家庭訪問、神社散策、そしてシンガーソングライターを招いての作詞ワークショップでは、日本全国から講師がオンライン登壇した。SIJ 生達はそれらの活動をリアルタイムで体験し、実践的な知識とスキルの習得を目指した。

表4 イベント一覧

	Time and Date	Event	Host
1	11:00-11:30am Monday, July 4	Opening Ceremony	SIJ Team
2	11:30-12:30pm Monday, July 4	Orientation	SIJ Team
3	6:30-7:30pm Wednesday, July 6	Cooking: Curry Rice	Homestay in JAPAN
4	6:30-7:30pm Wednesday, July 13	Conversation & Room Tour	Homestay in JAPAN
5	3:20-4:20pm Monday, July 18	Walk & Talk: Yutoku Inari Shrine	Homestay in JAPAN
6	6:00-7:00pm Friday, July 22	Make Your Own Japanese Song!	Homestay in JAPAN with Naoki Kato (Singer-songwriter)
7	3:00-4:00pm Monday, July 25	Closing Ceremony	SIJ Team

(出典) 筆者作成

4. 2. サポーターとの交流

例年通り、学内で希望者を募り、SIJ 生1名に対し九大学生1名をサポーターとして選出した。選考に際しては SIJ 生及び九大学生の出身国、大学所在国、専攻、語学能力(英・日)などできる限りマッチするよう調整を行った。今年度もサポーターには事前オリエンテーションに参加してもらい、プログラム開始前から担当する SIJ 生とコミュニケーションをとるよう促した。結果、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等のツールを活用した積極的な交流が進み、サポーター主催のイベントやプロジェクトを通して連帯感が生まれたようだった。7月25日(月)に行われた閉講式では、SIJ 生及びサポーター達によるコラボレーションビデオの発表が行われ、学生達の個性と仲間意識、両方が表現されていた。

5. 参加学生アンケートの結果

プログラム参加学生(SIJ 生)に対し、アンケートを実施し、全体の評価及びイベントや活動毎の感想を尋ねた。講義最終日にオンラインでアンケートに回答してもらったため、回答率は100%であっ

た。以下、そのうち一部の設問及び回答を抜粋して紹介する。

Q. How did you enjoy the Interdisciplinary Lecture Series (ILS)?

Very well! I learned a lot about Japan and the international world! And not just related to my own majors, many other things about other majors I also learned from!

They were awesome. Each speaker was well-prepared, the topics were engaging, and most of the material was useful + mind-opening.

This is the best summer school [I] have attended, because I enjoyed the ILS very much!

I enjoyed it very much especially the class that we can interact with Japanese students. Also, I've learned a lot about Japanese culture and aspect on various topic such as convenient store, or online games.

It's pretty good! Hope more KU students can get involved.

九大生（特に日本人学生）と共に授業を受けた経験を評価する声が多く聞かれた。一方、九大が実施する短～長期の交換留学プログラムで来日しても、日本人学生と同じ教室で学ぶ機会は限られており、プログラム修了後に、もう少し日本人学生と交流する場が欲しかったという感想を耳にすることも多い。今後 SIJ を発展させていく上で、いかに日本人学生を含めた九大生との学術的な交流の場を提供できるかという点も検討する必要がある。また、オンラインの特性を活かし、国内外のゲスト講師を招いたことで、より多様性のあるテーマ、ディスカッションが展開された。各分野の専門家から講義を受けることで専攻を超え視野が広がり、様々なバックグラウンドをもつ SIJ 生や九大生が協働的に学ぶ機会が提供できた。

Q. What did you think about the Japanese Language Course (JLC)?

I like the JL very much! The teacher is so nice and he used vivid expression in our lectures, and it is really important chance to talk with the native speakers in their language, it could help me a lot in the road of Japanese language learning!

What good is that it is a good chance to learn from the native speakers about the language, and what is challenging is to learn those Language academic words and terms of English (because I am not a English native speaker so I have to learn those terms myself to follow this courses taught in English to learn Japanese.)

I learnt much Japanese words, grammars and also cultures. It's also challenging for me to recite all the words and get a deeper understanding of the grammar rules in such intense time. However, it's very happy that I really learnt a lot.

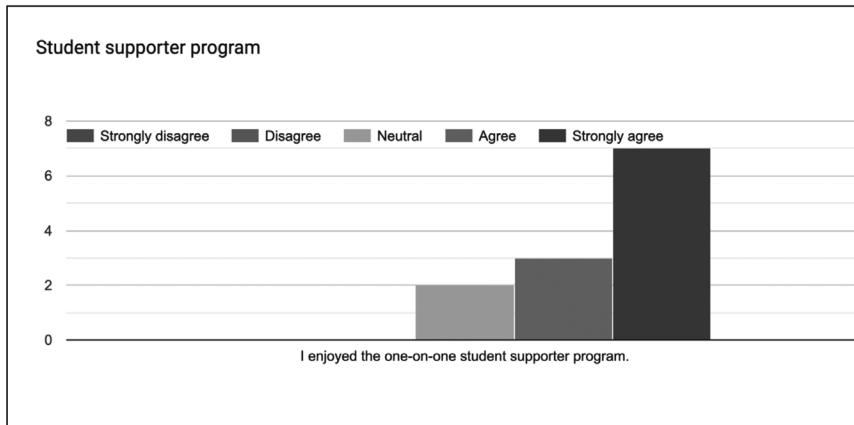
It was excellent, I had a small group within which I felt comfortable practising conversations and trying.

There are enough practice for speaking and listening and everyone participate in the class which I think is very important for language learning. And there is enough practice for writing in after-class homework. If there is advice for how to learn Japanese for further study, will be better.

It's pretty good! Especially the "talk with KU students" part!

JLC に対する評価は、少人数クラスにおける日本語講師の熱心できめ細やかな指導によって、概ね高いものであった。九大生ボランティアの授業参加についても、日本語会話の機会が増え、日本への見識を広めるきっかけとなったといった回答が複数寄せられ、一定の評価を得た。一方で、短期間に集中して多くの文法項目や表現を覚え、日々の宿題に取り組むことに負担を感じていた SIJ 生がいたことも明らかになり、来年度に向けた課題となった。

Q. Choose a response that best describes the following statement: *I enjoyed the one-on-one student supporter program.*



(出典) 筆者作成

昨年度と比較すると、SIJ 生と担当サポーターとの親交が深まらなかったようだった。その理由として、昨年度はサポーター達にウェルカムパーティーやイベント等の企画・運営をお願いしていたが、今年度は関係教職員主導でイベント運営を進めたので、学生同士の自然な交流の機会が生まれにくかった可能性がある。コミュニケーションの頻度に関しても、毎日 SNS 等で連絡をとるペアがいた一方、ほとんどやりとりをすることなくプログラムを終えたペアもいたようである。対策として、各ペアの交流状況を確認する意味で、プログラム中に何度かフォローアップの連絡を行うことなどを検討している。

Q. Which event did you enjoy the “most” and why?

The online tour of Saga’s Jinja because it showed me how a religion and also public place really look like, and this could help me in learning Japanese culture.

I equally enjoyed all the events. Cooking gave practical knowledge, room tour and walk&talk gave us cultural insights, writing a song gave a fun experience.

Walk and Talk. Through visiting the shrine, I learnt many Japanese words and the rituals while visiting the shrine and the profound cultural backgrounds.

I really like the room tour event because I personally like Japanese style house. Also, I’ve learned many things about Japanese daily life from the house structure.

Let’s make a song. I think the class is well-organized. And everyone thinks of a word and combines them into a song is a great way to make everybody have a sense of participation. Personally, I like music and the lecturer is a very interesting person.

オンラインイベントの企画や実施で実績のある企業と連携をした結果、今年度はオンラインであっても日本文化や社会を「体験」できるイベントを多く開催できた。特に家庭訪問や神社散策など、実況中継しながらインタラクティブに参加者と対話するタイプのイベントは、ホスト側の技術やリソー

ス面が学生の満足度にも大きく影響していた。どのイベントもターゲットは SIJ 生であったが、九大生の参加があったものに関しては全体の評価も高かったので、今後いかに九大生を巻き込めるかが鍵のようだ。

Q. How would you improve our program especially in the “online” format?

I think as it is online, we could take advantage of this feature like making more online sharing, and could make everyone see where others are.

As everyone is in their own place, this is a good chance to share about the place he or she came from.

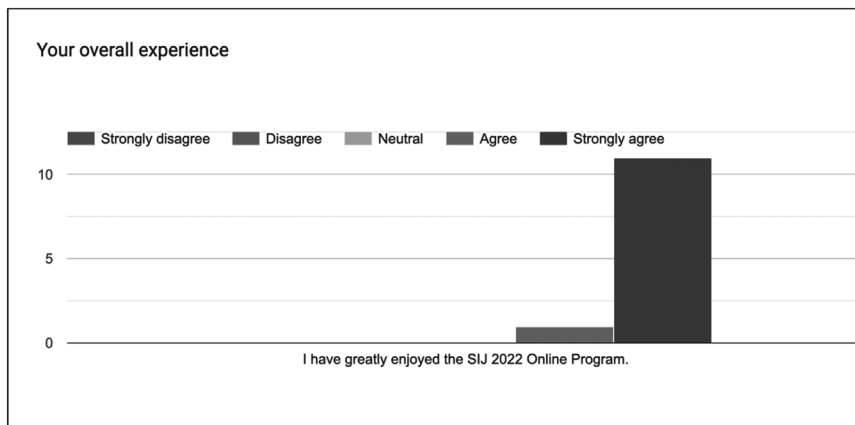
I think we should have extra time apart from the actual schedule that Japanese supporter held a session to talk or play game together among the participants.

More opportunities for interaction with local Kyushu University students.

Make more communication & discussion with KU students.

オンラインの特性をもっと活かすべきという意見が多く挙がった。特に、学生間の対話を促進するアクティビティや学生主導のイベントの拡充など、これまでの考察に対応する指摘もあった。学生による学生のためのアクティビティやイベント等を増やすにあたって、対面またはオンライン開催であるかなどの要素も考慮しながら、関係教職員がある程度の段取りをつけ学生達を促す必要もあるように感じた。

Q. Choose a response that best describes the following statement: *I have greatly enjoyed the SIJ 2022 Online Program.*



(出典) 筆者作成

上記が示すように、プログラム全体に対する評価は高く、回答者全員が総じて満足していることが窺える。アンケートの自由記述式回答や個別の聞き取り調査でも、プログラムや各アクティビティに対してポジティブな回答が多い印象だったが、学生たちの多様な声をしっかりと受け止め、改善、改良につなげたい。

6. 今後の課題と改善策

今年度のプログラム実施内容報告及び参加学生アンケート結果を通して、今後の課題や取り組みについて改めて振り返りたい。

まず、ILSに関しては、多様性のあるテーマ、ディスカッションを高く評価する学生が多かった。また、九大生（特に日本人学生）と共に授業を受けた経験についてのコメントも多く、国際共修の場としての ILS について可能性を検討したい。

次に、JLC に関する評価は例年通り高いものであった。一方、限られた期間で集中的に日本語を学ぶコースであるため、日々の予習・復習や課題に取り組むことが求められ、それらを負担に感じる学生もいた。SIJ 生達の熱意と集中を最後まで保てるような工夫について今後も模索していきたい。

サポーター制度について、多くの SIJ 生が担当サポーターとの交流を楽しんだ一方、コミュニケーションの頻度が低かったペアもいたようだ。両者の相性等、予測不能な面もあるが、プログラム中に交流状況について定期的にフォローアップの連絡を行うことなどでサポートを行いたい。

さらに、今年度はオンラインイベント開催で実績のある企業と連携した結果、他年度に無いユニークなイベントの企画・開催が実現した。九大生の参加があったイベントに関しては、全体評価が高かったため、今後も九大生を巻き込み、短期であっても日本留学をしたという体験を SIJ 生達に提供できるよう検討したい。

最後に、プログラム運営側から総括する。昨年同様オンライン開催であったため、今年度も SIJ 生との情報共有のタイミングや方法についてグッドプラクティスの模索が続いた。例えば、昨年度は Microsoft 365 を LMS (= Learning Management System、学習管理システム、以下 LMS) 及びコミュニケーションの基盤として試用したものの、大学所在国やインターネット環境によって、アクセスがスムーズにいかない場合が発生した。そこで、今年度は LMS としては Moodle 使用に限定し、その他のコミュニケーションは email を利用した。SIJ 生が複数のメールから必要な情報を探し出す手間等も考慮し、プログラムの手引きとなる SIJ ハンドブックを包括的かつシンプルな仕様とし、情報の一元化も図った。また、プログラム開始前にハンドブックを SIJ 生及び関係者に配布することで、プログラムの概要やポリシー、講義やイベントの情報 (Zoom リンク等)、SIJ に関わる教職員チームなど、基本的認識を共有した上で、オンライン開催であっても心理的安全性と高い教育効果を担保できるよう努力した。

2022年10月現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために行われていた入国制限が緩和され、来年度は SIJ も約4年ぶりの対面開催が見込まれている。そこで、オンライン開催で得た知見をいかに対面開催で生かせるかについて検討を開始している。直近2年では、対面プログラムの代替ではなく、オンライン開催ならではのメリットや工夫を生かせるよう注力したところ、オンラインに特化した学習や交流によって学生間に連帯感が生まれ、コロナ禍における国際教育の意義や目的を改めて検討・確認する機会となった。これらの知見を SIJ のみならず、留学生センターや大学全体のプログラム運営に反映していけるよう、引き続き関係教職員で課題を共有し、議論を進めていきたい。

九州の自然・歴史・文化を学ぶ～JTW Field Trips 2022

JTW Field Trips — Nature, History, and Culture of Kyusyu

今 井 亮 一*

はじめに

JTW (Japan in Today's World) プログラムは、九州大学が提供し、留学生センター短期留学部門が企画実施している留学生交換プログラムである。常時、欧州、北米、アジアから40人～60人の学生が在籍している。滞在期間は、10月から翌年7月までの通年プログラムと、10月～2月または4月～7月の半年プログラムのどちらかを選択することができる¹。

JTW プログラムでは、Field Trips という見学旅行を平均して1ヶ月に1回程度提供している。本稿では、これについて概要を説明し、今後の展望を述べる。

筆者は2002年9月から九州大学留学生センターに勤務して、コーディネーターとして第9期から第29期までのJTW プログラム運営に携わり、ほとんどのField Tripsに参加している。今年(2023年)、JTWは30周年という節目の年を迎えるので、この機会にField Tripsのある程度具体的な記録を残しておくこととしたい²。

本稿は次のように構成される。次節でJTW Field Tripsの一般的特徴について説明する。第2節では、コロナ期(2020年～2022年)における実施例を紹介する。第3節では、コロナ禍到来前の実施例を説明する。続いて第4節で過去訪問したが今では行かない場所について触れる。第5節では、まだ行ったことがないが、教育上の観点から訪問する価値があると筆者が考える場所を紹介する。

1. JTW Field Trips の特徴

目的

JTW Field Trips は、交換留学プログラムに参加する短期留学生に、九州の自然・歴史・文化を包括的に体験する機会を提供することを目的としている。短期交換留学制度では、単なる科目授業だけでなく、留学地域の文化・社会に溶け込むことも必要である。九州は、記紀神話において日本国発祥の地として伝えられている。現代の歴史学・考古学においても、九州の文明は日本全体に先駆けて発展

*九州大学留学生センター准教授。JTW プログラム担当。電子メール: imai.ryoichi.303@m.kyushu-u.ac.jp

1 JTW プログラムの全体像については、ホームページ (<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jtw/>) を参照されたい。本稿では、2022年の開講科目(時間割)を最後の頁に掲載した。

2 2017年までのJTW Field Trip (Study) については、今井亮一(2018)にまとめておいたので参照されたい。本稿はその増補改訂版である。

したと考えられる事例の発見が多い。さらに明治維新以後、北部九州の石炭産業や鉄鋼業・造船業など、我が国の近代産業の発展をリードした分野が九州に多い。

実施組織

九州大学留学生センターの教員および九州大学の職員が引率する。JTWの運営については留学生センター内の「短期留学部門」所属教員が担当している。Field Tripsの引率者は、通常、JTW担当教員若干名および留学生課所属職員2名である。学生から数名のボランティア（チューター）が参加することもある。

費用負担

JTWは大学間交流協定に基づく交換留学プログラムであり、留学生は原則として追加的授業料負担をする必要がない。Field Tripsは科目の一部であり、したがって基本的な旅費は九州大学本部が負担する。ただし、一部の訪問については若干の自己負担がある。例えば歌舞伎鑑賞（後述）では、チケット代の一部を学生が負担する。

2. コロナ禍

2020年2月まで、JTWプログラムもField Tripも予定通り実施されてきたが、2020年2月に始まる新型コロナウイルス感染拡大によるいわゆるコロナ禍によって、大きな変更を余儀なくされた。

2020年は、4月の春学期が始まる前に半分以上の留学生が帰国してしまった。残った学生にはオンライン授業が提供された。新規参加学生だけでなく、帰国した学生の多くが、オンライン授業に参加してプログラムを継続した。しかしField Tripはほぼ全面的に中止となり、6月末に残った学生を連れて博多織の店で伝統工芸を見学したにとどまった（後述）。2020年後期（秋学期）に受け入れた新規学生は20人程度で、リモート参加のためすべてオンライン授業となった。

2021年も同様の状況が続き、JTWプログラムはオンラインで実施された。2020年秋から参加した留学生は2021年7月までにすべてオンライン参加でプログラムを修了したことになる。

状況が変わったのは2022年春からである。2021年秋から始まったプログラムは、当初はオンラインであったが、2022年4月から入国規制が緩和され、留学生は概ね入国できるようになった。JTWも学生の入国が完了した5月連休明けに完全対面授業に移行した。JTWでは10月からの通年参加に加えて、4月からの1学期参加も認めているが、入国規制緩和はあらかじめアナウンスされていたので、4月からの参加学生数は急増した。

2022年9月にはさらなる入国規制緩和が実施され、10月からは入国人数規制が撤廃された。これに合わせて参加者はさらに増え、2022年12月現在、在籍者は45名を数える。

以下では、コロナ禍（2020年4月～2022年12月）において実施されたField Trip (Study Trip) について詳述する。

博多織工芸館

2020年6月29日、コロナ禍でも残留した留学生20余名を連れて博多織工芸館（サヌイ織物）を訪問した³。会社について社長の説明（教員による通訳付き）を受けた後、工場を見学した。こういう伝統工芸（有田焼など）を見学する場合、学生が買い物をしてくれると協力してくれた企業に恩返しできるのであるが、あまり買わないのが普通である。しかし今回は、ちょうど帰国が近いタイミングで手頃な値段ということもあって、留学生の財布の紐が緩んだようである。伝統工芸品は普通、高級品で学生の懐では手が出ないことが多い。例えばかつて繰り返し訪問した有田焼工房だが、学生が購入するには高価で割れ物を外国に送るコストも高い。しかし今回の博多織では、タイミングと価格帯を工夫すれば協力企業に歓迎される結果になることもあると学習した。

着物着付け教室

これまた伝統文化に関するイベントとして、コロナ禍においてもオンライン及び対面で実施した。2022年5月23日には、九大内の施設で、対面で実施した。講師は市内在住の服飾家（着物教室の先生）である⁴。この先生には前年にもオンラインで着付け教室をやっていたが、日頃から動画配信を利用して着物文化の普及に努めている方である。当日は糸島新聞社の取材もあり、全学的、地域的に一定の反響があった模様である。

座禅体験

2022年6月5日に実施した。御協力をいただいたのは福岡県久留米市の梅林寺、久留米藩主有馬氏の菩提寺である⁵。コロナ禍が始まる前から実施（後述）して来た体験学習であるが、再開にあたってコロナ感染防止のために細心の注意を図った。

1. 体温測定、マスク着用、三密回避を徹底する。
2. 30人に満たない参加者でもバス3台に分乗し、距離と換気を確保する。
3. 例年行ってきた精進料理の昼食を辞退、午後からの座禅のみの行事とする。

歌舞伎鑑賞会

2022年6月19日に実施した⁶。コロナ禍においても政府は、コンサート、演劇に対する規制をほとんど行わなかった。大きな劇場は空調施設を完備しており、また空間が大きいので、空気が滞留することが少なく安全と考えられている。例年、歌舞伎の福岡での本興行は6月に博多座で行われるが、今回は11時から15時の昼の部を鑑賞した。演目は「橋弁慶」「鷺娘」「すし屋」という充実した狂言立

3 博多織工芸館。https://sanui-orimono.co.jp/gallery/index

4 豊翠の着物レッスン。

https://www.youtube.com/c/%E8%B1%8A%E7%BF%A0%E3%81%AE%E7%9D%80%E7%89%A9%E3%83%AC%E3%83%83%E3%82%B9%E3%83%B3

5 梅林寺（久留米市）。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A2%85%E6%9E%97%E5%AF%BA_(%E4%B9%85%E7%95%99%E7%B1%B3%E5%B8%82)

6 六月博多座大歌舞伎。https://www.kabuki-bito.jp/theaters/other/play/751

てで、人間国宝で文化勲章受章者である尾上菊五郎も出演した。

稲刈り

2022年10月17日に日帰り実施した。協力してくださったのは2019年にもお世話になった糸島シェアハウスさんである⁷。元イタリア料理シェフを中心に、近隣の農家の協力も得て、共同生活をしながら棚田で伝統的なコメ作りを実践している若者グループである。2019年の秋に一度、協力していただいたが、その後、コロナ禍で訪問が途絶え、今回、復活した。前回は代表（イタリアンのシェフ）手作りのタイカレー（美味）を御馳走していただいたが、今回は飲食を避け、午後からの訪問となった。稲刈りは、稲を刈り取った後、竹で組んだ柵に干すところまで行う。

3. Field Trips の実施例（コロナ禍以前）

本節ではコロナ禍になる前の実施例を説明する。大学のコロナ規制が解除されてないので、まだ完全な形で実施することはできないが、ここに過去の実施内容を記録しておきたい。

秋オリエンテーション（9月末～10月初旬）

JTW では通年参加および秋学期参加の学生を9月末に迎える。学業面、生活面のオリエンテーションの後、最初のオリエンテーション旅行に出かける。目的は、来日して日の浅い学生に、日本の生活時間および気候に慣れるとともに、今後、半年ないし1年、共に生活する同級生と親しむ機会を提供することにある。これは1泊2日の旅行だが、旅程はおおよそ次のようなものである。

1日目：バスで九重「夢」大吊橋を訪れ、雄大な渓谷美を鑑賞してから、周辺の宿泊施設にチェックイン後、異文化理解に関する講義を受ける。2018年までは「九州大学山の家」に宿泊していたが、立地が山奥で医療施設が遠いので、学生の健康リスクを重視して2019年には「阿蘇青年の家」に宿泊した。「九州大学山の家」は地熱発電所の近くにある九大の研修施設で、単純温泉の泉質が素晴らしく、貧弱だった食事の質も近年は改善していた内容的には充実した研修施設であると思うが、安全を重視すれば変更は仕方ない⁸。「阿蘇青年の家」は阿蘇山の雄大な姿が迫る裾野に立地している⁹。15年程度以前に一度利用した際に、規則が厳しすぎ、宿泊団体の行動の自由が制限されると感じて利用をやめていたが、久しぶりに泊ったところ、新しい食堂での食事内容の充実が著しく、見直した。京都大学の火山研究室の教員、学生も泊っており、阿蘇山への登山基地にもなるようだ。

2日目：大観峰から阿蘇カルデラを一望した後、阿蘇山火口、フラワーパーク、ファームランド、熊本城、水前寺成趣園などのうち、訪問可能なものを見学する。かつては阿蘇山火口にロープウェイで登った後、熊本城に向かっていたが、東日本大震災の後、九州地方の地震・火山活動全般が活発化し、いずれも訪問が困難になった。阿蘇山は元々、火口から有毒ガスが噴出しており、風向きによっ

7 糸島シェアハウス。 <http://itsmsh.com/about/>

8 九重共同研修所・山の家。 <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/facility/kokonoe/>

9 国立阿蘇青少年交流の家。 <https://aso.niye.go.jp/facility/index.html>

では立入禁止になることが多かった。熊本城は2016年春の熊本地震で石垣の一部が大きく崩れ、修復のため長らく入場できなかったが、2022年現在、修復が完了し従前同様の訪問が可能である。熊本城が訪問できない間は、大観峰に立ち寄った後、まず阿蘇フラワーパークでこの地域で生産されている花々を鑑賞し、続いて阿蘇ファームランドで昼食を取った後、バスで帰福した。

稲刈り（10月中旬）

JTW では、20年近くにわたって佐賀県西有田「岳の棚田」会¹⁰の御協力をいただき、稲刈りと田植えの体験会を実施した。10月は稲刈りで、6月が田植えである。前年の学生が植えた稲を、今年の学生が刈り取る形で行われ、伝統の継承を象徴するイベントでもあった。西有田の棚田訪問は2018年までで終了し、2019年からは糸島シェアハウスの協力を得て糸島市の棚田で実施するようになった。コロナ禍のため、再び中断したが、2022年10月、糸島での稲刈りを再開した。

大宰府（11月初旬）

大宰府は、古代における九州の政治の中心地であり、学問の神様（菅原道真）を祀る天満宮は九州で最も人気ある観光地である。また周辺の寺社、竈神社および光明禅寺は、紅葉名所でもある。さらに近年、東京、京都、奈良に次ぐ日本で4番目の国立博物館が開設された。特に11月は、大相撲九州場所の季節であり、天満宮の敷地の一部には稽古土俵が設営され、伊勢ヶ浜部屋の宿营地となっている。そこでこれらを連ねたツアーを実施している。まず、11月初旬、大相撲九州場所が始まる前に、伊勢ヶ浜部屋の稽古場を訪問し、午前中の稽古を見学する。稽古見学は人気があり、周辺の住民やメディアも来るので、我々が稽古場の建物に入れない場合もある。続いて天満宮に参拝し、神職（権禰宜の場合あり）から縁起の説明を「飛梅」の前で受ける。その後、各自昼食を取り自由散策となるが、多くの学生は紅葉名所である光明禅寺を訪れる。残念ながら11月初旬、光明禅寺の紅葉はまだ始まっていないが、留学生は日本庭園の趣向を味わうことができる。

大宰府訪問は、コロナ禍のため2020年、2021年と中止されたが、2022年は再開された。とはいえ、コロナ対策のため、相撲部屋見学は中止となった。そもそも大相撲には数年前に暴力事件があり、それ以後、相撲部屋に協力をいただくのが難しくなった。

ホームステイおよび小学校訪問（11月中旬）

JTW では福岡市内の小中高等学校の協力を得て、ホームステイや教室訪問を実施している。かつては市立中学校、県立高校を訪問していたが、この数年はもっぱら福岡市立周船寺小学校を訪問している。まず日曜日の午前、小学校の体育館で、ホームステイに協力してくださる小学生の家族とJTW学生の引き合わせが行われる。その後、学生は小学生の家族の家に移動し一泊して、日本の家庭生活を体験する。ホームステイは学生にとりわけ人気があるが、協力していただける御家族より学生数が多いので、割当となっている。翌日月曜日、ホームステイに参加した学生は小学生とともに登校し、昼

10 「岳の棚田」ホームページ。 <https://www.take-no-tanada.com/>

過ぎまで授業や歓迎行事に参加する。通常、留学生は3年生から6年生のクラスに分かれて迎えられ、英語の授業などを体験する。また、体育館での歓迎行事に参加することもあり、小学生が文化祭での出しものを特別に披露してくれることもある。昼食は小学生と一緒に給食を取り、その後、校庭で一緒に遊ぶ。午後の授業開始とともに、小学生に別れを告げる。

長崎見学（11月末）

これは日曜日、月曜日を使う1泊旅行である。1日目はまず、九州国立博物館に向かう¹¹。常設展示は、九州大学の学生証を見せれば無料で入れる。企画展は、学生証を見せればかなりの割引を受けられるようである。続いて佐賀県の御船山楽園を訪ね、佐賀藩鍋島家を作った大名庭園を見学する¹²。ここは日本三大大名庭園には入らないが、雄大な景観が与える感銘はそれら以上である。峻厳な断崖を背景とする中国風景観はきわめて個性的だ。この日は武雄温泉に宿泊する¹³。ここには、東京駅を設計した辰野金吾がデザインした共同温泉施設の楼門（国指定重要文化財）がある。共同温泉には鍋島藩侯が使用した浴室などがある。

2日目は長崎に向かう。まず長崎原爆資料館を見学する¹⁴。ここは人によって受ける印象が異なるようで、私は抑制された展示だと思っているが、悲惨すぎて目を背けてしまう人もいるようだ。続いて平和記念公園まで歩き、北村西望作「平和祈念像」を背景に記念撮影を行う。昼食後、大浦天主堂およびグラバー園を訪れ、幕末開国期の政治経済情勢を偲ぶ¹⁵。

12月～2月は、学期末も迫り、講義や演習の負荷も高まるので、見学旅行は行わず、授業に専念させる。

春オリエンテーション（3月末）

JTWでは2月末に一部の学生（10名前後）が1学期の滞在を終え、帰国する。代わって3月末に10人前後の留学生が新たにJTWに加わるので、それに伴って学業、生活面のオリエンテーションを行うと同時に、すでに半年滞在した学生と新しい学生の親睦を深めるオリエンテーション旅行を大分県で行う。これまた1泊旅行である。以前は、宇佐八幡宮、海地獄、高崎山自然公園および「うみたまご」を回っていたが、2018年以降に内容が大きく変更された。

1日目はまず大分県宇佐市の宇佐八幡宮を訪れる。全国の八幡神社の総本社であり、神道で最も重要な神社の格式や威厳に圧倒される。続いて真木大堂、熊野摩崖仏を訪れ、修験道の聖地である六郷満山周遊コースの一部を歩く¹⁶。別府に移動し温泉街の中心地（例えば鉄輪温泉）に宿泊し、日本最大の温泉地で温泉文化を体験する。

11 九州国立博物館。https://www.kyuhaku.jp/

12 御船山楽園。https://www.mifuneyamarakuen.jp/

13 武雄温泉。http://www.takeo-kk.net/spa/

14 長崎原爆資料館。https://nabmuseum.jp/genbaku/

15 グラバー園。https://glover-garden.jp/

16 六郷満山。https://www.millennium-roman.jp/rokugou1300/course/

2日目は、まず「海地獄」を訪問して九州の火山や温泉について学ぶ。その後、2018年には由布院温泉を訪れた。私見であるが、従来通り高崎山自然公園および「うみたまご」を訪れた方が、地の利を生かした観光開発の模範例を見ることを通じて地域振興の学習になると思う。

トヨタおよび伊藤伝右衛門邸（4月中旬）

トヨタ自動車グループは日本最大の民間企業の一つであり、日本の自動車製造業をリードしている。福岡県宮若市にはトヨタ自動車九州があり、自動車を製造し日本国内および世界に向けて輸出している。午前中はトヨタ九州の組立工場（assembly plant）を見学する。午後は、近郊にある伊藤伝右衛門邸を訪ねる。伊藤は明治時代、炭鉱夫から身を起こし一代で財を築いた実業家で、北部九州の「炭鉱王」の一人である。伊藤が柳原伯爵の娘、柳原白蓮と再婚し、共に生活した邸宅が伊藤伝右衛門邸¹⁷である。ここは、NHK 朝の連続テレビドラマ「花子とアン」の舞台の一つであり、放送後、人気の史跡となった。訪問者には、地元のボランティアが熱心に二人の結婚生活の実態を解説してくれる。白蓮は大正天皇の従妹という高貴な血筋ではあるが、最初の結婚に失敗して出戻っており、二回目の結婚で、富豪とはいえ成り上がり者の炭鉱王と経済的理由で結婚させられた身の不遇をかこっていた。伝右衛門は白蓮の機嫌を取るため別府に別邸を建てたところ、そこで東京で知り合った帝大生と白蓮が会うようになってしまったのである。まるで「嵐が丘」のような劇的な恋愛物語に若い留学生は興味惹かれると同時に、明治の成功者の邸宅から当時の経済格差を学ぶことができる。

座禅体験（5月中旬）

江戸時代、久留米藩有馬家の菩提寺であった臨済宗梅林寺で、座禅を体験する。座禅と昼食、境内見学をセットにしたコースに参加する。禅宗では食事も修行の一部であり、作法の一つ一つに宗教的意味があることを学ぶ。ここには有馬家歴代藩主の菩提寺でもある。前述の通り、コロナ禍で中止となり2022年に再開されたが、精進料理昼食は引き続き中止である。

歌舞伎（6月初旬）

福岡では博多座で、通常、年2回の歌舞伎興行がある。2月は若手中心の「花形歌舞伎」だが、6月は大幹部出演の「大歌舞伎」である。華やかな襲名披露興行が行われることもある。通常、11時から15時半ごろまでの「昼の部」を鑑賞する。歌舞伎独自の約束事や様式的表現については事前に説明をする。たまたま「襲名披露興行」である場合には、世界に類を見ない芸能の世襲システムについても学ぶ。

田植え（6月中旬）

JTW 通年コースでは最後の見学一泊旅行である。しかし2018年を最後に中止となっている。2023年に再開の場合は、糸島シェアハウスさんの協力をお願いする予定である。

17 伊藤伝右衛門邸ホームページ。 <http://www.kankou-iizuka.jp/denemon/>

従来のやり方は次のようであった。1日目は、西有田の「岳の棚田」を訪れ、水田に裸足で入って腰を曲げ、田植えを体験する。昼は農家の人とバーベキューを行い、地元の食材を味わう。午後は、「日本の滝百選」の一つである「見返りの滝」を訪れ、落差80mの豪快な水流と、沿道に満開のアジサイを鑑賞する。夜は再び武雄温泉に泊まる。

2日目は日田に向かい、幕末の儒学私塾である咸宜園を訪れる¹⁸。日田は河川が集中して江戸時代にはコメや木材など九州物流の中心地で、幕府天領であった。広瀬淡窓は日田の商家の長男であったが、病弱だったため商売は弟に譲り、学問に専念して咸宜園を開いた。咸宜園は幕末から明治30年まで続き、当時、日本最大の私塾であったが、明治政府による公教育の整備とともにその歴史的役割を終えた。続いて日田の中心地、豆田町を歩き、往時の経済的繁栄を偲ぶ。昼食後、サッポロビール日田工場を訪れ、ビール製造がこの地の自然条件に適した産業であることを学ぶ。

4. JTW がかつて訪れたが今は行かない場所

麓刑務所（佐賀県鳥栖市）

これは九州で唯一の女子刑務所である。以前、JTW の講義科目に日本の刑事政策を解説するものがあり、その担当教員の紹介で訪問していたのだが、刑務所の事情で見学者受け入れができなくなったようである。実は私も訪問したことはない。

壱岐島

JTW 最初のオリエンテーション旅行（10月初旬）で訪れたことがある。かつては学業・生活のオリエンテーションも訪問先で行っていたので、これは2泊3日の旅行であった。ただし壱岐島それ自体の見どころは猿岩ぐらいで、興味深い体験をする場所が少なく、1回で取りやめとなった。

雲仙

3月の春オリエンテーション旅行はかつて2月中旬に行われていた。時期的に中国の旧正月にあたり、1日目は長崎のランタン・フェスティバルを訪れ、2日目は雲仙に出かけ雲仙地獄、火砕流の被災地や島原城の武家屋敷などを見学し、有明海を熊本に渡って帰っていた。その後、中国人留学生が増え、2月になると中国に一時帰国したがる学生が増えたことや、日本語科目の授業日程の都合もあって、雲仙までの遠出は廃止となり、同時に春オリエンテーションの時期も3月末に移された。

八幡製鉄所

北九州は、我が国の重工業黎明の土地であり、とりわけ八幡製鉄所は明治期の殖産興業政策のシンボルである。JTW でもかつて数回訪問したが、トヨタ自動車九州への訪問と日程が近くて参加希望者が少なく、また工場側の事情として、産業秘密保護のため外国人の訪問を歓迎していない、十分な説

18 咸宜園。 <https://www.city.hita.oita.jp/shisetsu/kangien/index.html>

明要員を割けないという事情があり、訪問は廃止された。

TOTO

言うまでもなく、トイレ設備など衛生陶器の日本最大メーカーである。この会社の本社が小倉にあるということは意外と知られていない。首都圏で圧倒的なシェアを誇る会社で九州のイメージがないからだろう。立地からして九州大学（特に工学部）との関係も深く、卒業生もたくさん就職しているようだ。九大生が訪問すると特に歓迎で、昼食をサービスで提供してくれたが、留学生の関心が今一つ低く、訪問は取りやめとなった。

その他、1回限りの訪問で終わりとなった企業や施設は他にもあるが、先方の厚意で訪問させていただいたという事情があるのに、期待通りでなかった点を列記するようなことは避けたいから、ここまでにとどめたい。

5. JTWとしてはこれまで訪問していないが、訪問する価値があると思われる場所

以下は、筆者が地域浸透（regional immersion）などの教育上の観点から訪問価値があると考えるところである。

福岡市周辺の名所

九州最大の都市・福岡市は、歴史的にも九州の中心であり、大陸文化受容の窓口となって来た。そのため歴史的・文化的に重要なスポットが多く、留学生に学んでもらうには好適である。

櫛田神社・筥崎宮・香椎宮

櫛田神社は、博多の鎮守社であり、博多最大の祭・祇園山笠の中心地でもある。筥崎宮は日本三大八幡神社の一つであり、放生会は例年、大量の参拝客を集める。香椎宮は、記紀神話の世界では、仲哀天皇の御座所、すなわち一時的に日本の首都だったこともある由緒ある神社である。

東長寺・南蔵院・若杉山

空海創建とされる東長寺は、日本最初の密教寺院と言われ、福岡大物や地獄極楽めぐりが有名である。南蔵院は篠栗四国霊場の総本寺で、近年では巨大な釈迦涅槃像が人気である。若杉山奥の院は修験道のパワースポットであり、中腹の巨大杉の森とともに有名である。

糸島

九州大学の所在地である糸島半島は、絶景の宝庫である。まず芥屋大門の内部の洞窟では見事な柱状節理が見られる。二見ヶ浦の夫婦岩をはじめとする海岸の風景も印象的だ。このあたりは元寇の古戦場でもある。背振山地に向かうなら、紅葉名所としてして知られる雷山観音の五百羅漢や観音像も一見の価値がある。

英彦山

英彦山は、羽黒山、大峰山と並ぶ、修験道の三大聖地の一つである。江戸時代の全盛期には、九州全土及び中国地方から多くの参拝者を集め、麓には多くの宿坊が並んでいたとされる。元は単に彦山（ひこさん）と名乗っていたが、霊元法皇の院宣によって「英」の字を与えられ、英彦山と書かれるようになった。九州では最重要な宗教文化遺産の一つである。今ではスロープカーによって標高720mの英彦山神宮奉幣殿まで、簡単に登ることができる。

軍艦島

長崎沖にある孤島だが、石炭開発の全盛期には炭鉱労働者の家族数万人が暮らし、小中学校が整備されていた。近年、近代化遺産としてユネスコ世界文化遺産に登録され、首都圏から長崎への観光客にとって最大の人気訪問地となっているそうである。JTWでもかつて訪問を検討したことがあるが、そもそもツアーの価格が高く、また天候によっては船が接岸できず周囲を回るだけにとどまるなどの難点があり、今のところ企画のみで実施されたことはない。

鹿児島

桜島を鹿児島市内から望むと、文明の営みを圧する存在感であり、幕末の討幕運動がこの地から起こったのは、江戸幕府を相対化するモノの見方は、桜島という大いなる自然によって育まれたのではないかと思わせる。その他、鹿児島には倒幕運動の背景となった史跡が数多く残っており、歴史を学ぶ場所として格好の地である。

高千穂の峰および高千穂峡

記紀神話では、日本国の最初の統治者は、高天原の支配者であるアマテラスによって高千穂の峰に送られた弟神ニニギの尊（ミコト）であるとされる。明治維新の構想者である坂本龍馬が日本人最初の新婚旅行先として選んだのも高千穂の峰であった。他方、高千穂峡もまた天孫降臨神話ゆかりの場所と考えられており、岩戸神社はアマテラスが姿を隠した場所とされる。この二つの場所の関連はよくわからないが、歴史以前の伝承を考えるにあたり、最も重要な場所であることに変わりはないだろう。

桜島も高千穂も、福岡市からバスで出かけると4時間程度はかかる場所にある。高千穂の峰は2時間程度で登れる山であるが、登山経験の少ない学生には厳しいし、安全を考えると登山靴などある程度の装備が必要である。

終わりに

以上、JTW Field Tripsについて、これまでの実施の概要を紹介し、今後の訪問先の提案を行った。

Spring-Summer Semester, 2022

	MON	TUE	WED	THU	FRI
PERIOD 1 8:40-10:10	<u>International and Multicultural Education in Japan</u> (Prof. NONAKA)	Japanese Academic Courses (JACs)			
PERIOD 2 10:30-12:00				<u>Diversity & Minorities in Japan</u> (Prof. HIGO)	<u>Ageing & Generations in Japanese Society</u> (Prof. HIGO)
				<u>Local Production in Kyushu</u> (Prof. CROSS)	
PERIOD 3 13:00-14:30		<u>Introduction to International Finance</u> (Prof. CHU)	<u>Value and Spirituality in Japan</u> (Prof. IKUTA)	<u>Japanese Literature as Speculative</u> (Prof. CROSS)	<u>Language and Society in Japan</u> (Prof. WOLANSKI)
				<u>Contemporary Japanese Politics</u> (Prof. HASUMI)	
PERIOD 4 14:50-16:20	<u>Gender and Sexuality in Today's Japan</u> (Prof. NONAKA)	Japanese Academic Courses (JACs)			
PERIOD 5 16:40-18:10	<u>Modern History of Japan 2</u> (Prof. IMAI)	<u>Japanese Economy in Transition</u> (Prof. IMAI)	Japanese Academic Courses (JACs)	<u>East Asian Images of Japan</u> (Prof. VICKERS)	Japanese Academic Courses (JACs)

JTW Core Course Time Table

Fall-Winter Semester (Oct. 2022 – Feb. 2023)

CORE COURSE TIMETABLE

	MON	TUE	WED	THU	FRI
PERIOD 1 8:40-10:10		Japanese Academic Courses (JACs)			
PERIOD 2 10:30-12:00		<u>Education in Japanese Society</u> (Prof. NONAKA)	<u>Self & Identity in Contemporary Japan</u> (Prof. NONAKA)	<u>Nambō Ryū Tea</u> (Prof. CROSS)	<u>Japan in Global Society</u> (Prof. HIGO)
PERIOD 3 13:00-14:30		<u>Modern History of Japan I</u> (Prof. IMAI)	<u>Religious Diversity in Japan</u> (Prof. KINOSHITA)	<u>Two Murakami</u> (Prof. CROSS)	<u>Japan & Globalization</u> (Prof. HIGO)
PERIOD 4 14:50-16:20		Japanese Academic Courses (JACs)			
PERIOD 5 16:40-18:10		<u>Introduction to Japanese Economy</u> (Prof. IMAI)	Japanese Academic Courses (JACs)		Japanese Academic Courses (JACs)

2021年度 九州大学留学生センター・留学生指導部門報告 (カウンセリング関係)

Report on International Student's Advising and Counseling Division (2021)

高 松 里*

1. はじめに

九州大学留学生センター・留学生指導部門は、外国人留学生および留学生に関わる教職員・学生、さらには地域の人々を対象として、様々な活動を行っている。本報告は、留学生指導部門の活動の中で、カウンセリングに関連したものを掲載した。

活動としては、①相談活動、②教育活動、③留学生への支援システムの形成、④研究・研修活動、⑤学内協力講座・委員会、⑥社会連携、である。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19と表記）の影響で、活動が著しく制限された。相談室は一時期閉鎖され、その後は主にオンラインに移行して相談活動を維持した。授業（多文化クラス）は、学部・大学院ともに開講できなかった。学内外の国際交流団体はほとんど活動ができなかった。

2021年度も COVID-19の状況はそれほど変わらなかったが、留学生相談はオンラインを中心にして活発に行われた。また、授業も対面とオンラインを使ったハイブリッド授業となった。学内外の交流活動は制限が多いものの、少しずつ再開しつつある。

2. 相談活動

(1) 相談室

相談活動の中心は伊都キャンパスであるが、必要に応じて、病院キャンパス、筑紫キャンパス、大橋キャンパスでも相談を受けることになっている。

COVID-19のために、2020年4月7日で対面相談は一旦停止した。その後、キャンパスライフ・健康支援センターのホームページに設けられた、「ウェブ相談受付フォーム」（日本語・英語・中国語）を入口として、相談活動は再開され、相談の数も増えている。

相談を担当している高松（筆者）は臨床心理士・公認心理師であり、心理的な問題が専門であるが、留学生に関することであれば、日常生活・勉学・進路など様々な相談を受けた。また、緊急事態（急

*九州大学留学生センター准教授 takamatsu.satoshi.098@m.kyushu-u.ac.jp

表1 相談分類および件数

留学生からの相談		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
修 学	入学・進学関係	0	3	0	0
	教育制度・内容	10	0	0	6
	進路相談	16	2	3	0
	研究室の人間関係	27	31	43	39
生 活	法律的問題	3	1	0	0
	経済的問題	0	0	0	0
	宗教的問題	0	0	0	0
	宿舍問題【国際交流会館】	0	0	0	0
	宿舍問題（その他）	0	0	0	0
	生活問題	0	0	0	2
	事故病気等	0	0	5	2
	渡日・滞日許可	0	0	0	0
	人間関係	2	10	4	60
	子弟の教育問題	0	1	0	0
	帰国準備	0	0	0	0
	メンタルヘルス	105	79	117	203
その他	国保・一般保険	0	0	0	0
	各留学生会	3	10	12	11
	その他分類不可	0	7	0	1
小 計		166	144	184	324

その他の外国人からの相談

	入進学	1	5	1	0
	その他	0	12	0	9
小 計		1	17	1	9

日本人からの相談

学 生	留学生とのトラブル	0	0	0	0
	海外留学情報	0	0	0	0
	国際親善会関係	0	3	0	2
	その他	34	27	0	0
教職員	入進学	0	0	0	0
	奨学金	0	0	0	0
	日本語関係	8	0	0	1
	コンサルテーション	57	101	150	146
外 部	その他（コーディネーション）	0	0	20	181
	情報・コメント	3	4	14	0
	留学生との交流	0	2	4	3
	入進学	0	0	0	1
	苦情	0	0	0	0
	その他	0	2	3	1
小 計		102	139	191	335
総 計		269	300	376	668

相談の中で最も多いのが、「メンタルヘルス（203件）」であった。心理的な問題を抱えている学生が増えた。不安、不眠、鬱、発達障害に関する相談が多かった。必要に応じて、学外の医療機関にも紹介している。妄想的になったり自傷行為を行う学生もいた。鬱状態で動けなくなった留学生を自宅ま

性の精神病、自殺や自殺未遂、事件・事故）には、他職種とともにチームを組んで対応する。

また、高松は九州大学キャンパスライフ・健康支援センター（健セ）においても、カウンセラー（留学生担当）として兼務している。健セには、非常勤の留学生担当カウンセラーがおり、英語担当2名、中国語担当2名が勤務している。高松はそのコーディネート役を担い、毎日非常勤カウンセラーと電話連絡を取っている。すべての相談ケースに目を通した上で、適切なカウンセラーに接続し、必要に応じてその後のスーパーバイズを行っている。

（2）来談状況

2021年度の相談室における相談件数は表1の通りである。参考までに2018年度～2020年度の数値も併記した。

相談全体を見ると、668件となり、例年の倍近くになっている。様々な相談が持ち込まれた。

①「留学生からの相談」は324件であった

例年と比べて相談が1.5倍～2倍に増えている。これは、COVID-19の影響により、人間関係が薄れ、教員や友人知人による支援が減ったためだと思われる。相談の多くはオンライン（主にZOOM）で実施された。

また、COVID-19のために日本に入国できていない留学生に対しても、現地とオンライン相談を行った。

で迎えに行ったこともある。自殺念慮を持つ学生への対応もあった。

また、緊急入院を要する事案もあり、学内外の医療機関と連絡を取り、教職員にはコンサルテーションを行った。例年と同様に、緊急入院に際しては、「医療保護入院」（一種の強制入院）のために、様々な工夫が必要となった。ZOOM を用いて海外にいる保護者と連絡を取り、医師や指導教員、事務職員やカウンセラー、通訳などが全員顔を揃えることで、意思疎通が可能になった。それにより入院同意は取りやすくなったが、入院先が決まるまでに数日かかるケースがあり、この間の本人の保護をどうするかが、課題となった。

次いで「人間関係（60件）」「研究室の人間関係（39件）」であった。文化的背景や言語的な問題によって、指導教員や同僚の学生との関係が難しい。COVID-19の影響で顔を会わせる機会が減ったことも影響している。

「その他」の「各留学生会（11件）」は、主にイスラムの礼拝場所やイベント会場に関する相談である。COVID-19で金曜礼拝が中止となっていたが、2021年には再開された。その際、顧問として、礼拝再開に関する意見書を大学に提出している。

②「その他の外国人からの相談」は9件であった

これは、九州大学を卒業した留学生のフォローアップである。原則的に卒業生に対してはカウンセリングは行わないが、心理的なサポートが必要だと判断した場合に、複数の留学生に対して、数回ずつ行われたものである。

③「日本人からの相談」は、335件であった

最も多いのが「その他（コーディネーション）（181件）」であった。これは、主に、兼務しているキャンパスライフ・健康支援センターの非常勤カウンセラー（厳密には日本人でない人も含まれる）との電話等による情報交換である。

次いで、「コンサルテーション（146件）」である。コンサルテーションとは、教職員とカウンセラーとが共同して、留学生の問題の解決や軽減を図ろうとするものである。緊急入院に際しては、指導教員・保護者・事務職員・医療機関など様々な人たちが関わる。その調整役をするのもカウンセラーの役割である。

3. 教育活動

（1）オリエンテーション

①新入生オリエンテーション

例年、留学課が主催して、新入留学生が入学してくる直前の9月と3月に「サポートチームオリエンテーション」を実施し、入学後の4月と10月に、「新入留学生オリエンテーション」を実施していた。指導部門の教員はこれらのオリエンテーションに関与していた。これも COVID-19の影響で入学者数が減り、十分に実施できていない。

また、2022年3月に、「留学生と友達になりたい日本人学生のための留学生超入門2022年度版」を例年通り発行し配布した。

②キャンパスライフ・健康支援センター関連オリエンテーション

例年「他大学出身大学院生のためのオリエンテーション」(各キャンパス) およびフォローアップ企画(懇親会)が実施されていたが、2021年度は COVID-19のために中止となった(代替手段として動画を配信した)。

(2) 授業

2020年度は、COVID-19のために2つの授業は開講できなかったが、2021年度は対面とオンラインにより、開講した。

①学部基幹教育フロンティア科目「日本事情」(前期セメスター、水曜日4限、担当教員は高松里およびキャンパスライフ・健康支援センターの船津文香)

留学生の授業登録者が27名であったので、それに合わせて日本人学生数は28名となった(日本人学生は受講制限がある。初日のレポートにより選考)。この数は COVID-19流行以前の半分程度である。入国できない留学生もまだ多かった。

②大学院基幹教育「異文化理解の心理学」(後期セメスター、金曜日5限、担当教員は高松里およびキャンパスライフ・健康支援センターの小田真二)

留学生と日本人学生を合わせて20名程度で対面で開講された。途中 COVID-19感染が広がり、オンラインに切り替えた。

(3) その他

- ・ 2月26日(土): 留学生入試試験監督

4. 留学生に対する支援システムの形成

(1) サポートチームおよびチューターへの支援

例年、学部留学生(新入生)を支援するサポートチームのメンバー選考および評価を行ってきたが、今年度はなかった。

(2) 初期適応支援

学部留学生に対しては、入学直後に「履修説明会」を行った(2020年度は実施できなかったが、2021年度は再開した)。また、基幹教育「日本事情(多文化クラス)」を開講し、日本人学生との交流の機会を提供した。

大学院生に対しては、大学院基幹教育「異文化理解の心理学(多文化クラス)」を開講した。

(3) 学生団体に対する顧問としての指導・助言

留学生指導部門の教員は以下のような留学生の団体や、学生サークルの顧問となっている。

①九州大学留学生会（KUFSA=Kyushu University Foreign Student Association）

九大に所属する全留学生を代表する会である。例年、4月に「スポンサーミーティング」が行われ、バスハイク、スポーツ大会、年末の国際親善パーティなどを実施している。2021年度は少しずつ活動を再開した。

②九州大学ムスリム学生会（KUMSA=Kyushu University Muslim Student Association）

ムスリム学生会は、九大に所属するイスラム教留学生（約350人）の団体である。

例年、イスラムウィーク（パネル展示、イスラム衣装の紹介、アラビア書道、映画、講演、お菓子、各国の料理提供）およびフードフェスタを実施していたが、2021年度は開催できなかった。

長年の懸案となっていた、集団礼拝（金曜礼拝）場所の確保については、イーストゾーンの多目的室を2020年度から使えるようになっていた。しかし、2020年3月20日以降の集団礼拝は新型コロナウイルス感染防止のため大学が自粛を要請し、集団礼拝は結局行われなかった。2020年11月に再度イーストゾーンの見学を行い、集団礼拝の再開に向けて検討を行ったが、COVID-19拡大のため今回も見送りとなった。

2021年10月に、学内関係者が再度検討し、イーストゾーンでの礼拝を開始。同時にウエストゾーンにおいても、礼拝が再開された。

③九州大学国際親善会（KUIFA=Kyushu University International Friendship Association）

毎年の活動としては、5月から行われるシンガポール大学との交換プログラムの「Inter Link FUKUOKA」、毎週水曜日に「全学コーヒアワー」（センターゾーン）、九大祭に出店し国際交流をアピールしていた。これらは COVID-19の影響で活動停止となった。

（4）ボランティア団体への助言・指導**「九州大学留学生サポートネットワーク〈そら〉」の活動への助言**

〈そら〉は、社会人を中心としたボランティア団体である。主な活動としては、新入留学生を対象とした4月の「博多街歩き」、10月の市内ツアー、井尻国際交流会館における「日本語交流」（週一回）、伊都協奏館での文化イベント（「七夕イベント」等）企画などをしてきた。2021年度も COVID-19の影響で活動停止となっている。

5. 研究・研修活動**（1）著書・論文・報告****【著書】**

なし

【論文】

- ・小田真二，高松里，福盛英明，船津文香，松下智子，吉良安之（2021）．学生相談における Web 会議システムを用いた遠隔相談の取り組みと今後の課題．CAMPUS HEALTH, 58, 2, 197-203, 2021. 07.

- 小田真二, 高松里, 福盛英明, 船津文香, 松下智子, 吉良安之 (2021). 新型コロナウイルス感染拡大防止下での学生相談と Web 相談受付フォームの導入. CAMPUS HEALTH, 58, 2, 204-210, 2021. 07.
- 高松里 (2021). セルフヘルプ・グループにおけるアサーション. 精神療法, 増刊第 8 号, 149-154.
- 高松里 (2021). 留学生オンラインカウンセリング. 人間心理学研究, 39-1, 29-36.
- Shinji Oda, Satoshi Takamatsu, Hideaki Fukumori, Fumika Funatsu, Tomoko Matsusita and Takeshi Sato (2021). Changes in the Student Counseling System during COVID-19 in Japanese University. INFORMATION: An International Interdisciplinary Journal, Volume 24, Number 3, 175-184, 2021
- 小田真二, 高松里, 福盛英明, 船津文香, 松下智子, 吉良安之 (2021). 他大学出身の大学院生を対象とした入学時のワークショップ型支援. 学生相談研究, 42, 2, 115-126, 2021. 11.
- 船津文香・福盛英明・高松里・面高有作・松下智子・小田真二 (2022). COVID-19影響下における九州大学キャンパスライフ・健康支援センター学生相談室での対応——2021年度の様相と、2年間で振り返って——. 九州大学学生相談紀要・報告書, 第 8 号, 9-20.
- 高松里 (2022). 留学生カウンセラー第一世代としての経験. 九州大学学生相談紀要・報告書, 第 8 号, 33-41.

(2) 学会発表

- 高松里・顧佩靈・宮原里依子・榊祐子・白水信 (2021). 新型コロナウイルス感染症と留学生カウンセリング——オンラインカウンセリングの特徴と留学生の心理——. 日本人間性心理学会第40回記念大会プログラム・発表論文集, 59.
- 井内かおる・高松里・土井晶子・永野浩二 (2021). 新型コロナウイルスに関する経験は、どのように語られるか——モノローグとダイアローグの比較——. 日本人間性心理学会第40回記念大会プログラム・発表論文集, 65.
- 大河内範子・高松里・大下智子・松本剛・吉川麻衣子 (2021). 対面グループとオンライングループ——メリットとデメリットを考える——. 日本心理臨床学会第40回大会発表論文集, 256.
- 森岡正芳・足立映子・高松里・野村晴夫 (2021). 語りと心理臨床のこれから (実行委委員会企画、構造化ディスカッション). 日本心理臨床学会第40回大会発表論文集, 11. (動画視聴ページに詳細あり)

(3) 研究活動

【2021年】

- ワークショップ講師 (複数) 「参加者一人ひとりを大事にする PCAGIP 法」. DICO (ダイアローグ国際会議オンライン)
- ワークショップ講師 (複数) 「平和と民主主義に向けた私たちの取り組み——パーソンセンタード・アプローチ (PCA) の立場から」. DICO (ダイアローグ国際会議オンライン)

- 9月25日（日）：「経験の言語化プロジェクト、キックオフ（1）」（主催）
- 9月26日（月）：「経験の言語化プロジェクト、キックオフ（2）」（主催）
- 12月4日（土）5日（日）（1泊2日）：「第1回篠栗遍路エンカウンター・グループ」実施（主催）
- 12月25日（土）26日（日）：エンカウンター・グループを中心にしたコミュニティ研究会（伊都ゲストハウスおよび西新プラザ）

【2022年】

- 2月11日（金）、2月20日（日）、2月27日（日）、3月6日（日）：「経験の言語化プロジェクト、個人セッション」実施（主催）
- 2月12日（土）13日（日）：「第2回篠栗遍路エンカウンター・グループ」実施（主催）
- 2月16日（水）、3月9日（水）：「コロナ経験の語り」（立命館大学、オンライン）
- 2月20日（土）：日本臨床心理士会主催「第22回被害者支援研修会」参加（オンライン）
- 2月21日（日）：人間関係研究会主催「オンライングループ研修会」参加（オンライン）
- 3月6日（土）：学生相談学会主催学生相談セミナー「新型コロナウイルス影響下での学生相談」参加（オンライン）

（4）学会誌査読

- 「人間性心理学研究」査読1件
- 「留学生交流・指導研究」査読1件

（5）日本人間性心理学会2021年大会準備委員会

- 準備委員会出席
- 学会発表論文査読
- 大会運営

6. 学内協力講座・委員会・その他

（1）人間環境学府関連

- 人間環境学府附属総合臨床心理センター研究員

（2）キャンパスライフ・健康支援センター関連（大部分がオンライン）

- センター委員会（月1回）
- 学生相談カウンセリング部門会議（週1回）
- 事例検討会（月1回）
- 相談担当実務者ミーティング（月1回）
- 非常勤カウンセラーミーティング（年2回）
- 学生相談セミナー（年1回）

- 学生相談室会議（年2回）
- 学生相談地区別連絡会議（年5回、5キャンパス）
- 常勤カウンセラー研修会（年1回）
- 研究推進会議（月1回）
- FD & SD（不定期）
- 九大病院子どものこころ療養部との連絡会議（年数回）
- 非常勤カウンセラーとのミーティング（週4回）

7. 社会連携

【2021年】

- 4月9日（金）：福岡大学にて講演「異文化ストレスとその付き合い方」（新入留学生対象、国際センター主催）
- 4月27日（金）：OPACK（九州大学学術研究都市推進機構）事業として、福岡舞鶴高校作成の「留学生のための糸島地図」印刷発行。「留学生超入門」（縮小版）印刷発行。
- 4月12日（月）、5月20日（木）：立命館アジア太平洋大学常勤カウンセラーへのスーパービジョン。
- 5月17日（月）：北九州市のひきこもり女子を支援する会との Zoom ミーティング（グループの組み立て方についてアドバイスした）
- 7月8日（木）：ITOSHIMA MAP 贈呈式（伊都ゲストハウス）。福岡舞鶴高校からマップ作成学生および OPACK 職員が来学。留学生も参加し、高校生と交流を行った。
- 9月28日（火）：「難病ピア・サポーター養成講座（福岡県難病医療連絡協議会主催）第1回」講師（オンライン）
- 10月12日（火）：「難病ピア・サポーター養成講座（福岡県難病医療連絡協議会主催）第2回」講師（九大病院）
- 10月26日（火）：「難病ピア・サポーター養成講座（福岡県難病医療連絡協議会主催）第3回」講師（吉塚合同庁舎）
- 12月14日（火）：九州女子大学「心理支援論」講義（1回のみ）
- 12月21日（火）：九州大学国際診療支援センター主催「九州大学病院 外国人医療研修会」にて、講演「コロナ禍における留学生の心理とメンタルヘルス」。

【2022年】

- 2月28日（月）：「外国人にも住みやすい環境整備推進委員会（九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）主催）出席（オンライン）
- 3月5日（土）：福岡県・福岡市難病相談支援センターにて講演（オンライン）
- 3月12日（土）：市民講座「総排泄腔障害」にて講演（オンライン）

8. おわりに

2020年はCOVID-19のために、様々な支援システムが機能停止となったが、2021年度はそれを少しずつ再開した。

留学には、もともと「文化摩擦とその解消（理解）」が想定されている。異文化状況においては、文化的背景が違うために、意思が伝わらず誤解が生まれ、偏見が露わになる。それは留学というものに織り込み済みのことである。そこからどう相互理解を促進できるかが重要であった。ところが、COVID-19のために、後半の「解消（理解）」の部分がほとんど機能しなくなった。2021年度は、学部・大学院の授業が再開されたことで、やや改善された。

今後は、十分な感染対策をした上で、対面・オンラインの両方の良さを生かした、交流促進が必要となる。

留学生相談については、オンラインに移行したことで意外なメリットも生まれた。一つは、キャンパス間のサービス格差がなくなったことである。九州大学には、伊都キャンパスの他、病院キャンパス、大橋キャンパス、筑紫キャンパス、その他の遠隔キャンパスが存在している。従来は、緊急事態を除き、伊都キャンパスまで留学生が来る必要があった。それがオンライン相談により、どこからでも相談が可能となった。国内のみならず、海外にいて来日できない九州大学の留学生に対しても、オンライン相談が可能になったのは、大きな展開であった。

また、相談が中断することが少なくなった。従来の中断理由としては、体調や気分の悪さから、相談室まで行くことを躊躇することがきっかけとなる場合があった。その点、オンラインならどこからでも接続できる。ただし、自宅に家人がいるために話ができない、という問題も生じた。

新しい事態には、新しい方法や新しい考え方が必要になるだろう。今後も、柔軟に支援体制を整えていくことが重要である。

令和4年度スーパーグローバル大学創成支援事業 学部生・大学院生共通基幹教育科目「世界が仕事場Ⅰ&Ⅱ」

Super Global University Initiative Lecture Series “Work in the World”

生 田 博 子*

1. はじめに

スーパーグローバル大学創成支援事業とは、国の政策として高等教育の国際競争力を向上させ、グローバル人材の育成を図るため、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速することを目標として、大学内の体制強化や国際化を進める大学を重点的に支援する制度である。トップ型大学13校（世界大学ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学を対象）とグローバル化牽引型大学24校（これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学を対象）が選拔され、本学はトップ型に選ばれた。本章では本学におけるスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として開講されている「学部生・大学院生共通基幹教育科目・世界が仕事場Ⅰ&Ⅱ」について報告する。

2. 「世界が仕事場Ⅰ&Ⅱ」

2. 1. 目的

「世界が仕事場」は、九州大学留学生センターにおけるスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として、グローバル人材とは何かを探究する日本人学生を対象に開講された授業である。一般に大学が提供する留学支援は、語学の授業、留学プログラムや奨学金制度の充実、留学カウンセリングなどが挙げられるが、学生の海外留学や海外でのキャリアへの興味を引き出し、涵養することを目的にしたカリキュラムの例は少ない。近年、日本人学生の海外留学の減少が懸念されており、留学目的や意識・意欲の変化などの理由が挙げられている。九州大学も例外でなく、スーパーグローバル大学調書では日本人留学生派遣促進に関する取り組みを提唱するも、留学希望者が増えないことへの懸念から、学生の自主性、広報活動だけに頼らず新たな取り組みが求められていた。本コースは、そのような状況を打開すべく、基幹科目として全学の学部生、大学院生、留学生を対象に企画したものである。

この授業では、単に短期留学や海外での研究経験があるというだけでなく、海外の大学や大学院で学位を取得し、世界の第一線で活躍している日本人（国連職員、研究者、NPO 代表、起業家、ジャーナリストなど）が、それぞれの仕事や生き様を語り、異文化や海外体験を含む、幅広い体験の意義や

*九州大学留学生センター准教授

意味を考え、グローバル社会での生き方のヒントを得ることを目的としている。学生たちには、海外で活躍する人々も、色々な事に悩み、失敗を重ね、試行錯誤しながら、国際社会の中でキャリアを築き人生を歩んできたということを知り、生き方の多様性を学ぶことを期待している。

この授業は2016年後期に始まり、7年目を迎える今年、累計で約2000名の学生が履修している。

2. 2. 実践

本コースは①講師による講義と質疑応答、②「問いとコメント」、③グループディスカッションと発表、が3本の柱となっている。秋学期と冬学期に開講し、全16回の講義はオリエンテーション1回、外部招聘講師10名と本学教員2名による講義12回、グループディスカッション3回から構成される(資料1)。受講生は、毎回の授業で、講義に関する短いレポートの提出、ディスカッションへの積極的な参加が求められている。今年度は、コロナ禍での対面講義にもかかわらず、秋学期の履修者数は学部生が160名、大学院生が38名の198名、冬学期は学部生が157名、大学院生が38名の195名。また聴講生が多く、本学教職員も積極的に聴講している。

2. 3. 成果

本学の大学間交換留学申請者の多くは、本授業の受講生であり、学生や教職員から地球市民、グローバル人材を考える上で、大変有意義な講義であるとのフィードバックを頂いている。学外からの参加や見学などの依頼等も多い。

3. まとめ

本授業は、九州大学に在籍する日本人学生や留学生に、国際社会の現代における人生の選択肢、個々がグローバル人財として要素の探求などを狙いとしている。グローバル人材の育成や大学のグローバル化の達成にはさまざまなアプローチがあるが、学生の意識を変えていくことも大学の国際化に大きく貢献する。

(資料1)

スーパーグローバル大学創成支援事業
令和4年度秋冬学期・後期 学部生・大学院生共通基幹教育科目
「世界が仕事場Ⅰ&Ⅱ」

ー 君は、世界で活躍する先輩にどんな夢を抱いたのか聞いたことがあるか？ ー

本コースでは、多様な分野の第一線で活躍する講師が、人生やキャリアについて語る。異文化や海外体験を含む幅広い体験の意義や意味を考え、グローバル化の進む現代社会での生き方のヒントを得よう！授業は、アクティブラーニングのもとに①講師による講義と質疑応答、②「問いとコメント」、③グループディスカッション、を3本の柱とする。詳しくは、後期シラバス参照のこと。

日時：水曜日4限（14：50-16：20）

対象：学部生・大学院生・留学生

教室：センター2号館4階 2403-2404教室

単位：全16回2単位（学部生Ⅰ秋学期・Ⅱ冬学期、各1単位ずつ；大学院生Ⅰ後期2単位）

問い合わせ：留学生センター准教授・生田博子 Email: ikuta.hiroko.953@m.kyushu-u.ac.jp

（注）10/5はイントロダクション、10/26、11/30、2/8はディスカッション。



10月12日 「地図を毎日眺めています」

木田 新一郎（九州大学准教授・海洋物理）

東京大学 B.S. マサチューセッツ工科大学 M.S. Ph.D. 前職：海洋研究開発機構(JAMSTEC)他

私は海の研究者ですが、ほぼ毎日のように地図を眺めています。地球科学の研究者は地球が研究対象だけでなく世界を相手に仕事をしている、というわけではありません。留学体験などを交えながら研究者の世界ではどう地球を科学しているのか、お話ししたいと思います。



10月19日 「人の幸せ？ミジンコの幸せ？僕の幸せ！」

小林 福茂（小学校助教諭）

九州大学卒業

「飢餓問題を解決する！」と意気込んで九州大学農学部に入り、海外を飛び回るも、今日本で教師をしています。僕の真面目でしようもない生き様と一緒に振り返りながら、みなさんが自分自身と向き合う時間になればと思います。



11月2日 「VUCA 社会で生き・生かされるパラレルキャリアのすすめ」

佐藤 真久（東京都市大学教授・環境学）

筑波大学 B.S. M.A. サルフォード大学 Ph.D. 前職：地球環境戦略研究機関(IGES)他

日本での高校進学を辞め、単身での英国留学を通して、世界の大きな転換期（東西冷戦の終焉、経済のグローバル化）を体験した。自身の変容に挑むコツとアイデアを共有しながら、これからの生き方、あり方について議論を深めたい。



11月9日 「日本・台湾・中国～テレビ制作現場の経験を通して」

吉松 孝（番組制作プロデューサー、スポーツ実況アナウンサー）

早稲田大学卒業

日本の放送業界に在籍した後、台湾に渡り番組制作を続け、中国大陸でも数都市（北京、杭州、長沙、大連等）で番組出演を行うなど制作現場に携わっています。中華圏や日本のテレビ業界の舞台裏について体験と比較を交えながらお話しします。



11月16日 「多様性の中で生きる」

山内 肇 (医師・オーストラリア在住)

琉球大学医学部卒業 前職：南極観測隊 (医療担当) 他

沖縄で生まれ、南極で越冬し、その後オーストラリアに移住。10年のブランクを経て医師に戻るが、異なる言葉・文化・社会システム、多様な人々の中で働く大変さと面白さを経験しています。その一端を皆さんと共有できればと思います。



12月7日 「21世紀の北極圏：気候変動、開発、伝統の中で」

生田 博子 (九州大学准教授・人類学)

アラスカ大学 B.A. M.A. アバディーン大学 Ph.D. 前職：米国アラスカ州政府野生動物管理局他

20代半ば、東京の金融機関で働いていた私は、北極圏に行きたくて退職。アラスカで、学生時代を送り米国政府の研究者として約20年間生活した。先住民の狩猟生活、グローバル化の進む現代社会における持続可能な社会、海外でのキャリアなど、共に考えよう。



12月14日 「持続可能な世界への夢を追う」

手島 利夫 (ESD・SDGs推進研究室長)

早稲田大学・青山学院大学卒 前職：江東区立八名川小学校長

東京下町生まれの少年が教育への道に迷い込み、ユネスコスクール、ESD等との出会いを通じて広がった教員人生。ライフヒストリー・デザイン曼荼羅を使いながらお話ししよう。



12月21日 「国際団体の中から外から『事実』を伝える」

佐久間 淳子 (ジャーナリスト)

前職：週刊誌記者、グリーンピース・ジャパン他

高校生時代に報じる者を目指しました。なれはしなかったけれど、新聞記者では追い切れない「事実」があることに気づき、情報発信側である国際環境団体の「広報」に。言葉の壁よりも、先入観の壁のほうが、厄介で面白い！



1月11日 「デジタルマーケティングという仕事を20年やって思うこと」

伊東 周晃 (株)JADE代表取締役

京都大学卒業 前職：(株)ぐるなび他

私の大学生時代に「デジタルマーケティング」という職種は存在しなかったのですが、縁あって約20年の間、その職種で仕事をしてきました。ネットサービスの進化や今後の見通しを語りながら、皆さんの将来の人生の選択に役立つお話ができればと思います。



1月18日 「『ニュース』から世界を見る」

永田 工 (朝日新聞記者)

一橋大学卒業

事件取材する記者としてキャリアを重ね、現在はニュースのデジタル発信に携わっています。東京、福岡、大阪など各地で経験した取材や、インターネットの発達とともに激変する業界の現状をお伝えします。



1月25日 「違う世界が見えている人たちが共に生きる」

伊勢田 哲治 (京都大学教授・哲学)

京都大学 B.A. M.A. メリーランド大学 Ph.D. 前職：ピッツバーグ大学他

福岡の高校から京都の大学へ進み、米国へ留学。住む場所を変えるたびに、背景の違う人達には世界が違って見えていると感じた。違った世界を見ている者同士がどうやって一緒に生きていけるのかというのはわたしの研究テーマです。



2月1日 「円満退社をしたくて渡仏の道を選んで渡ったフランスでの生活」

村井 浩二 (なにわフレンチびざん オーナーシェフ)

前職：(仏)ラ・フェルム・サン・シモン他

どんな料理でも作らせてもらえれば幸せだった社員食堂の18歳。厳しい修行時代から逃れる様に渡仏を決意した25歳。パリの星付きレストランで働いた26歳。現在のオーナーシェフの立場に至るまでを料理を背景に話します。

留学生センター FD 会2022

Faculty Development Meeting for the International Student Center 2022

はじめに

2022年6月27日(月)、留学生センターFD会を開催した。コロナ禍のため、2020年、2021年は開催が見送られていた活動である。今年は、コロナ対策に配慮して、オンラインで実施された。講師は九州大学ハラスメント対策推進室・久桃子氏である。留学生センターから20名程度の出席者(教職員)があり、充実した催しとなった。以下に講演要旨を掲載する。

文責：今井亮一(留学生センターFD委員)

留学生センターFD会2022年度

日時：2022年6月27日(月) 10:30-12:00

場所：オンライン (Zoom)

講演者：久桃子氏(九州大学ハラスメント対策推進室¹⁾)

演題：ハラスメントの基本とその対応

講演要旨

1. ハラスメントの基礎知識
2. 本学のハラスメント相談・防止体制
3. 留学生のハラスメント問題
4. ハラスメントが生じた場合の対応

「ハラスメント」(パワハラ・セクハラ)とは、「受けた人が不快と感じる言動」と定義される。ハラスメントには対価型(従わないと不利益を与えるもの)、環境型(教育環境や職場環境を悪化させるもの)がある。例えば性的少数者に対して「性的志向を言わないように」と指導することはセクハラと認定される。パワハラについては2019年労働施策総合推進法改正において事業主がハラスメント防止措置を講じることが義務付けられるとともに、事業主に相談したことを理由とする不利益取り扱いが禁止された。最近問題化しているハラスメントの一つに、妊娠・出産・育児休業・介護休業等を理由

1 九州大学ハラスメント対策推進室。 <https://ohpc.kyushu-u.ac.jp/>

とするものがある。例えば従業員の妊娠を理由とするハラスメントとしていわゆるマタハラがある。女子大学院生に対し「女性が出産子育てと研究活動を両立させるのは困難」などと発言することもマタハラである。

九州大学では、相談を受けると、ハラスメント対策推進室のコーディネーターが監督者（関係部局等の長）と協議の上、問題を解決する体制が採られている。相談だけで問題が解決されない場合は、相談員を通じて「調査・調整・通知」の申立を行うことができる。「調査」は事実関係の確認である。「調整」は具体的な不利益を取り除くことである。「通知」は相談があったことを相手または部局長に伝えることである。「調査」でハラスメントが認定された場合、相手が処分される場合もある。他方、「調整・通知」では懲戒や処分は行われない。

留学生によるセクハラ相談例として、身体接触、性的発言、つきまといなどに加えて、研究室のPCでわいせつ動画を見る男子学生への苦情がある。これらには「性」に対する伝統文化の違いが背景にあることもある。留学生からのアカハラ相談例はもっぱら、不適切指導（厳しすぎたり、逆に何もしなかったり）や、出身大学に対する「レベル低い」等の暴言、休暇中の一時帰国を認めない、などがある。

ハラスメント対策推進室では、相談員以外に相談内容が漏れないように最大限の注意を払う一方、聴取した事実関係を書面で保存している。相談回数ごとの対応記録も重要である。留学生から相談を受ける場合には、通訳が必要な場合もある。利用可能な制度について英語で関係文書を示すことも行う。留学生の場合、相談先が限られる事情があるので、ハラスメントというより生活上、経済上の問題で相談されることも多い。

九州大学ハラスメント対策ガイドラインは、本学構成員の間で起きたハラスメントに適用されるのみならず、構成員と構成員でない者の間で起きたが、本学の管理下と判断されるハラスメントにも適用される。最近では、本学関係者と外の人間との間でハラスメントが起きることも多い。学内者が加害者、被害者、いずれの場合もある。例えば、共同研究先の教員が本学生に対して行うハラスメントは後者の例である。被害者でなく、第三者から相談がもたらされる場合もある。

最後に、九州大学ハラスメント対策室は、相談者の意思を無視して勝手に動くことはなく、相談者の意思を尊重して、必要な情報提供や助言を行っている。

質疑討論

講演後の若干の時間を利用して質疑討論が行われた。留学生センター教員から、留学生と教員ではなく、留学生間の性的トラブル、ハラスメントにはどう対応すべきか、などの発言があった。